



# 2010 CSRレポート

Corporate Social Responsibility Report

[ web版フルレポート ]

地球と社会と人にやさしい企業を目指して

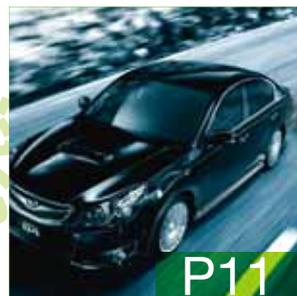


# Contents

**特集1** 5代目レガシィの新しい価値

## スポーティな走りと 省燃費の両立

スバルの持てる技術がふんだんに活かされた5代目レガシィ。その性能について、開発プロジェクトメンバーに迫ります。



**特集2** 大型風力発電システムで貢献

## クリーンエネルギーで 地球温暖化対策

航空技術を活かした大型風力発電システム。その開発の背景や想いを紹介します。



スバルのありたい姿  
「存在感と魅力ある企業」を目指して



**特集3** エコアクション21の認証取得  
～販売特約店の取り組み～

## 環境活動が 行動を変える

栃木スバル自動車株式会社では、2010年3月にエコアクション21の認証を取得。自動車を取り扱う会社としての責務を認識し、環境への取り組みをさらに加速していきます。



**特集4** 統合認証で合理的な  
環境マネジメントシステムを構築

## 乗用車メーカー初の ISO14001 全社統合認証取得

乗用車メーカー初のISO14001全社統合認証を取得。各事業所・製作所の協働により、より合理的なマネジメントシステムの構築を進めています。



- 3 編集方針
- 4 報告メディアの考え方
- 5 トップメッセージ
- 7 CSR・環境担当役員メッセージ
- 8 富士重工業グループの概要
- 9 事業紹介

### 特集

- 11 特集1 5代目レガシィの新しい価値
- 13 特集2 大型風力発電システムで貢献
- 15 特集3 エコアクション21の認証取得  
～販売特約店の取り組み～
- 17 特集4 統合認証で合理的な  
環境マネジメントシステムを構築

### 社会性報告

- 19 CSRマネジメント
- 23 コーポレート・ガバナンス
- 24 リスクマネジメント
- 25 コンプライアンス
- 27 すべてはお客さまのために
- 31 従業員とともに
- 34 社会とのかかわり
- 37 お取引先とともに
- 38 株主の皆さまとともに

### 環境報告

- 39 環境マネジメント
- 43 第4次環境ボランティアプラン
- 45 環境パフォーマンス
- 47 環境会計
- 51 クリーンな商品
- 55 自動車リサイクル
- 58 クリーンな工場
- 61 クリーンな物流
- 62 クリーンな販売・サービス

### サイトレポート

- 63 群馬製作所
- 69 宇都宮製作所
- 75 埼玉製作所
- 79 東京事業所
- 83 本社
- 85 国内関係会社
- 89 海外関係会社
  
- 93 取り組みのあゆみ
- 95 第三者評価
- 96 第三者評価をいただく

2010 CSRレポートは、冊子版とweb版フルレポートを発行しています。報告メディアの考え方については、4ページをご覧ください。

編集方針

本レポートは、富士重工業株式会社・国内関連会社・海外関連会社のCSR(企業の社会的責任)の取り組み成果をご紹介します。お客さま・株主の皆さま、取引先・地域社会・従業員などのステークホルダーと、コミュニケーションを図り、取り組み内容のさらなる向上を目指すことを目的として発行しました。

なお、本レポートは冊子版とweb版フルレポートで構成されています。冊子版では、ステークホルダーにお読みいただきたい特徴的な取り組み成果を記載した「特集記事」を中心にCSR活動の要約を掲載しています。フルレポートでは「特集記事」のほか、「当社グループ全体のCSR活動」、「当社各事業所や関連会社におけるCSR活動」を詳細に掲載しています。冊子版、フルレポートの掲載内容については4ページをご覧ください。

【環境・社会活動で紹介ページのアドレス】

<http://www.fhi.co.jp/about/envi/report/index.html>

また、本レポートの内容につきましては、2007年度版から引き続きCSRコンサルタントの海野氏(株式会社創コンサルティング代表)に第三者評価を依頼しました。これは当社が「社会的責任を全うする企業」を目指した取り組みを進めるうえで、役立つ意見、評価を継続的にいただきたいと考えたからです。この評価書は本レポート95ページに記載しています。

対象範囲

対象企業

富士重工業株式会社(主要な生産・開発拠点の所在地)

- スバル自動車部門  
[群馬製作所(群馬県太田市ほか)、東京事業所(東京都三鷹市)]
- 産業機器カンパニー[埼玉製作所(埼玉県北本市)]
- 航空宇宙カンパニー[宇都宮製作所(栃木県宇都宮市、愛知県半田市)]
- エコテクノロジーカンパニー[宇都宮製作所(栃木県宇都宮市)]

国内関係会社(国内関連企業部会参画の5社)

- 輸送機工業株式会社(愛知県半田市)
- 富士機械株式会社(群馬県前橋市)
- 株式会社イチタン(群馬県太田市)
- 桐生工業株式会社(群馬県桐生市)
- 株式会社スバルロジスティクス(群馬県太田市)

海外関係会社(北米環境委員会参画の5社)

- S I A:Subaru of Indiana Automotive,Inc.(インディアナ州ラファイエット)
- SOA:Subaru of America,Inc.(ニュージャージー州チェリーヒル)
- SC I :Subaru Canada,Inc.(オンタリオ州ミシサーガ)
- SRD:Subaru Research & Development,Inc.(ミシガン州アンナーパー)
- RMI:Robin Manufacturing U.S.A.,Inc.(ウィスコンシン州ハドソン)

上記関係会社以外にも、国内スバル販売特約店やSOC(スバルオブチャイナ)の活動状況などを紹介しています。

対象期間

2009年度(2009年4月~2010年3月)の実績と一部それ以前の取り組みや本レポート発行直前までのものを含みます。

参考としたガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン(2007年度版)」

本レポートに関するお問い合わせ先

富士重工業株式会社 総務部 環境推進室  
〒160-8316 東京都新宿区西新宿一丁目7番2号 スバルビル  
TEL 03-3347-2036 FAX 03-3347-2015

発行時期

前回発行：2009年8月  
今回発行：2010年8月  
次回発行予定：2011年8月

「2009 CSRレポート」第三者評価への対応について

2009年度版でいただいた第三者評価に対しては次のように取り組んでいます。

【CSR活動全般】

- 社員全員がCSRの意識を持ち続けていくよう、継続して取り組むこと。
  - 自動車メーカーとしてどのような課題に重点を置いていくのか、CSRボランタリープランの中で具現化していくこと。また、海外の主要サイトを含めて、計画~レビューまで行っていくのが望ましい。
- ※2009年度は、既存の組織でCSR活動を推進するとともに、今後のCSR推進組織の改正の検討を進めてきました。このなかでは海外を含めた弊社グループの活動をCSRボランタリープランに織り込んだものとすべく活動を推進していきます。

【トピック別の活動】

- サプライヤーへのCSR展開、CSR調達への対応を進めること。
- ※CSRに関する世の中の動きや業界動向との整合性を踏まえながら、2011年度にCSR調達ガイドライン設定に向けた取り組みを進めています。

- 「お客さま第一主義」意識が社内に広がっていることがうかがえる。今後は、海外を含めた特約店に対する意識啓発を深める仕組みを活性化させること。

※2009年度、海外販売特約店CS向上のための要員を増強しました。また今回の2010年度版では海外での取り組み紹介を増加させています。今後も継続的に紹介していきます。

- CSR活動3つの柱として掲げている「環境、交通安全、地域貢献」について、より明確に意識して展開を進めること。

※特に「交通安全」対応については、まだまだ紹介の仕方が不明確な点があります。今後も大きな検討課題として取り組んでいきます。

【報告の媒体と内容】

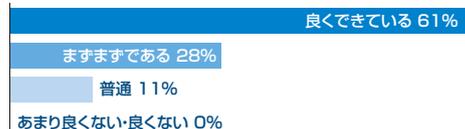
- 2009年度版から冊子の報告とweb詳細報告とを区別し、内容を整理されたが、まだ検討すべきところが多々あると考えられるので、今後とも検討を続けること。

※2010年度版では、冊子報告のさらなる掲載項目の絞りりとweb報告の充実化を進めました。今後も継続的に改善を進めていきます。

「2009 CSRレポート」アンケートで協力のお礼とご報告

「2009 CSRレポート」(2009年8月発行)のアンケートにご協力いただきましてまことにありがとうございました。多くの方からご回答をいただき、2010年度版の参考にさせていただきました。結果についてご報告いたします。

1.本レポートをご覧になり、内容はいかがでしたか。



2.特に関心を持たれた部分

- 1位 特集記事
- 2位 トップメッセージ、環境マネジメント
- 4位 会社概要

3.今後、内容の充実を望まれる情報や当社の活動に関するご意見など

- ディーゼルエンジンや電気自動車の市場評価が知りたい。
- 燃費の向上をもっと大きく扱ってほしい。
- 障害者の雇用状況をもっと詳しく記してほしい。
- リコール問題が米国を中心に大きくなっている。不具合を隠蔽させない体制をどの様に行っているか紹介してほしい。
- 項目分けがはっきりしていて分かりやすく、また分量も増え、CSRに関心を強く持っていることが伝わった。特に環境活動はデータが豊富で、成果が分かりやすかった。
- 「環境、交通安全、地域貢献」について、グループ全体として具体的にどんな行動をしているのかをもっとわかりやすく紹介してほしい。



## web版フルレポート(PDF)

下記すべての情報を掲載し、  
当社グループのCSR活動を網羅的に紹介しています。[全96ページ]



## 冊子版

当社グループのCSR  
活動をポイントを絞って  
掲載しています。  
[全38ページ]



### はじめに

編集方針  
報告メディアの考え方  
トップメッセージ  
CSR・環境担当役員メッセージ  
富士重工業グループの概要  
事業紹介

### 特集

**特集1:5代目レガシの新しい価値**  
スポーティな走りと省燃費の両立

**特集2:大型風力発電システムで貢献**  
クリーンエネルギーで  
地球温暖化対策

**特集3:エコアクション21の認証取得**  
～販売特約店の取り組み～  
環境活動が行動を変える

**特集4:統合認証で合理的な**  
**環境マネジメントシステムを構築**  
乗用車メーカー初の  
ISO14001 全社統合認証取得

### 社会性報告

CSRマネジメント  
コーポレート・ガバナンス  
リスクマネジメント  
コンプライアンス  
すべてはお客さまのために  
従業員とともに  
社会とのかかわり  
お取引先とともに  
株主の皆さまとともに

より詳細な情報を  
webに掲載しています

### 環境報告

環境マネジメント・環境会計  
第4次環境ボランティアプラン  
クリーンな商品  
自動車リサイクル  
クリーンな販売・サービス

より詳細な情報を  
webに掲載しています

第三者評価  
第三者評価をいただいて

web版フルレポートのみに掲載している情報

### 環境報告

クリーンな工場  
クリーンな物流

### サイトレポート

群馬製作所  
宇都宮製作所  
埼玉製作所  
東京事業所

本社  
国内関係会社  
海外関係会社

取り組みのあゆみ



## 「社会的責任を全うする企業」、 「存在感と魅力ある企業」の実現とともに、 CSRの取り組みをグローバルに推進してまいります。

まずは、本書に関心をお持ちいただきましたステークホルダーの皆さまに感謝申し上げます。

私たちスバルでは、環境活動をCSR活動の最重要項目として認識するとともに、これらの社会問題に対処することが「企業市民」として私たちが果たすべき使命であると考え、持続可能な社会の実現に向け、スバルグループ全体での取り組みを進めております。

地球温暖化防止に関するグローバルな動きとしては、2010年11月、メキシコの首都メキシコシティにおいて、気候変動枠組条約第16回締約国会議(COP16)が開催され、京都議定書に続く、2013年以降の国際的温暖化対策の検討が予定されています。

一方、わが国では、2010年3月12日に地球温暖化対策基本法案が閣議決定され、2020年に1990年比25%削減、2050年には1990年比80%削減という温暖化ガス削減の中長期目標が定められました。

スバルでは、事業活動が地球環境に与える影響を強く認識して、自動車業界を中心に産業界との連携を図りながら、より一層の地球温暖化対策に取り組んでまいります。

具体的には、2007年度から2011年度までの取り組みである「第4次環境保全自主取り組み計画」の達成に向け、クルマを中心とした輸送機器メーカーとして低炭素社会の実現と地球温暖化防止などのさまざまな社会問題に対し、商品開発から生産、物流、販売、自動車リサイクルに至る事業活動のあらゆる段階を通じて、これまで以上に積極的な取り組みをグループの総力をあげて進めてまいります。

スバルの開発においては、「快適、信頼の新しい走り」と地球環境の融合を目指しています。従来のエンジンに対して10%以上の燃費改善を行った新しい水平対向エンジンの開発や、CVT(リニアトロニック)との組み合わせ等により更なる燃費改善を行います。また、電気自動車やハイブリッド車も重要な技術のひとつとして位置づけ、2009年6月に電気自動車(プラグイン ステラ)の法人・官公庁向け販売を開始いたしました。ハイブリッド車につきましても、市場導入に向けて開発を進めております。

また、CSRに関するグローバルな動きとしては、2010年秋にISO(国際標準化機構)によるSR(Social Responsibility)規格26000が発行され、社会的責任に関する国際的なガイドラインが制定される予定です。

スバルでは、中期経営計画において、経営ビジョンの一つとして「社会的責任を全うする企業」を掲げ、長期的な経営ビジョンである「存在感と魅力ある企業」を実現するとともに、これらのグローバルな動向も踏まえながら、さまざまなステークホルダーの皆さまから信頼いただける企業を目指して、CSRの取り組みをグローバルに推進してまいります。

2010 CSRレポートを通じて、スバルグループのさまざまな取り組みをご理解いただくとともに、忌憚のないご意見をちょうだいできれば幸甚でございます。

代表取締役社長

森 郁夫

現在推進しております中期経営計画の経営ビジョンに「社会的責任を全うする企業」を掲げております。輸送機器メーカーである当社は、お客さまにご満足いただける商品開発、製造、販売を通じて、さまざまなステークホルダーの皆さまに対する社会的責任があります。その社会的責任を全うするという事は、地球環境にやさしい商品の創出と経済状況の変化に対処し得る企業をつくり上げることにほかなりません。

当社では、環境活動をCSRの重要項目として位置づけ、全事業所でISO14001(環境マネジメントシステム)の認証を個別に取得し、積極的な環境保全活動を推進してまいりました。2010年2月には、これまで事業所別に取得してきたISO14001の認証を、富士重工業として全事業所と一部のグループ企業を統合して取得いたしました。このISO14001の統合認証により、温暖化対策、省エネルギー対策、環境情報管理や環境法令対応などの一元管理を可能とし、スバルグループにおける環境活動のレベル向上を図りました。また、この統合認証の取得に伴い、2010年3月に環境方針を改定いたしました。新たな環境方針では、事業活動におけるあらゆる段階での環境取り組みを示し、グループ全体で一貫性のある環境保全活動の方向を定めました。

一方、CSR活動においては、2009年6月にCSRの基本的考えである「守りと攻めのCSR」をより明確にするとともに、グローバルな展開を視野に入れ、CSR方針を改定いたしました。お客さまに喜んでいただけるモノづくり企業として、「企業行動規範や重要項目の尊重を主体とした守りのCSR」と「企業市民として事業活動を通じて社会課題の解決に寄与することを主体とした攻めのCSR」への取り組みをCSR方針として定め、CSR活動を推進しております。

2007年に制定した、グループ共通のCSR活動3つの柱(1.環境活動 2.交通安全活動 3.地域貢献活動)については、CSR活動に対する理解の啓発、浸透を図るため、従業員一人ひとりの個人レベルの取り組みとして、全事業所において積極的な活動を推進しており

ます。さらに、2008年からグローバルな推進体制として構築した北米CSR委員会では、当社方針の展開と北米各社間の情報共有を踏まえつつ、それぞれの地域の文化、習慣などの特質を尊重したさまざまなCSR活動の取り組みを進めております。

当社には、クルマを中心とした輸送機器メーカーとして、環境問題、交通安全、地域貢献を中心にさまざまな社会的責任があります。その重大な責務に対して、すべての企業活動を通してグローバルな取り組みを推進していきたいと考えております。

今後とも、スバルをよろしくご願い申し上げます。

代表取締役副社長

奥原一成



## 会社概要 (2010年3月31日現在)

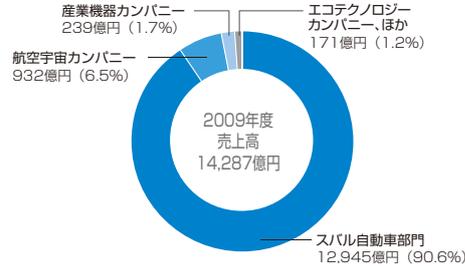
社名 富士重工業株式会社  
(Fuji Heavy Industries Ltd.)  
 創立 1953年7月15日  
 資本金 1,537億円  
 従業員数 27,586名(連結)  
 13,009名(単独)  
 本社 〒160-8316  
 東京都新宿区西新宿一丁目7番2号  
 代表電話番号 03-3347-2111

売上高 14,287億円(連結)  
 9,521億円(単独)

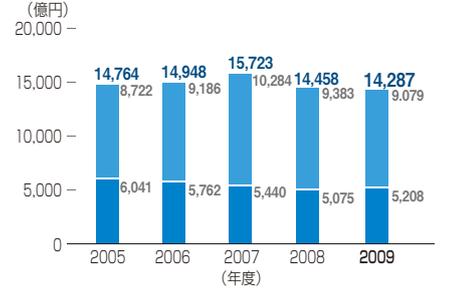
営業利益／  
 損失 ▲125億円(単独)  
 経常利益／  
 損失 ▲126億円(単独)  
 当期純利益／  
 損失 ▲165億円(連結)  
 ▲322億円(単独)  
 連結子会社 国内51社、海外20社  
 持分法適用の子会社 国内6社、海外3社

\*売上高～当期純利益／損失の数値は2009年度実績です。

## 2009年度売上高部門別比率(連結)



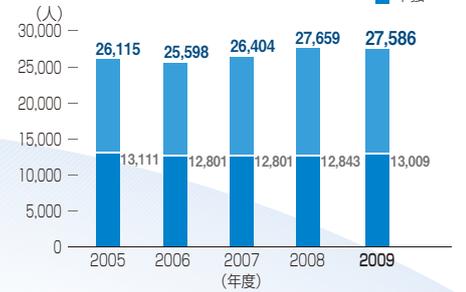
## 売上高推移(連結)



## 販売台数の推移(連結)



## 従業員数の推移



\*グラフの数値は四捨五入のため、比率の総和が合わない場合があります。

## 主な拠点紹介



\*1 本レポートでは、航空宇宙カンパニーとエコテクノロジーカンパニーの生産拠点を「宇都宮製作所」と、また、産業機器カンパニーを「埼玉製作所」と表記している場合があります。

# 独創的な先進技術で、 時代のニーズに対応した商品を開発・製造

富士重工業株式会社は、スバル[SUBARU]ブランドのもと、クルマを中心とした輸送機器メーカーとして4つの事業部門を展開しています。「スバル自動車部門」「航空宇宙カンパニー」「産業機器カンパニー」「エコテクノロジーカンパニー」。その独創的な先進技術と個性により、快適で楽しい未来の創造に貢献します。



ルクラは、「快適・広々空間のスタイリッシュモデル」をコンセプトに、日常生活のさまざまなシーンで活躍できる軽乗用車として、2010年4月に発売されました。なおルクラは、ダイハツ工業よりOEM供給を受けるモデルです。

SUBARU Automotive Business

## スバル自動車部門

### 「すべてはお客さまのために」という姿勢で商品を提供

所在地 群馬製作所(群馬県太田市、伊勢崎市、邑楽郡大泉町)  
東京事業所(東京都三鷹市)

当社は1958年に「スバル360」の発売で自動車メーカーとしてスタートを切って以来、日本の自動車産業の発展に寄与する個性的なクルマを送り出してきました。例えば、「スバル360」は、航空機づくりの思想をふんだんに採り入れた精緻なパッケージング、徹底した軽量化に斬新な技術的特長がありました。1966年に発売した「スバル1000」は、当社の個性ともいえる水平対向エンジンを搭載。量産車として先駆けとなる前輪駆動(FF)レイアウトを採用しました。

1972年、世界初の乗用四輪駆動車を発売。以後当社は、このレイアウトを「シンメトリカルAWD※1システム」として確立してきました。1990年代以降、日本ではハイパワーターボエンジンと四輪駆動を組

み合わせた高性能ステーションワゴン、米国では乗用車の快適性とSUVの機能性を融合させた「クロスオーバー」※2という分野を切り開いてきました。

当社は、「ドライバーズカー」として快適で楽しい走りと地球環境との融合を約束するクルマの開発を続けています。

地球環境への配慮と実用性を兼ね備えた、これからの時代にふさわしい電気自動車を目指して。プラグインステラは、ビジネスや日常での利便性を追求し、短い充電時間で効率よく走れるバッテリー量を選定するなど、シティ・コミューターとしての最適なバランスを実現した電気自動車です。



2009年5月に発売された5代目レガシィは、「新しい時代にふさわしい豊かさの提供」というテーマを具体化するため、20年間磨き上げてきたグランドツーリング性能に加え、快適性と環境性能を併せ持つクルマとして開発されました。

#### 国内関係会社

**富士機械株式会社**(群馬県前橋市)  
事業内容:自動車部品・産業機械・農業用トランスミッションの製造、販売

**株式会社イチタン**(群馬県太田市)  
事業内容:自動車・産業機械用鍛造品の製造、販売

**桐生工業株式会社**(群馬県桐生市)  
事業内容:スバル特装車の製造、スバル用部品の物流管理・スバルエンジン・トランスミッションなどの再生

**株式会社スバルロジスティクス**(群馬県太田市)  
事業内容:自動車およびその部品の梱包、出荷、陸送業、倉庫業、整備業、保険代理店業

#### 海外関係会社

**SIA: Subaru of Indiana Automotive, Inc.**  
スバル オフ インディアナ オートモーティブ インク  
(インディアナ州ラファイエット)  
事業内容:米国におけるスバル車の製造、トヨタ車の受託生産

**SOA: Subaru of America, Inc.**  
スバル オブ アメリカ インク  
(ニュージャージー州チェルシー)  
事業内容:米国におけるスバル車および部品の販売、整備

**SCI: Subaru Canada, Inc.**  
スバル カナダ インク  
(オンタリオ州ミシサーガ)  
事業内容:カナダにおけるスバル車および部品の販売、整備

**SRD: Subaru Research & Development, Inc.**  
スバル リサーチ アンド ディベロップメント インク  
(ミシガン州アンナーバー)  
事業内容:北米市場におけるスバル車の研究開発

※1 AWD  
All Wheel Drive 四輪駆動。

※2 クロスオーバー  
1995年8月ステーションワゴンにSUVの機能性を融合させたスバルアウトバックを発売。

Aerospace Company

## 航空宇宙カンパニー

# 航空機づくりの技術とスピリットを伝承

所在地 | 宇都宮製作所(栃木県宇都宮市)  
半田工場(愛知県半田市)

1917年に創設された航空機メーカー「中島飛行機」。航空宇宙カンパニーはその航空機づくりの技術とスピリットを受け継ぎ、主翼などの複合材を含む航空機構造体の開発技術や、無人機分野でのIT技術、飛行制御技術を融合した高度システムインテグレーション技術など、さまざまなカテゴリーでナンバーワン技術

を確立しています。その技術を応用し、ヘリコプター、固定翼機、無人機の開発・生産を行っています。

さらに、大型旅客機や小型ジェット機の開発・生産にも参画。世界レベルでの発展を目指して、新たな分野に積極的に挑戦しています。

**国内関係会社** 輸送機工業株式会社(愛知県半田市)  
事業内容:航空機部品の製造、販売

Industrial Products Company

## 産業機器カンパニー

# 地球のあらゆる場所で使われる汎用エンジンを量産

所在地 | 埼玉製作所(埼玉県北本市)



EH72FIは、吸気流量の向上を図り高出力化を実現するとともに、新開発の電子制御燃料噴射システムを採用することで、外気温や空気濃度など外的要因に影響を受けにくい高性能次世代汎用エンジンです。始動性や運転性、燃料噴射マネジメントの最適化により燃費性能・排ガス性能の向上や加減速時における機敏な反応を実現しました。

産業機器カンパニーでは、「ロビン」ブランドの汎用エンジンとロビンエンジンを搭載した商品を開発・生産・販売しています。ロビンエンジンは2,000種類以上の豊富なラインナップでお客さまのニーズに応え、社会の基盤をつくる建設機械

**海外関係会社** RMI : Robin Manufacturing U.S.A., Inc.  
ロビン マニュファクチャリング USA インク  
(ウィスコンシン州バドソン)  
事業内容:米国における汎用・四輪バギー・ゴルフカート用のエンジンの製造、販売

や農業機械をはじめ、豊かな生活を彩るレジャー機器、発動発電機などで愛用されています。酷暑、極寒、砂漠、水上など地球上のあらゆる場所、使用条件で安定的に働き続けるため、性能向上に努めています。



eCutterプロは、排気ガス削減や騒音、振動に配慮した環境配慮型の充電式草刈機です。また最新のリチウムイオンバッテリーを採用することで高出力、長寿命を実現しました。

Eco Technologies Company

## エコテクノロジーカンパニー

# 住みよい環境と資源循環型社会に貢献

所在地 | 宇都宮製作所(栃木県宇都宮市)

エコテクノロジーカンパニーは、廃棄物の収集運搬やリサイクル処理のための各種車両・装置など、住みよい環境と資源循環型社会に貢献する多様な製品を手がけています。またクリーンなエネルギーを生み出す風力発電システムを開発し、製品を通じて地球環境保全に取り組んでいます。

また、世界で初めて実用化した高層ビル無人清掃ロボットの技術は、屋外型清掃ロボットやごみ搬送ロボットの実証実験に応用されています。

高速道路のサービスエリア・パーキングエリアの休憩施設を自動で清掃する「サービスエリア清掃ロボットシステム」をNEXCO中日本と共同で開発しました。今後、お手洗いやレストランなど営業施設内の清掃への導入を計画しています。



富士重工業が長年培った航空機技術の魂と、地球環境に対する真摯な思いが、新たな発想の風力発電システムを生み出しました。日本の厳しい自然環境のなかで、より効率的なパフォーマンスを発揮します。

2010年4月に発売された電動式塵芥収集車フジマイティーエレクトラは、廃棄物の収集や排出などの作業をシールドバッテリーを動力源とした専用モーターで行うため、エンジンを停止させることができ、作業時の二酸化炭素の排出量や消費燃料、騒音などを大幅に削減することが可能です。



# スポーティな走りと 省燃費の両立

1989年に初代レガシイがデビューしてから二十年余。独自の世界観を創出し続けてきたレガシイも、2009年のフルモデルチェンジで5代目となりました。レガシイらしい“走り”を維持・向上させることはもちろん、地球温暖化など社会的に求められるさまざまな課題に対しても、スバルの技術や性能がふんだんに活かされています。レガシイに込められたエコロジー性能についてプロジェクトメンバーに迫ります。



スバル商品企画本部  
プロジェクト  
ゼネラルマネージャー  
**熊谷 泰典**

開発当初は、コンセプト立案・企画の取りまとめにかかわり、開発全体の推進を行う。初代レガシイから外装や車体設計の担当として携わる。

スバル技術本部  
車両研究実験総括部  
部長  
**芝波田 直樹**

開発当初から目標性能立案、試験計画、実験業務推進など、車両性能の取りまとめを行う。プロジェクトチーム段階から熊谷とともに構想。初代レガシイからさまざまな形でかかわる。

スバル技術本部  
車両研究実験統括部  
主査  
**山本 憲一**

新型レガシイのエンジン、トランスミッションの性能開発に携わる。従来モデルより定評のある“走り”の絶対性能と、環境性能を両立させるための開発に取り組む。

スバル商品企画本部  
主査  
**北原 昇**

アメリカで開発・製造の調整部分でレガシイに携わる。3年ほど前に帰国し、新型レガシイ開発プロジェクトに合流。アメリカでの経験を活かし商品企画として携わる。



## だれもが心地よく走りを 愉しめるクルマ

生誕20周年を迎えた5代目となる新型レガシイは、昨今の経済不況や地球温暖化問題等の時代に求められるもの、またお客さまの声などに対応し、新しい価値の創出に挑みました。

5代目レガシイの特長は、3つのコンセプト「ドライバーズファン」(ドライバーに、走りの喜びを)、「パッセンジャーズファン」(乗る人すべてに、旅の喜びを)、「エコパフォーマンス」(クルマを、心から愉しむために)の3本柱からなります。そこに至るまでに、5代目レガシイを思案するにあたり、4代目も含めた旧型を愛用していただいているお客さまや他路に行ってしまったお客さまに直接お会い

したり、web等で5代目に期待することを調査しました。そこで認識できたのが、運転者である自分が運転を愉しむだけでなく、隣や後ろに同乗する方々までが心地よくくつろげるクルマを求めているということ。レガシイの販売市場7割を占める北米・欧州のお客さまのなかには、車内に窮屈さを感じ、購入を諦めるという方がいるということもわかりました。そんなお客さまの価値観の変化を感じとり、5代目レガシイでは、「パッセンジャーズファン」にあたる“快適な室内空間”を具現化することが課題となりました。

## 3つのコンセプトの融合

レガシイは、初代から「ターボエンジン」「シンメトリカルAWD」といった独

自の魅力“走りの喜び”を引き継いできました。5代目レガシイでは、ボディサイズを大きくし、“快適な室内空間”の実現を図るとともに、本来のレガシイの走り、そしてエコとの両立が求められたのです。燃費は、ほかの性能と背反するところがあり、そのバランス調整に苦労しました。

余裕のある走りを実現するために、ベースエンジンは2.0ℓから2.5ℓに変更しましたが、レガシイ本来の性能は維持しつつ、実用燃費をよくするため、次世代のトランスミッション「リニアトロニック」を採用しました。この組み合わせが、必要以上のアクセル操作を抑え、気持ちよい走りを可能にし、かつ2.0ℓ時より約10%以上の省燃費を実現しました。



運転者の環境意識ひとつでも燃費は変わってきます。フォレスターなどに採用されてきた「Info-ECOランプ」\*1や2006年からレガシィで採用した「ECOゲージ」\*1で、普段から燃費を意識していただくことや、3段階のドライブモードからダイヤルひとつでモードを選ぶことができる「SIドライブ」\*2も全車\*3に搭載しました。例えば最も燃費を意識した走りを可能とする「インテリジェント・モード」は、渋滞や市街地走行などの場面に適しています。

また、燃費や排出ガスなど環境対応の開発は最優先項目のひとつです。対応コストや投資、開発工数を勘案し、開発部門以外も含めたプロジェクト全体でほかのコストを下げながら環境対応に開

発資源を重点配分することで、車両全体の最適化を図りました。

開発時の試作車についても、費用面や使用後の廃棄物削減も考慮し、試験目的に応じた最小限の台数と装備品に絞り、例えば試験車によっては塗装も中塗りや上塗りは廃止するなど、徹底した最小化を図りました。1台を極力使いまわして複数の試験に供することも含めて、先代の約半分の台数で抑える努力をしました。

### DNAは受け継がれる

レガシィシリーズは、「日本カー・オブ・ザ・イヤー2009-2010」特別賞「Best Value」を受賞することができ

\*1 Info-ECOランプ、ECOゲージ  
ドライバーにエコドライブ状態を知らせるランプ、メーター。

\*2 SIドライブ  
使う人やドライビングのシーンに応じて3種類の性能(Intelligent:インテリジェントモード、Sport:スポーツモード、Sport Sharp:スポーツシャープモード)を使い分けることができるシステム。

\*3 ECOゲージは国内外全車に採用、SIドライブは日本国内のみ全車に採用。

### ベースエンジンを2.5ℓ化

これまでの2.0ℓエンジンがラインナップから消え、大きくなったボディや車格に見合った2.5ℓNA&ターボエンジン、6気筒となる3.6ℓNAエンジン(アウトバックのみ)の3種類が取り揃えられました。すべてのエンジンで「平成17年基準排出ガス75%低減レベル」を達成。特にターボエンジンは構造を大胆に刷新することで、力強い走りや環境性能を両立しました。



### リアアトミック

トランスミッションに、縦置きAWDとしては世界初のチェーンドライブ式CVT(無段変速機)を採用。金属ベルトではなくチェーンを採用し、コンパクトながら幅広い変速範囲を可能とし、トルクの伝達効率を高めました。エンジンと協調制御させることでエンジン効率の一番よい状態を保ち、自然な走行、省燃費を可能にしました。



日本カー・オブ・ザ・イヤー  
2009-2010

特別賞 Best Value

ました。さまざまな性能や付加価値を向上させたい一方で、価格を抑えたことを評価していただきました。ハイブリッド車が注目される時代にガソリン車でありながら「Best Value」をいただけたのは、スバルらしい誠実で愚直な取り組みが結果したからだと思います。発売から1年。5代目レガシィは、乗り味や室内空間、燃費に関してお客さまから大変よい反応をいただいています。

5代目レガシィもそうですが、年々性能や技術は向上しています。その積み重ね、継続がレガシィの歴史であり価値です。今後は、時代の流れからも「ハイブリッド」は無視できない存在となってくるでしょう。当社としては「乗って楽しいクルマづくり」を念頭に、どのようにハイブリッドのよいところと、当社独自の技術をコラボレーションし、具現化するかが課題だと考えています。社会や時代背景、ユーザーの声をきちんと反映し、お客さまによくなったと思いつけてもらえるようなクルマをつくり続けていきます。

# クリーンエネルギーで地球温暖化対策

スバルのエコテクノロジーカンパニーでは、航空宇宙カンパニーでつちかっただ技術力を活かし、風力発電システムを展開しています。クリーンエネルギーの可能性が世界的に注目を集めるなか、商品を通じて環境保全に取り組むことは、自動車メーカーとしての使命であると考えています。ここでは開発の背景や想いをプロジェクトメンバーの方にうかがいました。



エコテクノロジーカンパニー  
風力発電プロジェクト  
小野 勉

エコテクノロジーカンパニー  
風力発電プロジェクト  
プロジェクトマネージャー  
白石 崇

## 風力発電事業を取り巻く現状

近年、自然エネルギー事業は、資源・エネルギー保護や環境保全の観点からその可能性が注目されています。その一方、経済的に成立しないものが多いなかで、風力発電は唯一成り立つ自然エネルギー事業といわれています。

風力発電の発祥は、19世紀のヨーロッパです。広大な土地と豊かな風に恵まれた地理的な要因もあり、ヨーロッパは世界の風力発電事業をリードしてきました。現在、日本でも風力発電機器の8割は輸入に頼っています。輸入率の高い市場に、国産として参入したいのです

が、特有の気候のため、難しい点があります。平野が少なく丘陵や山地の多い日本は、世界でも有数の強い落雷の地域でもあり、風力発電事業において避けられない課題が多く存在していました。

## 既存の技術を活かし、新事業の展開へ

当社は1996年から風力発電システムの開発に取り組み始めました。もともとは、若手メンバーによる新商品開発を目的とした小集団活動が始まり。さまざまな開発を試みたなかで、事業化できたのが風力発電システムでした。数人で始めたプロジェクトは勉強会の開催や大学との共同研究によって、基礎的な技術を

蓄積していきました。

風力発電施設の運営には、非常に高度な電子制御技術を要します。発電機やブレードの角度はもちろん、無人施設のため、電力や風力を計測する遠隔監視システムにも電子制御技術が用いられます。そして、それらの技術は基本的に航空技術の応用によって対応できるものでした。例えば、ブレード製作の技術や流体力学に加えて、電子制御や発電機といった風力発電システムに必要な技術が、当社の航空技術には揃っていました。

大型の風力発電システムの稼働率は95%を求められます。それを維持するには、1ヶ月に1.5日程度しか停止でき



### 発電機定格出力2MW級 SUBARU80/2.0

2MW級の大型風力発電システムでは、3枚のブレードからなる直径80mにも及びローターが回転することによって、電気が生み出されるのです。

\*左の工場内の写真は大型機のナセル部分です。

ません。そこで、高度な故障診断機能のほか、予防整備としてオイルや部品の交換時期を判断するシステムも準備を進めています。こうした技術は年々高度化しており、常に技術革新し続けていく必要があります。

### 信頼ある製品開発と さらなる展開に向けて

現在、当社は国内を中心に製品を納入しています。事業展開のためにはクリアすべき課題も多く、そのために複雑地形の流体計算による風況予測や疲労強度計算を実施しました。その結果、ローターがタワーの後ろに設置されているダウンウィンド方式を採用することによ

り、正面から風があたって出力が向上するという利点に気づいたのです。また、製品開発の際は日本特有の気候にも着目。当社は、強い落雷にもプロペラが割れたり先端が飛ばされたりしない設計方法を導入している、世界的にも数少ないメーカーなのです。今後は新たな分野として、洋上風力発電の展開も考えています。海洋生物への影響を配慮し、最小限の海上利用で済む製品開発を目指しています。風力発電事業は、地球温暖化防止に向けた切り札のひとつです。継続的、持続的に展開し続けられる自然エネルギーを供給するために、今後も大型風力発電システム事業を継続していきます。

当社は、輸送機メーカーとして、排出ガス削減や燃費の改善といった環境問題に対する責任を、これからも果たしていかななくてはなりません。そのなかで大型風力発電システムの開発は、メーカーとしての使命を果たす新たな可能性を秘めています。いずれは、大型風力発電システムで作り出した電力で、当社の電気自動車が行く日が来るかもしれません。今後も、当社はその技術力によって環境保全に対する責任を果たし、自然環境と共存しながら歩いていくメーカーであり続けたいと考えています。



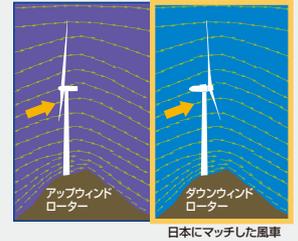
エコテクノロジーカンパニー  
風力発電プロジェクト プロジェクトゼネラルマネージャー  
**村松 秀敏**

地球規模のエネルギーと環境の問題に対する解決策として、再生可能エネルギーの高度利用があります。私たちスバルは、エネルギーを利用する商品だけでなく、そのエネルギーをつくり出す商品も提供することで、社会と環境に貢献していきたいと考えています。その取り組みのひとつが「風力発電」です。SUBARUダウンウィンド風車の普及拡大により、地球環境にやさしく持続可能な社会を目指していきます。

## SUBARU80/2.0風力発電システムの特長

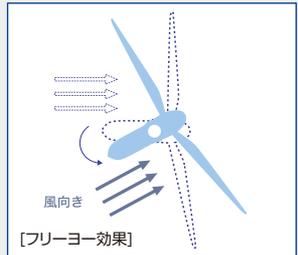
### 【ダウンウィンド方式】

ダウンウィンド方式とは、吹き上げ風の多い土地でも効率よく風の力を吸収するために風下にローターをつける方式です。一般的な風力発電では風上にローターをつけますが、当社では、山岳や丘陵などの立体地形が多い日本にマッチした風車をつくるために、この方式を採用しました。



### 【フリーヨー効果】

ダウンウィンド風車には、風見鶏のようにローターを自然と風下に向ける、「フリーヨー効果」があります。これにより、暴風雨などの場合には自然と風を受け流すことができるようになり、安全が確保されています。



### ■SUBARU80/2.0 風力発電

[2010年3月までの実績と  
4月以降の建設予定地]





特集 3

エコアクション21の認証取得  
～販売特約店の取り組み～

# 環境活動が 行動を変える



商工会議所 小関理事(左)から  
認証状を授与される小平社長(右)

2010年3月18日、栃木スバル自動車株式会社(以下、栃木スバル)では環境への取り組みの一環として、『エコアクション21\*1』の認証を取得しました。お客さまの環境意識が高まるなか、エコカーの普及と同時に、事業所や整備工場でも環境への取り組みが重要視される時代になってきています。ここでは、エコアクション21の認証取得に大きく携わった6名にお話をうかがいました。

\*ほかの販売特約店の認証取得情報はP62に掲載しています。

## 取得を皮切りに環境活動と販売をさらに加速させる

自動車を取り扱う栃木スバルにとって、環境への取り組みは重要な責務であると考えています。経費削減が見込めることはもちろん、社会の一員として

果たすべき環境活動の一環として、この度エコアクション21の認証取得を決定しました。決定後は、拠点長と各部門の責任者が集まる定例会議で、進め方や拠点ごとの数値目標、各部門

の役割等を話し合い、その内容は各拠点でくり返し伝え、浸透させていきました。

エコアクション21の認証取得はゴールではなく、スタート地点と考えています。1年後、2年後の審査でどのくらいの成果を出せるかが重要です。そのために、さまざまな活動を徐々に定着させ、全員でPDCAを回していけるような仕組みをつくっていきます。また社会貢献の観点から、地域の清掃活動などにも積極的に取り組んでいきたいと思

そして、自動車販売会社としてエコ



カーの販売が最大の貢献活動だとも考えています。エコアクション21の認証取得が販売促進に一役買ってくれることを期待し、今後はお客さまに積極的にアピールしていきたいと思



専務取締役  
谷 定夫



総務部総務課  
課長  
柴崎 重美

\*1 エコアクション21  
環境への取り組みを効果的、効率的に行うことを目的に、環境省がISO14001をベースに策定したガイドライン。

## 取り組みの見直しとさらなる向上へ

栃木スバルでは、以前から環境への取り組みを行っています。工場では毎朝清掃を行い、油脂類の取り扱いに関しては、消防法や水質汚濁防止法に基づき細心の注意を払っています。

エコアクション21の認証取得には国で決められたさまざまな法令をこれまで以上に順守する

必要があると考えていました。しかし、従来の活動に新しい取り組みが追加される形だったことや、取得前も厳しい法律を順守しながら仕事を進めていたことなどがあり、従業員への浸透は思ったよりもスムーズでした。

また、これらの取り組みは今までの行動を見直す良い機会となりました。クル

マの安全性・適法性を重視した『道路運送車両法』を基準に行動していましたが、ごみの適正な分別や保管、収集、処分などを定めた廃棄物処理法や消防法への意識も高まりました。廃棄物処理法で定められた分別方法は廃棄物を再利用することが主な目的ですが、ひとりが分別を怠ると意味がありません。“全員が取り組んでこそ達成される”という意識が、今回の取り組みをきっかけに、従業員に芽生え始めているのは素晴らしいことです。

有機溶剤やガソリンの保管・管理方法についても消防法を学ぶことで改善が進みました。整備工場内の清掃も、今以上に磨きがかかっていくと感じています。



サービス部技術課  
課長  
中田 勝久

常務取締役  
伊藤 方雄

サービス部  
部長代理  
根本 敏弘

## 数値が示す結果と今後の改善

以前から、電気やガソリンの使用量に関しては数値を把握し、前年度との数値を比較しながら省エネ活動に取り組んでいました。

エコアクション21の認証取得への取り組みを開始してからは数値を資料化してきましたが、明らかに今までより数値が下がったことに驚きました。活動前のレポートと、今年1月・2月で取りまとめた

レポートを比べると、今年のほうが大きい削減幅を打ち出しています。常に電気の消灯やパソコン電源を落とすなど、従業員が小まめな取り組みを重ねてくれた結果です。まだまだ目に付く所はありますが、今後ともさらに環境への取り組みを加速させていきたいと思います。



総務部経理課  
課長  
大橋 一由

### Voice

皆さんに取り組みの重要性を伝えていく立場として、事務所やごみ箱に分別方法を指示したポスターを作成し、皆さんにわかりやすい工夫しました。まだ完全に浸透しているとは言いきれませんが、今後もさまざまな方法で環境活動を広めていきたいです。



総務部総務課  
粕谷 江里



### 商工会議所からのコメント

取得に向けて全員が一丸となって取り組んでいたため審査では全く問題がありませんでした。今後は、取り組みの過程や結果を評価し、エコアクション

21をどのようにビジネスや環境マネジメントに活かしていくかを考えていただきたいと思います。



宇都宮商工会議所 理事  
エコアクション21 地域事務局とちぎ  
事務局長  
小関 秀明 様

栃木スバルさんの取り組みで特徴的だったのは、ボトムアップで取り組んでいたことです。“全員でやっという雰囲気づくりによって、従業員の

皆さんが自然と取り組めたのではないのでしょうか。一体感を持って今後も継続していただく



宇都宮商工会議所 中小企業相談所  
地域振興部 主幹  
エコアクション21 地域事務局とちぎ  
黒後 忠利 様

■ 統合認証取得の背景と意義

環境活動の一元管理、一貫性確保および合理化を目指す

当社では、これまで5つのサイトでそれぞれISO14001の認証を取得し、個別の活動を行っていました。以前から統合に向けての構想はありました。そうした折、2008年秋の経済危機をきっかけにすべての事業活動の見直しが行われ、EMSもその対象になりました。これを好機とらえて効率的かつ合理的なEMSの統合認証に向けた活動をスタートしました。その結果、事務局のメンバーが知恵を出し合い、集中的に議論することで短期間の中、効率よくEMSを構築することができました。審査機関からは、「関連会社を含めた全事業所で、統合されたEMSを継続的かつ効率的に運用している」と高い評価を受けました。

■ 統合認証取得に参加して

業務に密着した  
環境活動を目指して

群馬地区ではISO9001も含めた統合認証の形で受審しました。ISO14001を全社で一本化すれば、取り組みレベルの平準化や管理工数の削減が可能です。群馬地区は8,000名を超える大所帯であり、手順書や受審機関の変更など、あらゆることの周知徹底に苦労しました。また、現場からは業務に密着した環境活動を求める声があり、今後はそこにも重点を置いた取り組みを考えていきます。

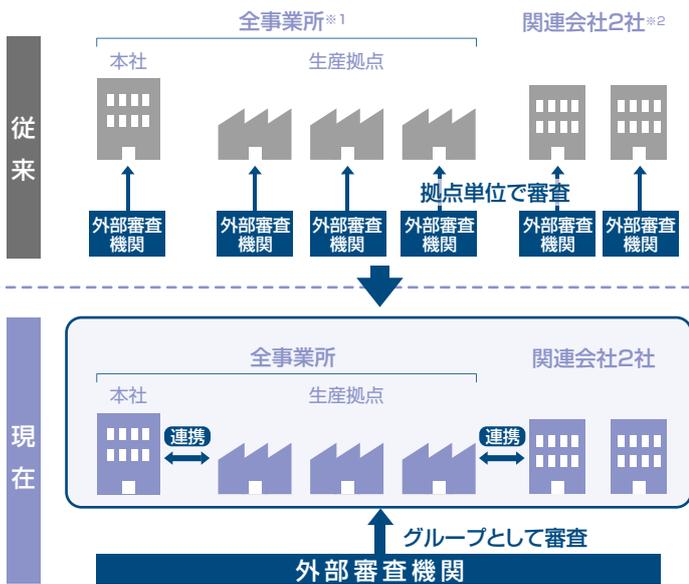


群馬製作所  
総務部環境課  
高橋 正英

特集 4 統合認証で合理的な  
環境マネジメントシステムを構築

# 乗用車メーカー初 全社統合認証取得

富士重工業は、これまで本社地区、群馬地区、東京事業所、宇都宮製作所、埼玉製作所の5サイトでそれぞれ認証取得していた環境マネジメントシステム(以下、EMS)を、より合理的に推進するために、ISO14001の全社統合認証取得に取り組みました。乗用車メーカー初の全社統合認証取得に関わった事務局メンバーの声を紹介します。



全社EMS統合の事務局メンバー

※1 全事業所  
本社、群馬製作所、東京事業所(スバル自動車部門)、宇都宮製作所、半田工場、半田西工場(航空宇宙カンパニー、エコテクノロジーカンパニー)、埼玉製作所(産業機器カンパニー)。

※2 関連会社2社  
輸送機工業株式会社(代表取締役社長:西国春義 本社:愛知県半田市)、株式会社エフ・イー・エス(代表取締役社長:木村雪夫 本社:栃木県宇都宮市)。

## 取り組みやすくするための教育を充実

今回の統合に合わせて、従業員の教育にも全社的な観点を導入しました。2010年度には教育カリキュラムを整備し、従業員の意識向上を図っていきます。組織を超えてどの事業所へ行っても当社としての方針がひとつになっていけば、従業員は今まで以上に意識をEMSや環境活動に向けられるのではないかと期待しています。



群馬製作所  
総務部環境課  
反町 一貴

## 全社の環境方針、目標が明確に

4つの組織がそれぞれの文化に合わせて取り組んできた環境活動を、スバルブランドのもとに一本化し、ベクトルを合わせて活動できるようになりました。また、取り組みやすさ、わかりやすさを考慮し、書類はA3サイズ1枚にまとめました。全社の方針、目標が明確になり、自分で考えて行動できる体制を整えることができましたと思います。



宇都宮製作所  
総務部総務課  
田中 陽一

## 実りある活動にするための意識改革が重要

ISO9001の事務局を担当していましたが、3月からISO14001も併せて担当することになりました。前任者からは、自分たちがすべきことや今後やっていかなければならない部分が見えてきたと聞いています。今後統合EMSのもとで実りある活動にしていくためには、従業員一人ひとりの意識改革をどう進めていくかが重要になってくるのではないのでしょうか。



埼玉製作所  
総務部総務課  
小林 和浩

# のISO14001

## EMSとQMSの一体化で真の効率化を

東京事業所は審査機関の変更がなかったため、非常にスムーズに受審ができました。また、取得当初からの課題であったEMSと品質マネジメントシステム（以下、QMS）統合もタイミングよく実施することができました。EMSとQMSの一体化をさらに進め、本当の意味で効率化を実感できるようにしていきます。



東京事業所  
総務部  
環境推進室  
笹原 博

## お客さまをより意識した環境活動になる

統合を機に各製作所の事務局と情報交換できたのが非常に良かったと思います。当社全体での取り組みが、お客さまをより意識するきっかけになったのではないかと感じています。東京事業所は、同じ自動車部門である群馬製作所とベクトルを合わせ、さらに合理的なマネジメントシステムづくりを進めていきたいと思います。



東京事業所  
総務部  
環境推進室  
相崎 好文

## 現場から離れた本社の環境意識を高める

環境という言葉は、十人十色のとらえ方があります。統合への取り組みで感じたのは、事務局メンバーの環境意識の高さです。本社は、現場の状況を身近に感じるのが少なく、製作所に比べるとまだまだ意識が高いとはいえません。現場と本社が一体となった取り組みの重要性を本社従業員に理解してもらうことが私の役割だと思っています。



総務部  
環境推進室  
早瀬川 晃

### ■今後の課題と展望

## 従業員が取り組みやすいシステムに

今後の課題は、認証を統合したことによる具体的な効果を出していくことです。そのために、仕組みの共通化、教育、内部監査、マニュアルの充実が必要です。事務局としては、環境経営の観点から経営に寄与するとともに、従業員が取り組みやすいマネジメントシステムを目指して、引き続き議論を重ねながらレベルアップを図っていきます。



経営企画部  
笹原 司

## 段階的にさらなる効率化と拡大を推進

今回、全社でEMSを統合することによって、部分最適から全体最適へ、すべての面で情報共有が可能になりました。これが意味するのは、何かリスクがあると事業所内だけの問題ではなく、グループ全体で責任を取り、温暖化対策や排出量取引も全体で取り組むということです。今後さらに効率化、合理化を目指して統合化のレベルを高め、並行してグループ企業や海外の事業所とも統合を図っていきます。



CSR・環境推進室  
室長(当時)  
鈴木 達也

# 社会性報告

## 企業理念

スバルのモノづくりの思想は、前身である中島飛行機時代から受け継がれてきた航空機づくりの伝統の上に築かれています。航空機設計の基本思想である「最高の性能の追求」とそれを実現する「凝縮された無駄のないパッケージ」、さらに「あらゆる環境下での安全思想の徹底」がスバルのDNAです。こうした伝統を大切にしながら新たな価値創造にチャレンジし、環境問題やコンプライアンスなどへも積極的に取り組み、社会との共生・調和を念頭におき、お客さまをはじめとするすべてのステークホルダーの皆さまの満足と信頼を得られる企業を目指します。

- ① 私たちは常に先進の技術の創造に努め、お客さまに喜ばれる高品質で個性のある商品を提供します。
- ② 私たちは常に人・社会・環境の調和を目指し、豊かな社会づくりに貢献します。
- ③ 私たちは常に未来を見つめ国際的な視野に立ち、進取の気性に富んだ活力ある企業を目指します。

## 企業行動規範

当社では企業理念に基づいた事業活動の実践に向けて、コンプライアンスを順守し社会的責任を果たしながら行動していくための企業行動規範を定めています。社員一人ひとりがお互いを尊重しながら、この企業行動規範を尊び同じ価値観で行動することを通じて、豊かな社会づくりに貢献し、すべてのステークホルダーに信頼される企業となるべく努力を続けてまいります。

- ① 私たちは、環境と安全に十分配慮して行動するとともに、創造的な商品とサービスを開発、提供します。
- ② 私たちは、一人ひとりの人権と個性を尊重します。
- ③ 私たちは、社会との調和を図り、豊かな社会づくりに貢献します。
- ④ 私たちは、社会的規範を順守し、公明かつ公正に行動します。
- ⑤ 私たちは、国際的な視野に立ち、国際社会との調和を図るよう努めます。



## スバルのありたい姿

### 「存在感と魅力ある企業」を目指して

当社は「存在感と魅力ある企業」というありたい姿に向かって、2007年度から2010年度の中期経営計画を策定し、取り組みを進めています。この中期経営計画では、技術重視に偏りがちであった当社の社内基軸を「お客さま第一」の視点ですべての業務目標の見直しを図りつつあります。

2008年度下期以降の世界的な経済危機などによる影響は、自動車市場でも大きく、また、一方でさらに厳しくなる環境規制への確実な対処が求められました。当社はこれらの外部環境変化に対して、業務プロセスやコスト構造を見直して企業体質の改革を推進するとともに、世の中のニーズを踏まえた商品の提供を進めました。

商品面では、5代目となる新型レガシィにおいて、快適な室内空間、優れた走行性能と燃費性能を実現し、「ゆとりのグランドツーリング」という新たな価値を提案し、当社が提案している「新しい走り」と「地球温暖化防止などの環境問題」の対応の具現化を図りました。

また、これまで以上にお客さまのご要望を商品に反映させる体制や国内外の販売・サービスの体制を充実させると

ともに、トヨタグループとの協業を活用し、軽自動車を中心に商品ラインナップの充実を図りました。さらに、国内スバル販売特約店においては、環境省が推奨する「エコアクション21」の認証取得による環境対応ならびに販売網の再編およびコスト低減などを主体とした構造改革による体質改善に取り組むことにより、お客さま満足度の向上とスバルブランドを強化し、「存在感と魅力ある企業」、「社会的責任を全うする企業」の実現を図っています。

さらに、「新三つの尺度」<sup>※1</sup>をベースに社内およびグループ全体での議論を活性化しながら、教育をはじめとする人材育成に力をいれ、継続的な発展の源である企業活力を醸成していきます。

こうした活動を一步一步着実に推進して、未来に向けて進化を続けることにより、すべての事業領域において従業員が誇りを持って働く企業の模範となると同時に、全世界のお客さまに支持されるブランドを築いていくことが私たちの夢であり願いです。

※1 新三つの尺度  
「お客さまのためになるか」「グループの発展に役立つか」「従業員の成長に役立つか」の3つの判断尺度。

## CSR方針

### 富士重工業グループの使命

お客さまに喜んでいただけるモノづくり企業として、企業組織レベルの取り組み要件である「企業行動規範や重要項目の尊重を主体とした守りのCSR」と「企業市民として事業活動を通じて社会課題の解決に寄与することを主体とした攻めのCSR」をより明確にするため、CSR環境委員会<sup>※2</sup>の承認を経てCSR方針を改定しました。

私たちのCSR活動は、さまざまなステークホルダーとのかかわりに重点を置くとともに、グローバルな事業活動を通じて社会の持続的発展に貢献することであり、富士重工業グループの使命と考えています。

※2 CSR環境委員会の組織体制は40ページに掲載しています。

### 「CSR方針」(2009年6月改定)

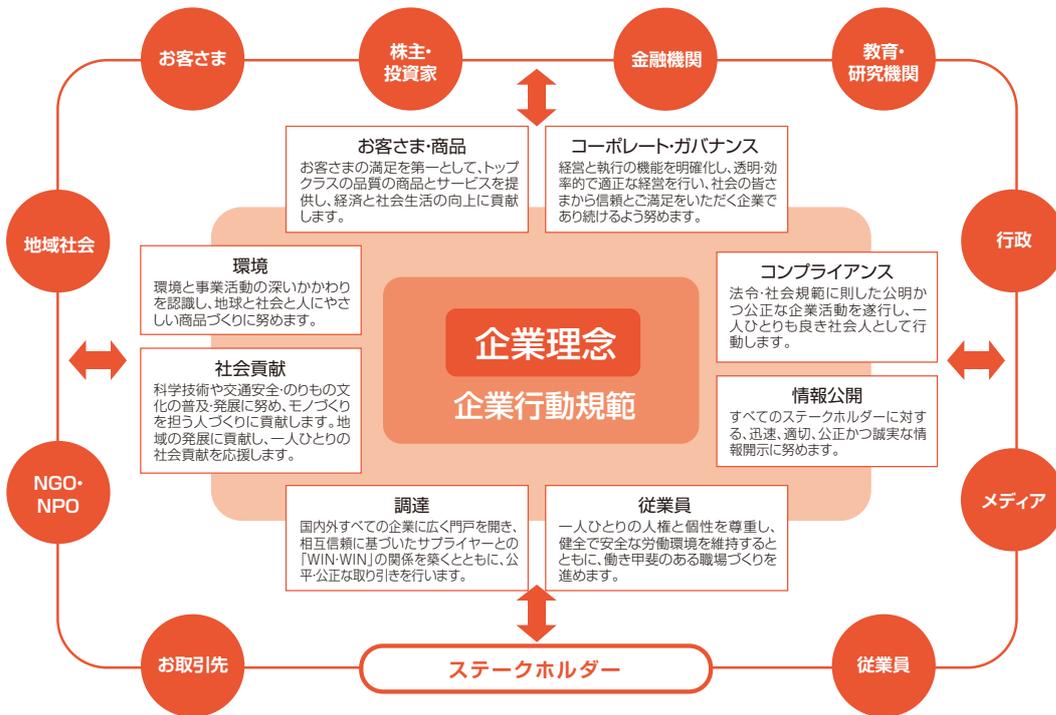
1. 私たちは、富士重工業の企業行動規範に基づき、法令、人権、国際行動規範、ステークホルダーの権利およびモラルを尊重します。
2. 私たちは、企業市民として、現代社会が抱える世の中の社会問題の改善に向けて取り組みます。

CSR経営

ステークホルダーの皆さまから信頼される企業を目指して

2007年2月28日に公表した2007年度から2010年度の4年間を対象とした中期経営計画の経営ビジョンのひとつとして「社会的責任を全うする企業」を掲げました。これは、当社の長期ビジョンである「存在感と魅力ある企業」を実現するための必要不可欠な基本事項で、「すべてはお客様のために」という基本方針と併せて、さまざまなステークホルダーの皆さまから信頼される企業を目指して持続的な社会発展へ貢献するとともに、企業価値の向上を図っていきます。

◆ステークホルダーとのかかわり



CSR推進体制と運営

当社ではCSR活動を推進するため、経営トップによる全社的な委員会組織として「CSR・環境委員会」を設置し、CSR活動に関する審議・協議・決定・情報交換を実施しています。2009年度は5月27日、11月10日と2回開催しました。また、製作所、事業所、本社においては、CSR方針に基づくCSR活動計画を毎年度策定、実行し、計画的な自主活動を進めています。

CSR推進体制の強化としては、CSR・環境委員会を見直し、CSRにおける重点課題を確実にマネジメントできる体制を検討し、CSR活動のさらなる充実、強化を目指します。

◆組織体制



CSR・環境委員会の様子

## 2009年度の活動振り返りと2010年度の計画

### 体系的なCSR活動定着

2006年度から組織的な対応を開始、現状・課題把握、活動整理・立ち上げ、活動推進、活動定着の4つのフェーズに分けてCSR活動を進めています。

#### ■2009年度の取り組み

企業の社会的責任の重要性の高まり、環境問題に代表される世界的な課題への的確な対応、ISO26000SR (Social Responsibility) ガイドラインに代表されるCSR活動に対する指針などのさまざまな社外の動向、ステークホルダーの皆さまからのご意見を踏まえてCSR方針を改定しました。

このCSR方針の改定により、お客さまに喜んでいただける製品・サービスを継続的に提供するモノづくり企業の基本要件である「守りのCSRと攻めのCSR」を、企業レベルの取り組みとして明確にしました。

また、2007年度に制定したCSR活動の3つの柱（「環境活動、交通安全活動、地域貢献活動」）を全社共通の個

人レベルの取り組みとして位置づけて、体系的なCSR活動の定着とレベルアップを図るとともに、北米CSR委員会を通じて海外グループ企業へも展開を進めています。

#### ■2010年度の取り組み

2010年度においては、各部門が果たすべきCSRの重点課題を明確にし、従業員一人ひとりが業務を通じて社会的責任を全うできる体制づくりを推進します。

このCSRの重点課題については、CSRボランティアプランとして検討・策定し、ステークホルダーの皆さまに対して当社の取り組みを明確にするとともに、さまざまな社会課題の解決に向けてCSR活動を推進します。CSRボランティアプランの策定においては、ISO26000SR (Social Responsibility) ガイドラインをはじめとする指針やステークホルダーの皆さまからのご要望に基づき検討します。

CSR推進体制の強化としては、CSRにおける重点課題を確実にマネジメントできる体制を検討し、CSR・環境委員会の見直しを行います。

#### ◆CSR活動の3つの柱

共通活動項目	考え方	具体的内容
環境活動	事業活動のみならず日常生活における環境影響を理解してできるところから推進を図る。家庭における地球温暖化対策推進として省エネルギー活動の啓発・推進を図る。	チーム・マイナス6% <sup>※1</sup> への参加、家庭における環境活動推進、グループ企業の取組み推進
交通安全活動	輸送機器メーカーとしての責任を強く認識して世の中の交通事故削減のために努力する。交通違反と交通事故(加害)のゼロに努める。	安全運転教室の実施、自治体との連携、公共交通機関の利用推進
地域貢献活動	事業活動を行ううえで重要なパートナーである地域社会への貢献に努める。	事業所周辺清掃、自治体との連携、地域イベント支援

※1 2010年1月14日から「チャレンジ25」に変更されています。



北米CSR委員会の様子  
(2009年11月5日テレビ会議で開催)

#### ◆CSR活動計画

2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度
フェーズ1		フェーズ2	フェーズ3	フェーズ4
現状・課題把握	活動整理・立ち上げ	活動推進	活動定着	充実・強化
従業員個々の行動がCSRに結びついているという意識を高めること	①人事新任管理職研修へCSR講義の組み込みを図った ②グループの取り組み推進の一環として北米関連企業にスバルのCSR概念を紹介した ③EMSの仕組みを活用したCSR活動の推進を試行した(本社)	①各製作所で実施している階層別教育等への一部展開を図った ②北米関連企業において北米CSR委員会を立ち上げ、体系的な推進を図った ③スバルグループ共通の活動項目を策定して展開を進めた ④世間におけるCSR活動の高まりを踏まえてCSR方針の改定を検討	①世の中におけるCSRの動向等を踏まえてCSR方針を改定した ②改定したCSR方針の周知、徹底をした ③人事主事研修でCSR講義を実施した ④北米CSR委員会のレベルアップを図った ⑤CSRボランティアプランの検討を開始した	①各部門が果たすべき業務におけるCSR重点課題の明確化 ②CSRボランティアプランの検討・策定 ③北米CSR委員会へのCSRボランティアプラン展開
CSRに関する情報の共有、調整、展開、集約を効率的かつ合理的に行う仕組みの構築	①CSR委員会と環境総合委員会を統合したCSR・環境委員会を制定し、EMSに加えてCSRに関してトップマネジメントを開始した ②各製作所に代表者を設置して全社横断的組織を構築した ③全社のCSR活動の棚卸しと活動計画の策定を実施した	①CSR・環境委員会においてCSRおよびEMSのトップマネジメントの徹底を図った ②製作所の代表者による全社横断的組織の活性化を図った ③スバルグループ共通のCSR活動の3つの柱を主体とした各製作所のCSR活動の推進を図った	①CSR・環境委員会の定期開催によりCSRおよびEMSのレベルアップを図った ②各製作所におけるCSR活動の理解、浸透を図った ③スバルグループ共通のCSR活動の3つの柱に基づいた活動の定着を図った	①CSR・環境委員会を見直しCSR推進体制の強化を図る ②CSR重点課題のマネジメントのレベルアップを図る

# ステークホルダーの皆さまの信頼を得るために

スバルでは企業理念に基づき、株主、お客さまをはじめとするすべてのステークホルダーの皆さまの満足と信頼を得るべく、コーポレート・ガバナンスの強化を経営の重要課題として取り組んでいます。

## コーポレート・ガバナンス体制

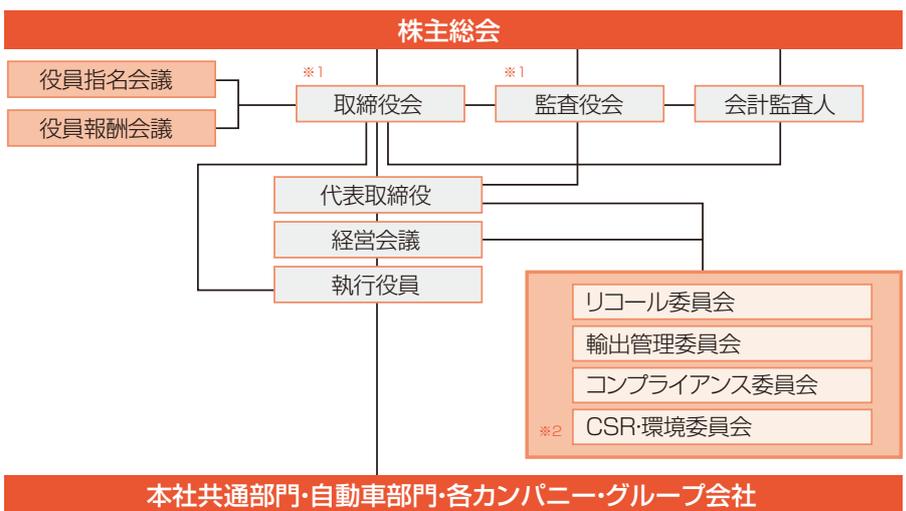
### 体制の一層の強化を図ります

1999年6月、執行役員制を採用し、各事業の管理執行責任を明確にしました。

また、2003年6月から取締役・執行役員の任期を2年から1年に短縮し、2004年6月には取締役会<sup>※1</sup>の決議に基づき、役員候補者の選定を行う役員指名会議と、同じく役員の報酬、業績考課などの決定を行う役員報酬会議を設置しています。

これらの諸施策により、経営と執行の機能を明確にし、意思決定の迅速化を図り、効率的な経営を目指しています。一方、監査役会は監査役4名<sup>※1</sup>により構成され、監査に関する重要な事項について報告を受け、協議を行っています。今後は、監査体制の一層の強化を図るとともに、経営の透明性を高めるために公正かつタイムリーな情報開示を実施していきます。

◆コーポレート・ガバナンス体制



※1 取締役会は7名で構成されています。また、監査役会は4名で構成されていますが、社外監査役を2名(1名は独立役員)おくことで経営の監視を客観的に行っています。(2010年3月31日現在)

※2 2007年5月29日以降、CSR委員会と総合環境委員会を統合し、CSR・環境委員会として運営しています。

## 内部統制システム構築

### グループ全体での内部統制システムを強化

内部統制は、企業目的を達成するために欠かせない仕組みであり、経営者には内部統制を構築するとともに、その有効性と効率性を維持する責任があります。具体的には、各事業の横串機能を担う戦略本部を中心とした本社共通部門が各部門、カンパニーと密接に連携して、リスク管理の強化を図っています。また、監査部が各部門およびグループ各社の業務遂行について計画的に監査を実施しています。さらに、当社では、内部統制システムの整備に資するため、リスク管理の最も基礎的な部分に位置づけられるコンプライアンスの体制・組織を整え、運用しています。また、2007年2月15日に金融庁企業会計審議会から公表された「財務報告に係る内部統制の評価及び監査の基準」に対応し、1. 業務の有効性・効率性、2. 財務報告の信頼性、3. 事業活動にかかわる法令等の順守および4. 資産の保全を図るため、グループ全体での内部統制システムの整備を継続的に強化しています。

## リスクマネジメント

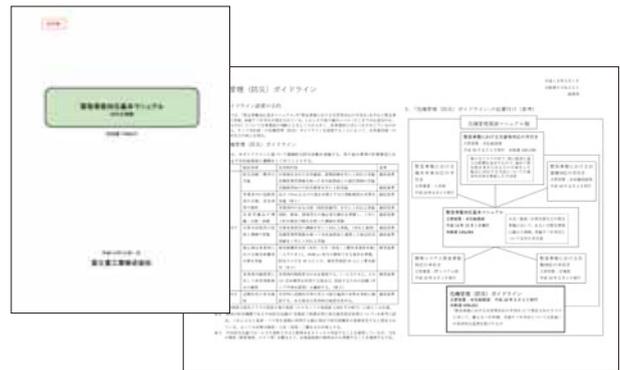
# リスクを把握し、継続的な事業活動を行います

リスク管理の基礎的な部分に位置づけられるコンプライアンスの体制を整え、各部門・カンパニーと密接に連携して、リスク管理の強化を図っています。また、グループ各社の業務遂行について計画的に監査を実施しています。

## リスク管理

### リスクを分類し、適切に管理しています

スバルの事業活動に何らかの負(マイナス)の影響を与える不確定要素のことをリスクと考えますが、このリスクの中には、さまざまな種類の問題があります。この中でも、とりわけ経営に重大な影響を及ぼすもので、かつ通常の意味決定ルートでは対処困難なほどに「緊急性」が求められるものを「クライシスリスク」とし、さらに自然災害、事故、内部人的要因、外部人的要因、社会的要因(国内・海外)、コンプライアンスリスク等に分類しています。そして緊急事態発生時は、各々の緊急事態に対応したマニュアルをもとに、リスクの発生を知ってから情報の伝達経路、最適な方法を取り、これに対応しています。



当社の緊急事態対応基本マニュアルと危機管理(防災)ガイドライン

## BCP<sup>\*1</sup>の策定

### 各事業所単位でBCPを策定

当社の業務に係る災害発生時における、事業継続の確かつ迅速な実施により、お客さまへのサービスの低下、マーケットシェアの縮小、企業価値の喪失を回避することを目的とし、緊急事態の発生により、当社の事業リソース(人的・物的・金的)が損傷を受けた場合には、残存する能力をもって優先される業務の中断を最小限のレベルにとどめ、被災前の操業(業務)レベルへの早急な復旧を図ることとします。

緊急事態対応の基本方針を次のように定めます。

- (1) 生命・身体の安全を最優先とする。
- (2) ステークホルダー(利害関係者)の利益の喪失、および会社の価値の喪失を最小限とする。
- (3) 緊急事態においても、常に誠実、公正、透明を基本とする。

以上、3つを基本方針とし、各事業所単位でBCPを策定し、事業の継続推進に取り組んでいます。

<sup>\*1</sup> BCP  
Business Continuity Plan(事業継続計画)。

### 新型インフルエンザ対策

新型インフルエンザの感染拡大に伴い、当社としても安全衛生を中心に、その感染防止策を講じています。しかしながらそれでも感染の拡大が防げず多くの従業員が出勤困難となり、事業の継続に支障が出る可能性も懸念されます。

このような事態に備え当社では感染予防策、また感染が拡大し部門ごとに通常の業務・生産に影響を及ぼす場合の事業継続策等、その対応方法を定めクライシスに備えています。



## コンプライアンス

# CSR経営の基盤であり、重要課題のひとつ

スバルでは、コンプライアンスの実践を経営の重要課題の一つと位置づけ、全社的なコンプライアンスの徹底が当社の経営の基盤を成すことを強く認識し、企業活動上求められるあらゆる法令・社内諸規定等の順守はもとより、社会規範に則した公明かつ公正な企業活動を遂行します。

## コンプライアンス順守

### 企業行動規範と行動ガイドライン

スバルは、コンプライアンスを実践するための順守基準として、「企業行動規範」と「行動ガイドライン」を定めています。これらは全従業員が所持している「コンプライアンスマニュアル」で詳細に解説されており、日常の行動の中での徹底を図っています。



コンプライアンス  
マニュアル

## コンプライアンス体制と運営

### コンプライアンス規程

当社は、2001年に、コンプライアンスに関する当社の体制・組織および運営方法を定めた基本規程として、「コンプライアンス規程」を取締役会の承認を経て制定しました。

### コンプライアンス体制・組織と運営

コンプライアンスを推進する全社的な委員会組織として、「コンプライアンス委員会」を設置し、重要なコンプライアンス事項に関する審議・協議・決定、情報交換などを行っています。また、各部門は、それぞれコンプライアンス推進のための実践計画(コンプライアンス・プログラム)を毎年度策定し、継続的・計画的な自主活動を進めています。

### コンプライアンス・ホットライン制度

当社およびグループ企業などで働く従業員などはグループ内のコンプライアンスに関する問題を発見した場合、上司を通じて解決する方法のほかに、「コンプライアンス・ホットライン」を利用して「ホットライン・デスク」に相談することができます。

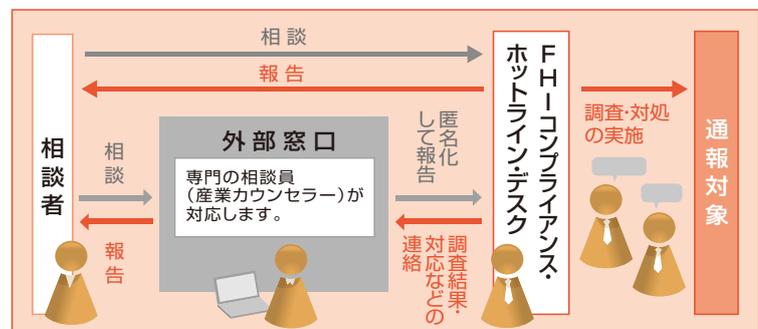
「ホットライン・デスク」は、当社内に設置されており、規則に基づいて任命された従業員が、郵送・電話・Eメールによる通報を直接受け付け、事実調査や対応にあたります。通報者の所属・氏名は、通報者の同意がない限り厳格に秘匿され、通報したことにより不利益を受けることがないよう十分配慮されます。

2008年4月から、この制度に外部事業者による通報受付窓口を追加し、受付時間の拡大と通報者の氏名・所属の秘匿性強化を図るなど、さらに使いやすい制度とするよう努めています。



コンプライアンス・  
ホットラインカード

### コンプライアンス・ホットライン(相談・解決の流れ)



## 2009年度コンプライアンス活動実績概要

### コンプライアンス教育、研修の実施

2009年度には、グループ企業の従業員を含めて約3,900人が、法務部や人事・教育部門の主催するコンプライアンス研修・実務法務研修に参加しました。各部門やグループ企業においても、それぞれの実践計画のもと、「コンプライアンス事例集100選」などのテキストを活用したり、法務部員が出張講師をつとめたりして、業務上重要な法令の勉強会やコンプライアンス啓発研修が開催されています。

また当社グループのコンプライアンスの実践を推進するために、グループ会社に対し教育・研修の実施や社内刊行物による情報提供を行うとともに、コンプライアンス・ホットラインへの門戸を広くすることにより、実効性を高めています。



コンプライアンス事例集100選



コンプライアンス研修

### グループコンプライアンスへの取り組み

コンプライアンスの徹底には、当社だけでなく、グループの企業全体が歩調を合わせて取り組む必要があります。このため、当社では、関係会社や国内スバル販売特約店で働く従業員向けにコンプライアンスハンドブックの作成・提供を行うとともに、コンプライアンス研修の講師として弁護士や当社従業員を派遣するなど、グループコンプライアンスの推進に取り組んでいます。



関連会社向けコンプライアンスハンドブック



### 個人情報保護への取り組み

当社では、個人情報保護法施行に合わせて、社内体制や規程類を整備し、プライバシー・ポリシーを公表するなどの取り組みを行ってきました。特に、国内スバル販売特約店では、お客さまの個人情報を直接かつ大量に取り扱うことから、特約店ごとに社内体制の整備を徹底するとともに、全特約店共通の「SUBARU特約店スタッフのための個人情報保護ハンドブック」を作成・活用し、従業員一人ひとりが個人情報保護に関して正しく理解できるよう努めています。



SUBARU特約店スタッフのための個人情報保護ハンドブック



## Close Up



法務部  
所 浩之

### わかりやすい研修を意識して

「コンプライアンス」を言い換えると、「法令順守」となりますが、一般的に「法律」「法令」と聞くと、それだけで難しい、とっつきにくいという印象を持たれがちです。そこで私どもは、コンプライアンスに関する研修を行うときは、少しでも理解を深めてもらえるよう「わかりやすさ」「身近さ」を意識しながら話をしたり、資料を作成しています。限られた時間のなかで法令知識を習得・理解してもらうことは難しいことですが、研修を受けてよかったと思ってもらえるよう取り組んでいます。

すべてはお客さまのために

## 「お客さま第一」のさらなる向上を目指して

スバルではお客さまからのお問い合わせやご相談、ご要望、ご指摘をお聞きする窓口として「SUBARUお客様センター」(お客様相談部運営)を設置しています。お問い合わせやご相談には業界トップレベルのお客さま対応により、お客さま満足度向上を目指しています。

### お客さまとのコミュニケーション

#### お客様相談部門の活動

スバルではお客さまからのお問い合わせやご相談、ご要望、ご指摘をお聞きする窓口として「SUBARUお客様センター」を設置しています。「迅速・誠実・傾聴」を行動の基本として、業界トップレベルのお客さま対応を目指しています。お客さまから寄せられた貴重な声は関連部署へフィードバックさせていただき、品質改善や商品提案、販売・サービス面での改善に役立てています。お客さまの声はスバルへのご期待でもあり、コミュニケーションを大切にしながら、常にご満足いただけるよう真摯に対応を行ってまいります。

#### CS推進の役割

ブランドの基盤たるCSの抜本的な改善に向けて、国内スバル販売特約店を中心に、お客さま満足度を高めるための支援/推進活動を行っています。「スバルお客様アンケート」などで得られたお客さまのご意見を特約店、関連部署にフィードバックし、商品/品質/販売/アフターサービスなどに反映させるとともに、スバル特約店でのお客さま対応の向上につながる販売現場への改善指導・支援を行っています。

#### SUBARUお客様センター

SUBARUコール：0120-052215

(内容確認のために録音させていただいております。予めご了承ください。)

SUBARU お客様センターでは下記の内容を承っております。

- (1) ご意見/ご感想/ご案内  
(カタログ、販売店、転居お手続き、ほか)
- (2) お問い合わせ/ご相談

受付時間 9:00~17:00(平日)  
9:00~12:00、13:00~17:00(土日祝)

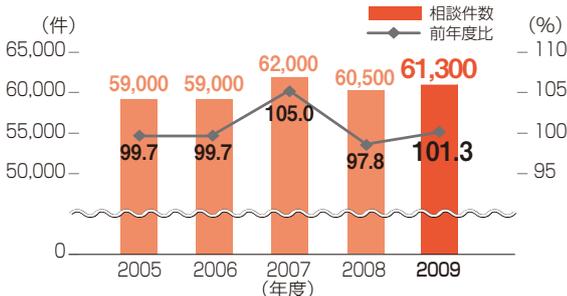
#### スバルお客さま満足度調査結果

国内スバルチームで実施している「2009年度スバルお客さま満足度調査」において、全国スバルチームの平均では、調査ポイントでは改善が見られたものの、購入初期対応部門/アフター対応部門ともに業界6社中5位という結果でした。

また、地域ごとの「CSエリアNo.1」達成状況については、購入初期対応部門/アフター対応部門ともに45エリア中で1エリアのみ達成という結果でした。

これまで継続してきた基本活動の徹底により、各スタッフの行動量には変化が見えてきましたが、行動の質(心のもったサービス)や、特約店・拠点における取り組み格差に課題が見られるため、これらを改善し、ランクアップを図ります。

#### ◆お客さまからのご相談件数推移



### 国内での取り組み

#### CS向上に向けての取り組み

2008年度から各地域で「CSエリアNo.1」を達成することを目標に掲げ、スバルチーム一丸となってCS向上に取り組んでいます。2010年度からは、CS向上を基軸とした国内スバルチームの総合営業収益の拡大をさらに加速させるため、国内CS推進部署をカスタマーセンターから国内営業本部へ移し、国内営業部門が一体となってさらなる各活動を徹底させています。

特に『お客さまが入店された際のお店全体の第一印象向上』と『継続的なアフターフォローの徹底』により、各スタッフの行動の質を改善し、CS向上を狙ってまいります。

### 販売特約店への教育、研修

当社のスタッフが講師としてのスキルを磨き、販売店のすべての階層・職種を対象とした教育・研修(Off-JT)を実施しています。2009年度には、営業系研修1,900人、サービス系研修3,600人の合計5,500人が受講しました。加えて、資格検定制度運営や、セールスコンテスト・サービス技術コンクールの主催など、最前線のOJT強化と販売店スタッフのさらなるスキルアップのための仕組みや学習素材を提供しています。



国内特約店向けの研修の風景

2005年1月に東京都八王子市にオープンした「スバルアカデミー」は、宿泊施設(133室)を併設した研修施設です。ここでは、国内・海外の販売特約店の営業スタッフからメカニックの全職種、新人から経営幹部までの教育プログラムを実施しています。



### 海外での取り組み

#### CS向上に向けての取り組み

海外販売特約店におけるCS向上の取り組みについては、昨年よりさらに人員を増強しました。現在、管理職3名とスタッフ4名の計7名の海外市場専任部署として、CS向上を基軸とした海外戦略を策定し、業務に取り組んでいます。

特に市場の成長が著しい中国市場については市場専任担当主査を置いて、CS向上とアフターサービス体制強化による、中国におけるスバルブランドの向上を図っています。

またほかの海外市場についても、国内で効果をあげているCS調査・お客さまとのコミュニケーションプログラムおよびサービス入庫促進策などを“サービス収益向上のためのサービスマーケティング活動”と位置づけ、最近出資した特約店ならびに新興市場をメインに、市場状況に合わせて導入を図っています。

今後、成熟海外市場での好事例も取り入れ、スバル国内外での教育の充実とCS向上を基軸としたチーム収益体制強化を推進していきます。



中国スバル販売店の1コマ

実車講習

朝礼風景

CS・お客さま対応研修

店頭での対応訓練

#### 販売特約店などへの教育、研修

海外のチーフメカニックを対象とした各種研修、インストラクター養成のための研修実施と認定の仕組み確立に加えて、資格検定制度導入を強力に推進しています。さらに、研修対象をマネージャークラスやセールス、サービスフロントなどに拡大する取り組みを展開中です。



海外取引先を対象にしたメカニック技術講習会

## 高品質な製品の提供

### 品質方針 [1994年11月制定]

常にお客様の満足を第一に考え、仕事の質を高めて、トップクラスの品質の商品とサービスを提供する。

### リコールへの対応

2009年度件数:2件

ホームページにて公開しています。事故を未然に防止し、自動車ユーザーなどを保護することを目的として処置対応をしています。

リコールへの対応詳細については、当社ホームページをご覧ください。



<http://www.fhi.co.jp/recall/>

### 品質マネジメントシステム

1. 当社の品質方針ならびにISO9001規格に基づいた品質マネジメントシステム(QMS)を構築し、円滑かつ効果的に運用。
2. 企画段階でお客様に満足いただける品質目標を明確にする。
3. 開発から販売・サービスまでの各段階における品質保証活動により、品質目標を実現する。
4. 市場からのクレームと要望に迅速且つ的確に対処し、お客様の信頼に応える。

## 安全なクルマづくり

### 「安全なクルマづくり」の基本的な考え方

スバルは「気持ちよい走りを、快適に、安心して愉しんでほしい」という想いでクルマづくりに取り組んできましたが、これを実現する重要なテーマのひとつが「安全性の追求」と考えています。当社の安全思想は、「あらゆる環境下で安全を最優先する」ことであり、さまざまな場面を想定した総合的な取り組みを行っています。そのためにスバルは起こり得る事故を多様に想定し、事故を未然に防ぐ「アクティブセーフティ技術」、万が一事故が発生した際に被害を最小限に抑える「パッシブセーフティ技術」などの車両安全技術の開発に取り組んでいます。さらに産官学が連携して進めているITS(高度道路交通システム)<sup>※1</sup>やASV(先進安全自動車)<sup>※2</sup>のプロジェクトにも積極的に参加しています。

※1 ITS(Intelligent Transport Systems):高度道路交通システム  
最先端の情報通信や制御技術を使い、人と道路とクルマの間で情報の受発信を行い、交通事故や渋滞の解消、環境との共存を目指すシステム。

※2 ASV(Advanced Safety Vehicle):先進安全自動車  
先進技術を利用してドライバーの安全運転を支援するシステムを搭載した自動車。ASVプロジェクトは、国土交通省自動車交通局が推進する1期5年(第1期は1991年度～)のプロジェクトで、現在は第4期(2006年度～2010年度)。

EyeSight(ver.2)については、当社 スバル オフィシャル webサイトで詳細をご紹介します。

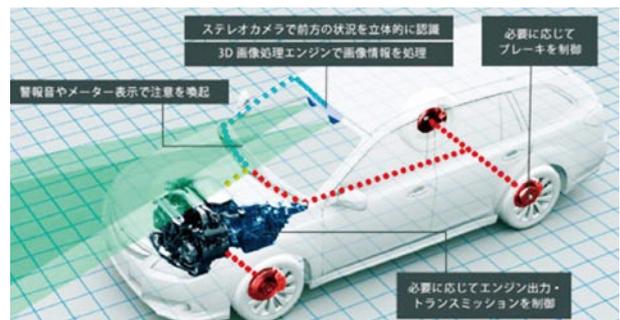


<http://www.subaru.jp/about/technology/safety/precrashsafety/>

### アクティブセーフティの取り組み

当社独自の「シンメトリカル AWD」は、水平対向エンジンがもたらす低重心と、左右対称、一直線上に配置したパワートレインによる優れた重量バランスにより、さまざまなシーンで高い走行安定性を実現し、乗る人に安心して快適な走りを提供します。2010年5月よりレガシィには、ステレオカメラを用いた先進運転支援システム「EyeSight(アイサイト)」<sup>※3</sup>をベースに、自動ブレーキによって車両を停止させる制御などの最新技術を加えた「EyeSight(ver.2)」を搭載しました。「EyeSight(ver.2)」は、自動ブレーキによって車両を減速・停止させる「プリクラッシュブレーキ」で、前方衝突の回避または衝突被害の軽減を図るとともに、通常の追従走行に加えて先行車が停止した場合も、追従して停止制御する「全車速追従機能付クルーズコントロール」の追従性能を強化することによって、運転支援範囲を大幅に拡大しました。

※3 EyeSight  
2007年10月に当社が発表した「次世代ADA(アクティブドライビングアシスト)」。



EyeSight(ver.2)システムイメージ

### パッシブセーフティの取り組み

当社独自の安全ボディ「新環状力骨構造ボディ」により、全方位からの衝突に対し優れた安全性能を有しています。また相手車両や歩行者のダメージ軽減につながるコンパチビリティ(共存)性能の確保など、総合的な衝突安全性能を目指しています。

2009年度JNCAP<sup>※1</sup>に選定されたレガシィは衝突安全性能総合評価(運転席・助手席)、歩行者頭部保護性能評価での最高評価をはじめ、今年度より追加された前面衝突後席乗員保護性能評価でレベル4、後面衝突頸部保護性能評価でも最高評価をいただき、「自動車アセスメントグランプリ'09/'10」<sup>※2</sup>を受賞しました。スバル車としては、2007年度に選定されたインプレッサに続き、二度目のグランプリ受賞となりました。

またレガシィは海外でも、EuroNCAP<sup>※3</sup>で最高評価の5☆、IIHSでトップセイフティピック<sup>※4</sup>、ANCAP<sup>※5</sup>で最高評価の5☆を獲得し、主要国の安全情報公開においても安全性が高く評価されています。

- ※1 JNCAP(Japan New Car Assessment Program):自動車アセスメント 国土交通省と独立行政法人自動車事故対策機構(NASVA)が自動車の安全性能を評価し、結果を公表する自動車の安全情報公開プログラム。
- ※2 自動車アセスメントグランプリ 衝突安全性能総合評価が、運転席および助手席ともに最高評価の6☆、歩行者頭部保護性能評価が最高評価のレベル5、前面衝突後席乗員保護性能評価でレベル4以上、後面衝突頸部保護性能評価4段階評価の3段以上の評価を受けた自動車の中で最高評価を得た自動車を「自動車アセスメントグランプリ」として表彰。
- ※3 EuroNCAP(European New Car Assessment Programme) 欧州で行われている自動車の安全情報公開プログラム。
- ※4 トップセイフティピック The Insurance Institute for Highway Safety(米国道路安全保険協会)が行う自動車の安全情報公開で、前突、側突、後突(鞭打ち)、ルーフ強度の結果がすべてGood評価で、一般の人が購入できるグレードにスタビリティコントロールシステムを装備している自動車にトップセイフティピックが与えられる。
- ※5 ANCAP(Australasian New Car Assessment Program) 豪州で行われている自動車の安全情報公開プログラム。



提供:自動車事故対策機構(NASVA)



### 福祉車両への取り組み

#### 新型「レガシィ」もトランスケア<sup>※6</sup>シリーズの仲間入り

当社では、「クルマと生きる幸せを、すべての人と分かち合うこと」を目指して、身体が不自由な方やご高齢の方々にも安心して気持ちよくお乗りいただくために、福祉車両の開発・普及に努めています。福祉車両の製造販売は1982年より開始し、現在は「トランスケアシリーズ」の名称でご愛顧いただいています。

スバルでは、介護する方もされる方もストレスなく扱える省力装置を開発していくことを目指しています。また、トランスケアシリーズは、軽自動車から普通車まで、幅広い選択肢をご用意しています。2009年に発売したスバルの基幹車種である「新型レガシィ」にもトランスケア ウイングシート<sup>※7</sup>を設定しています。

より多くのお客さまにスバルの快適・信頼の新しい走りを楽しんでいただけるよう、充実化を進めています。

- ※6 トランスケア 英語の「Transportationトランスポーター(移動)」と「Careケア(介護・思いやり)」を組み合わせた造語で、スバルの福祉車両を総称するものとして1997年に商標登録しています。
- ※7 ウイングシート 簡単なスイッチ操作によりシートが電動で回転。快適な乗降をサポートします。



レガシィウイングシート

#### ◆トランスケアシリーズ販売台数



## 従業員とともに

# よりよい職場環境の構築に向けて

スバルでは「自由闊達でアグレッシブな創造集団」を目指して、企業風土の改革に取り組んでいます。個性豊かな活力ある組織を目指し、賃金制度のみならずキャリアプランを描く制度、教育制度、さらには福利厚生制度に至る幅広い視点から従業員が今まで以上に果敢にチャレンジできる制度を構築しています。

## 人材育成

### 「やる気に満ちた自立型人材」の実現を目指して

「自ら問題を発見し解決に向けて行動できる人材」の育成を通じて、当社が求める人材像である「やる気に満ちた自立型人材」の実現を目指しています。

2009年度は、次世代経営人材育成施策の実施、若年層

向け研修の拡充などに取り組ましました。2010年度は、全階層で昇格時に「新任研修」を実施し、『論理的問題解決』を軸にしたカリキュラムを導入します。また、ビジネススキルの習得・向上を目指したプロフェッショナルプログラムの実施、グローバル人材育成強化のための取り組みを進めます。

### ◆教育体系図

ミッショングレード ／職能資格		全社共通プログラム				各事業所プログラム	
		階層別プログラム	マネジメント強化	職能別プログラム	語学研修・国際化	自己啓発支援	各事業所プログラム
職制	E級	E級研修	職制向け専門研修 ex ●コーチング ●財務 等	プロフェッショナルプログラム ex ●ロジカルシンキング ●リーダーシップ ●タイムマネージメント ●プレゼンテーション ●財務分析 等	語学研修・国際化研修 各種プログラム	通信教育等	事業所研修 各種プログラム・公的資格取得支援等
	L級	L級フォロー研修 新任L級研修					
	M級	M級フォロー研修 新任M級研修					
一般	T-S主事1 T-S主事2	新任T-S主事1研修 新任T-S主事2研修	考課者研修				
	T-S主任	新任T主任研修 新任S主任研修					
	T-S1 T-S2 T-S3 T-S4	新任T1研修 新任S1研修 新任T2研修 新任S2研修 新任T3研修 新任S3研修					

## だれもが働きやすい職場づくり

### 仕事と家庭の両立を支援

従業員が個々の能力を存分に発揮するために、仕事と家庭の両立を支援し、働きやすい職場環境を整えることが重要と考えています。具体的には、子どもが2歳の誕生日を迎えた後の4月末まで延長できる育児休業制度や、子どもが小学校に入学するまでの間は短時間勤務ができる制度を導入し、子どもを養育している従業員が働きやすい環境の整備を進めてきました。2007～2009年度に実行した第二次行動計画の結果、2010年5月に次世代育

成支援対策推進法(次世代法)による基準適合一般事業主として、東京労働局長の二度目の認定を受けました。

また、2008年度には、育児短時間勤務の対象範囲を「小学校4年生始期までの子を養育する従業員」とする(従来は小学校1年生始期まで)ことなどを定め、2009年4月に『産休・育休ハンドブック』を発行し、制度の周知徹底、男女ともに利用しやすい風土づくりに努めています。



認定マーク

## Close Up

### 育児休暇取得者

上司・職場の暖かいサポートのもと、40日の育児休暇を取得しました。

以前から父親の育児への参加の必要性を感じていたなか、下の双子を含め子ども3人の育児が大変だったこと、仕事のプロジェクトがひと段落ついたことが取得のきっかけにもなりました。

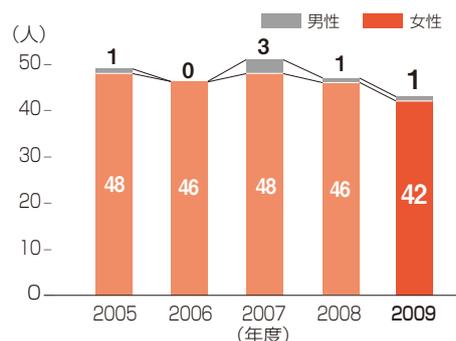
自分の思いどおりに進まないことが多いのは育児も仕事でも同じ。特に育児は“動機づけがなければ子どもは動かない”ということを知りました。この考えは仕事にも活かすよう心掛けているつもりです。

そもそも育児とは、育“自”なのではないかと思うほど、自分発見ができた育休でした。



カスタマーセンター企画部  
一柳 典利

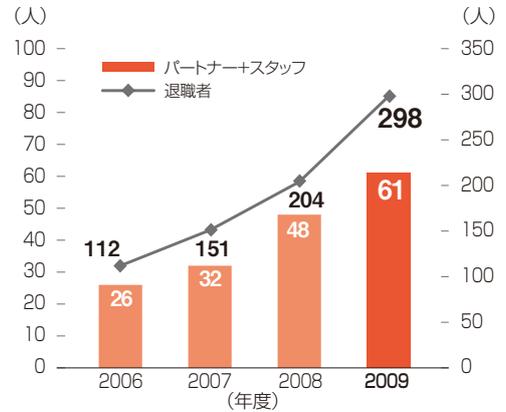
### ◆育児休暇取得者



### 60歳定年後の再雇用の促進

当社では60歳定年後の就労問題の解決および人材の活用を図るため、2003年に定年後再雇用制度である「シニアパートナー制度、シニアスタッフ制度」を導入しました。その後「改正高齢者雇用安定法」によって義務化された、「定年後65歳までの雇用継続」へ対応するため、当制度の一部見直しを行い、定年後の再雇用を進めてきました。また、2006年度には、定年後再雇用による人材活用をさらに積極的に行うため、当制度の見直しを再度実施しました。今後も「シニアパートナー制度」を通じて、定年を迎える従業員が持つ経験や能力を、後進の指導育成や技能の伝承に活かし、60歳定年後の再雇用促進に取り組んでいきます。

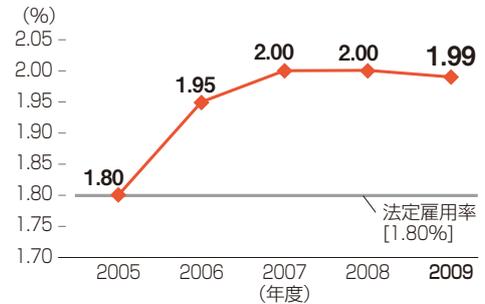
◆シニアスタッフ・パートナー雇用推移



### 障がい者雇用率1.8%達成を継続

障がい者雇用率は2010年3月時点で法定の1.80%を超えて1.99%となっており、現在157名の方が活躍しています。職場内の環境整備、工夫に関しては、工場内でユニバーサル化を推進しているため、家族に障がいをお持ちの社員の意見を参考にしている部署もあり、職場における負担を軽減する努力を行っています。今後も継続的な採用活動に取り組み、障がいをお持ちの方が働く喜びを通して、輝くことができる社会の実現を目指しています。

◆障がい者雇用率推移



## 労使コミュニケーション

### 相互信頼の関係を構築

当社と富士重工業労働組合は、円滑な企業運営と相互の意思疎通を図るため「労使協議会」を設置しており、コミュニケーションを密に取りながら相互理解・相互信頼の関係を築いています。近年、労使関係は良好な状況を維持しています。

### Close Up



人事部 労政グループ  
須藤 陽介

### 良い製品は、職場づくりから

スポーツの競技場には、選手にとって最高のグラウンドを提供するためにグラウンドキーパーという仕事があります。彼らはグラウンドを美しく保つだけでなく、実際に競技をする選手の声に耳を傾け、細部まで整備を重ねることで最高のコンディションを作り上げていきます。

最良の製品は、働きやすい職場づくりから。私たち人事部門では、従業員の能力を最大限に発揮できる職場づくりを目指し、従業員の声に耳を傾けながら人事制度の整備を行っています。そして、働きやすい職場から、最高の製品をお客さまへお届けできると私は信じています。当社での仕事を通じて、お客さまや従業員など、すべての方々へ最高のグラウンドを提供することが私の目標です。

## 労働安全衛生

### 安全衛生基本理念

「安全衛生は全ての業務に優先する」

### 安全衛生基本方針

労働災害、交通事故、疾病、火災等災害のゼロをめざし、全員が安全衛生の重要性を認識し合い、設備・環境・作業方法の改善と管理・意識の向上を図り、安全快適な職場作りを進める。

### 労働災害ゼロに向けて

当社は一人ひとりの安全意識・職場管理の向上と危険を排除する活動に取り組んでいます。意識面ではKYT<sup>※1</sup>、ヒヤリ・ハット<sup>※2</sup>活動の実施、管理面では1992年からTSZ<sup>※3</sup>という各職場の自主管理活動を早期に導入しました。

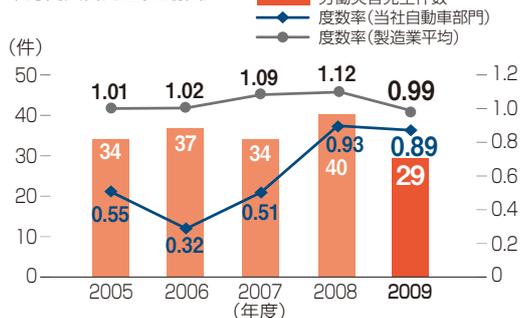
また、労働安全衛生マネジメントシステム<sup>※4</sup>を導入している事業場では、新リスクアセスメントを導入し、内部監査を通じてマネジメントシステムの継続的改善に取り組み、さらなる安全衛生水準の向上および労働災害防止に努めています。



群馬製作所の安全リスク確認会の様子

- ※1 KYT 危険予知訓練のこと。K=危険、Y=予知、T=トレーニング。
- ※2 ヒヤリ・ハット もう少しで災害となるニアミス事例を収集する活動。
- ※3 TSZ (Total Section Zero) 関連する部署が一体となって災害をゼロにする当社の安全活動。
- ※4 労働安全衛生マネジメントシステム 組織的・安定的な安全衛生管理を推進するため「計画・実施・評価・改善」という一連のプロセスを明確にした連続的・継続的に災害ゼロから危険ゼロの職場を目指すための仕組み。

### ◆労働災害発生状況推移



### 健康づくり

いつも体と心が健康な状態で、能力・技術を十分に発揮できることは、事業活動の活性化からも重要なことです。当社では、疾病休業日数を減らす取り組みを行うにあたり、法定健康診断項目に健康維持に必要な健診項目を加え、疾病の早期発見・早期治療に取り組んでいます。

また、メンタルヘルス対策として国の示す4つのケアに則った施策を実施しており、例えば、臨床心理士による「こころの健康相談窓口」の全事業所への設置などを行っています。



新卒メンタル教育

### 快適職場形成

国の示す快適職場指針の実現に向け、作業環境・作業方法・環境設備などの各項目について、組織的・計画的に改善活動をしています。また、より働きやすい職場をつくるため、休憩所・トイレ・喫煙所・食堂などについての改善、施設のユニバーサル化も進めています。

#### 職場での改善事例

重量物運搬における初動の押し作業は、女性や高齢者にとって非常に大きな負担になるため、台車にハンドアシストを設置して作業の軽減を図りました。



アシスト機能を設置した台車

### 安全運転講習会を開催

当社は、従業員の業務・通勤・私用すべての交通事故を防止するため、さまざまな取り組みを行っています。群馬製作所、東京事業所では62人の従業員が警察白バイ隊の指導のもと、所内で二輪車安全交通教室を開催し、安全運転基本講習と実技指導を行いました。

群馬製作所では、職場の自主的な交通安全活動の一環として安全運転体験教育を実施しています。運転者だけの訓練でなく、歩行者等から見た運転者の危険行動や正しいタイミングでの右折の仕方等、違った視点での教育訓練を実施しています。



白バイ隊員の指導を受ける従業員

## 社会とのかかわり

# 地域への感謝の気持ちを込めて

スバルグループでは環境活動、交通安全活動、地域貢献活動をCSRの3本柱として定めるとともに、「社会貢献方針」を制定して、社会貢献活動に積極的に取り組んでいます。

### 社会貢献方針

- 私たちは、科学技術やのりもの文化の発展、交通安全の普及に貢献します。
- 私たちは、ものづくりの楽しさ、大切さや尊さを知る、人づくりに貢献します。
- 私たちは、私たちが活動する地域の発展に貢献します。
- 私たちは、一人ひとりもよき市民として、社会に貢献することを互いに応援します。

## ボランティア活動支援

### 従業員意識向上のための表彰制度があります

プライベートの時間を使ってボランティアに取り組んでいる従業員を、2006年度から会社として表彰しています。選考にあたっては、応募の案件を「社会・福祉」「スポーツ・文化・青少年育成」「地域防災・安全」の3項目に分類し、2009年度までの実績で、それぞれの分野で最も高い功績を残した案件を表彰しました。2010年7月15日には第5回ボランティア表彰として、「地域防災・安全」「スポーツ・文化・青少年育成」部門の2件、2名の方々が受賞されました。



第5回ボランティア表彰の受賞者と奥原CSR・環境委員長  
写真左から金子浩さん、奥原CSR・環境委員長、星野和男さん

## 社会貢献活動

### 大規模災害支援

#### ■ハイチ地震(2010年1月)

SOAIはアメリカ赤十字を通じて、ハイチ地震の被災者を支援しました。

#### ■南米チリ地震(2010年2月)

富士重工業からは義援金1万USDドル、産業機器カンパニー製発電機61台(輸送費など含め435万円相当)を寄贈しました。また、チリ特約店・現地ディーラーからも寄付を行い、併せてボランティア約250名が協力し、復興支援をしました。



チリの被災地の復興支援をするボランティアと地元住民

### 交通安全普及活動

スバルグループでは従業員の業務、通勤、私用すべての交通事故を防止するため、さまざまな取り組みを行っています。

埼玉事業所では2009年12月に鴻巣警察交通指導課を招き、「交通事故に遭わないための予知運転」をテーマとする交通安全講話会を実施しました。気の緩みから発生する交通事故は、一人ひとりが安全を心掛け、交通事故は他人事ではないということを常に意識することが重要であることを学びました。

SIAでは2009年5月に運転経験の浅い若年ドライバーを対象としたSIA交通安全フェアを開催しました。フェアでは交通安全指導をはじめ、自動車のメンテナンス方法、チャイルドシートの取り付け方法を学びました。さらに、シートベルト効果確認の装置、飲酒運転体験ゴーグルを着用しての運転などで実際に体験することによって、シートベルト着用の重要性や飲酒運転の恐ろしさを体感しました。



埼玉事業所の交通安全講話会



SIAの飲酒運転体験ゴーグルをかけて、飲酒運転体験中



シートベルトの大切さを体感

## 社会とのかかわり

### 地域清掃活動

2009年6月、宇都宮製作所では労働組合主催でクリーンキャンペーンと題し、製作所周辺のごみの分別収集および草刈りを実施しました。従業員ボランティア440名が参加しました。地域美化活動として、毎年住民から好評を得ています。

SCIではEarth Day 20minutes Make Overと題し、SCI近隣地域を清潔で緑の多い状態に保つため、清掃活動に取り組みました。従業員が約30分かけて近隣の清掃をし、ごみを収集し、その後分別を徹底しました。同時に植樹イベントにも参加し、地元の公園に植樹をしました。



クリーンキャンペーン  
(宇都宮労組)



Earth day 20minutes Make Over(SCI)

### 出前環境教室

次世代の「モノづくり」を担う子どもたちに環境問題の現状を正しく伝え、理解してもらうとともに、当社が取り組んでいる環境保全活動を通じて、子どもたち自身の環境問題に対する気づきと実行のキッカケづくりにしてもらいたいという考えから、地域の小学校に従業員が出向き「地球温暖化の仕組みについて」実験を交えた説明を実施する活動を行っています。2004年度に群馬製作所で16校を対象にスタートした本活動は、2009年度には、群馬製作所のほか、宇都宮製作所と東京事業所でも行っており、計57校(約3,100名対象)で開催するまでに広がっています。



出前環境教室

### スバルビジターセンター

群馬製作所矢島工場内に2003年7月にオープンしたスバルビジターセンターでは、年間をとおし工場見学を含めて一般の方を受け入れています。2009年度には小学生87,813名(1,074校)、一般の方10,256名の計98,069名の皆さまに見学いただきました。



\*見学の申し込み(10名～200名)、スバルビジターセンターの詳細については、当社ホームページをご覧ください。  
HPアドレス  
<http://www.subaru.jp/about/showroom/vc/index.html>



スバルビジターセンター

## 「スバル地域交流会」活動

スバル地域交流会は当社群馬製作所とその取引先からなる組織で、太田市と周辺地域住民との相互交流ならびに地域発展を図り、「住みよい街」づくりに貢献することを目的としています。

### ■2009年度の主な活動

- 交通遺児に奨学金贈呈 [4月]
- おおた芝桜まつりに協力 [4月]
- 全国都市緑化フェア協賛 [4月]
- 「花いっぱい運動」花の苗配付 [7月、12月]
- 金山清掃活動 [5月]
- (チャリティー)ふれあいコンサート開催 [6月、11月]
- 交通安全活動 [10月]
- 上州太田スバルマラソン協賛 [10月]
- アトリエファンタジー通り協賛 [10月]
- 事業所周辺清掃活動 [会員各社 毎月2回]



詳細については、スバル地域交流会ホームページ(<http://www.chiiki-kouryukai.com/>)をご覧ください。なお、国内関連企業部会参画の㈱イチタン、桐生工業㈱、㈱スバルロジスティクスの3社は本交流会の会員となっています。

## Close Up スバル オブ チャイナの地域貢献活動①

中国市場でのスバル車販売を担うSOCでは、中国における環境保護活動や慈善活動を積極的に支援しています。SOCは中国野生動物保護協会(国家林業局の組織)と協力して、「スバル生態環保基金」を2008年に設立しました。\*「生態環境保護への支持を通して社会へ貢献すること、自動車メーカーとして環境にやさしい自動車を開発すると同時に同基金を通して社会へ貢献すること」を目的に、2008年、2009年と100万円(約1,500万円)ずつを寄付しました。そして毎年度、生態保護に大きな貢献をした団体および個人を表彰する「スバル生態保護奨励賞」を実施しています。第2回目となる2009年度は、14の優秀団体と38名の優秀個人を選出し、北京にて表彰式を開催しました。



2009年12月、北京にて開催した「スバル生態保護奨励賞」表彰式の様子

## スバル オブ チャイナの地域貢献活動②



スバル希望工程の支援により、建て直す予定の旧校舍(写真右側)。新校舎建設後は、生徒の寮として利用する予定  
2009年10月、希望学校の校長と先生、生徒およびスバルオーナーのお客さまと一緒に「地鎮祭」を行っている様子

中国青少年基金会在実施する「スバル希望工程」を通じて、経済的に学校に通うことができない農村地区の児童を支援する慈善活動を行っています。2008年度は150万円(約2,250万円)を寄付し、地震で大きな被害に遭った四川省に3ヶ所の学校および図書館を設立しました。2009年度は55万円(約825万円)を寄付し、四川省に1ヶ所の学校を設立しました。また、経済的に学校へ通うことができない15名の小・中学生へ援助を実施しました。

## SRDが地域で日本文化を紹介「もちつき大会を開催」



もちつき大会でもちをつくSRD従業員

2010年1月にSRDでは地元住民を招いて、もちつき大会を開催しました。SRDの従業員がもちの準備をし、つきたてのもちが振舞われました。遠方からの参加者もあり、600名以上が参加したこのイベントは地元のwebサイトでも取り上げられるほど盛り上がりました。そのほか、書き初めや折り紙、紙芝居など日本の伝統文化を地元住民に広めるよい機会となりました。

## お取引先とともに

# 共存共栄できる関係づくり

スバルは、企業理念の実現のため、高品質で環境にやさしくコストパフォーマンスに優れた部品や原材料、設備の調達を目指しています。そのためには、お取引先とスバルが対等な立場で相互に信頼し、切磋琢磨し、共存共栄できる関係をつくることが重要だと考えています。

## お取引先とともに

### 調達基本方針

スバルでは、以下の基本的な考え方のもと調達活動を推進しています。

#### 1)コンプライアンス&グリーン調達

私たちは、人・社会・環境の調和を目指した調達活動を行い、法令・社会規範の順守と環境保全に配慮した取引に努めます。

#### 2)ベストパートナーシップの構築

私たちは、信義誠実の原則に従った相互信頼の取引関係を基本として、お取引先と「WIN-WIN」の関係を築いていきます。

#### 3)フェアでオープンな調達先の選定

お取引先の選定にあたっては、国内外すべての企業に広く門戸を開き、常に公平・公正を期すとともに、品質・コスト・納入・技術開発・マネジメント・環境の6つの視点から最も優れた物品・サービスの調達に努めます。

### 適正取引の推進

当社では従来より、独占禁止法、下請代金支払遅延防止法などの調達業務に関連した法令の順守に取り組んできました。また、2007年6月に経済産業省が公表した「自動車産業適正取引ガイドライン」の適正取引推進活動も行っています。その一環として、当社のサプライチェーンのお取引先を対象とした相談窓口を設置しています。

適正取引推進相談窓口については、  
当社ホームページをご覧ください。



<http://www.fhi.co.jp/csr/mecenasat/supplier.html>



2009年度 購買方針説明会  
およびお取引先表彰式の様子

毎年、品質方針説明会や購買方針説明会などを通じて、お取引先とのコミュニケーションを図り、コンプライアンス相談窓口もご案内しています。

## 株主の皆さまとともに

# 積極的な情報開示に努めます

株主・投資家の皆さまに対しては業績、計画などを積極的に開示し、スバルへの理解を深めていただくとともに、皆さまにご支援していただけるよう、より魅力的な企業となるために企業価値の向上を目指していきます。

## 株主の皆さまとともに

### 積極的な情報開示

当社のホームページには「株主・投資家の皆さまへ」のページを設けて、当社の最新IR情報を提供しています。また、ご登録いただいた皆さまに決算情報などのIRに関する新着情報をメールにてお届けするIRメール配信(無料)には現在670名余りの方が登録されています。さらに携帯電話向けIRサイトも開設しています。

また、当社のIRサイトは日興アイ・アール株式会社が主催する「2009年上場企業ホームページ充実度ランキング」(対象企業約4,000社)で3年連続で「最優秀サイト(業種別1位)」に選ばれたほか、ゴメス・コンサルティング株式会社のIRサイト2010(対象企業約4,000社)でも昨年に引き続き10位にランクインしました。

最新IR情報は当社ホームページをご覧ください。



<http://www.fhi.co.jp/ir/index.html>

### 株主さま工場見学会の開催

株主さまを対象とした「株主さま工場見学会」を、年1回実施しています。この見学会は株主の皆さまに、当社生産活動の生きた現場をご覧いただき、当社の企業方針や日ごろの生産活動に対するご理解を深めていただくことを目的としています。工場見学会後には、株主さまから貴重なご意見を承るために、質疑応答の時間を設けています。ここでは当社役員とのコミュニケーションを図っていただくとともに、いただいたご意見は、今後の当社の課題として、社内で検討し改善に役立てていきます。

### 個人投資家向け説明会

当社では本年より個人の投資家の方々を対象とした会社説明会をスタートしました。当社の歴史から最近の業績までわかりやすくご説明させていただくとともに、質疑応答などにより、当社への理解を深めていただくよう努めています。今後も定期的に行っていく予定です。



ホームページ

FINANCIAL REPORT 2010

## Close Up

### 当社へのご理解を 深めていただくために

株主さま、投資家の皆さまには日ごろよりご支援を賜り深く感謝申し上げます。私どもは皆さまに積極的な情報開示を行っていくことにより、当社へのご理解を深めていただくよう努めております。そのためにホームページの充実を図り、読みやすい資料をご提供するとともに、株主さまを対象とする工場見学会を実施し、当社の生産活動に対するご理解を深めていただいております。なお、昨年より株主総会にご出席できない株主さまの議決権行使につきまして、書面のほかインターネットでも可能とし、株主さまの利便性向上を図らせていただきました。

本社 総務部 担当者より

# 環境報告

スバルでは、地球環境問題は経営における最重要課題のひとつであるという認識のもと、企業理念に基づいて環境保全に取り組む「環境方針」と具体的な行動指針「環境保全の運営基準」を1998年4月に制定しました。

2010年3月には、「環境保全の運営基準」を廃止し、より具体的な「環境方針」として改定しました。今後も全員参加で環境活動を推進していきます。

## 環境方針 〔制定:1998年4月 改定:2010年3月〕

常に地球環境と事業活動の深い関りを認識し、「クリーンな商品」を「クリーンな工場、オフィス」から「クリーンな物流、販売店」を通して、お客さまにお届けし、社会の持続的な発展を目指します。また、法規制・地域協定・業界規範の順守はもとより、社会・地域貢献、自主的な継続的改善、汚染の未然防止に取り組んでいきます。

- ・クリーンな商品 : 環境にやさしいスバルブランドの商品設計、研究開発
- ・クリーンな工場 : 生産工程における環境負荷の低減
- ・クリーンなオフィス : 本来業務を中心とした環境負荷の低減
- ・クリーンな物流 : 物流面における環境負荷の低減
- ・クリーンな販売店 : 販売店の環境保全活動に対する支援
- ・管理面の拡充 : 社会貢献や情報公開、スバルグループとしての環境活動強化



全従業員に配付された新「環境カード」改定された環境方針を記載し、裏面にはCSR方針が記載されています。

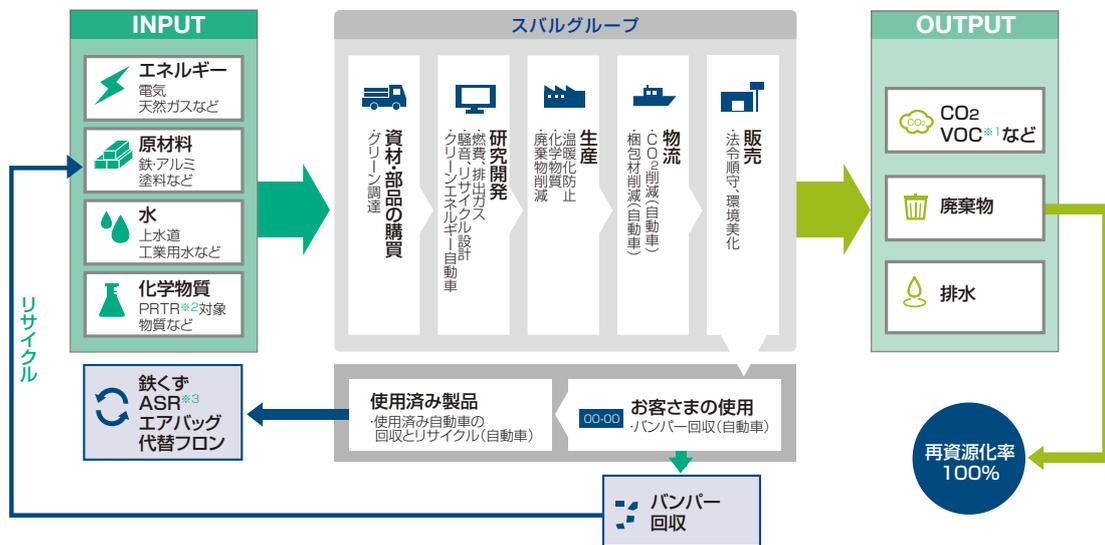


## 企業活動と環境への影響

### 自動車もたらす豊かさや地球環境対応の融合を目指して

スバルは、クルマを中心とした輸送機器メーカーです。自動車は私たちの暮らしになくてはならない便利で快適な乗り物ですが、限りある地球の資源を消費し、地球温暖化の原因となるCO<sub>2</sub>や、大気汚染の原因となる物質を排出します。私たちはこれら自動車のもつ二つの側面を強く認識し、そのうえで「豊かな自動車社会」の実現に向けた取り組みを行わなければならないと考えています。自動車の開発、生産、使用、廃棄、リサイクルという一連のライフサイクルを通して、環境に与える影響を十分に考慮し、環境への負荷を削減することによって、自動車もたらす豊かさ（気持ちよい走り 快適・信頼）と地球環境対応（燃費性能抜本向上）の融合を目指していくことが、私たちの責務だと考えています。

◆自動車にかかわる当社の環境負荷全体像

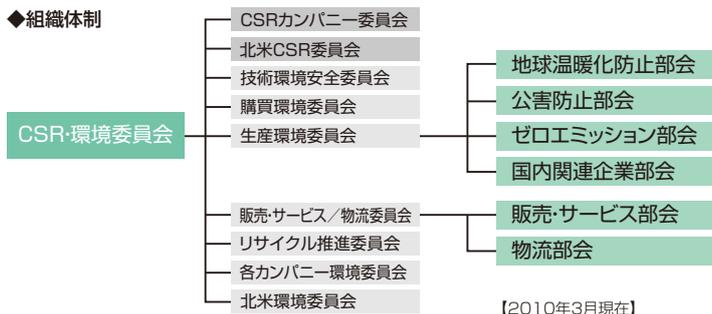


- ※1 VOC(Volatile Organic Compounds):揮発性有機化合物  
ホルムアルデヒドやトルエンなど、常温で揮発しやすい有機化合物のことで、近年、新築の住宅・ビルなどに入ると、目や鼻、のどなどに刺激を感じるなどの体調不良が生じるシックハウス症候群の要因とされている。
- ※2 PRTR(Pollutant Release and Transfer Register):化学物質排出移動量届出制度  
有害性のある多種多様な化学物質が、どのような発生源から、どれくらい環境中に排出されたか、あるいは廃棄物に含まれて事業所の外に運び出されたかをデータ把握し、集計し、公表する仕組み。
- ※3 ASR(Automobile Shredder Residue)  
ボディガスをシュレッダーで破砕し、金属類をリサイクルのために分別した後の残留物のこと。シュレッダーダストとも呼ばれる。

### 組織体制

当社では、環境方針や環境ボランティアプランの目標を達成するためにCSR・環境委員会を設置しています。この委員会は環境担当役員を委員長とし、全事業所の代表者が参加し運営される委員会組織であり、2009年度は5月27日、11月10日と2回開催しました。ここでは当社グループ全体のCSR・環境保全活動を総合的に、かつ合理的にマネジメントすべく活発に活動を推進しています。

◆組織体制



【2010年3月現在】

### 環境マネジメントシステムの構築状況

当社では、2004年度に本社を含む各拠点5サイト<sup>※3</sup>でISO14001の外部認証を取得しました。2009年度には、この5サイトを統合し、ひとつのマネジメントシステムとして外部認証を取得しました。

今後も、より効果的・合理的なマネジメントシステムを目指した取り組みを進めていきます。

また、国内スバル販売特約店では、ISO14001外部認証のほか、エコアクション21<sup>※4</sup>の外部認証取得を進めています。

- ※3 5サイト  
1)本社地区、2)東京事業所、3)群馬地区、4)宇都宮製作所  
5)産機カンパニー
- ※4 エコアクション21  
その組織の環境経営の取り組みが、環境省策定のガイドラインに適合していることを認証し、登録されるもの。

## 環境マネジメント

### 環境コミュニケーション

当社では各事業所周辺地域の方々とのコミュニケーション窓口を設けるとともに、さまざまな方法で環境情報の発信を行っています。35ページ「社会とのかかわり」でご紹介した群馬製作所のスバルビジターセンターには当社の環境取り組みを紹介する「リサイクルラボ」を設けているほか、宇都宮製作所、埼玉製作所にも廃棄物リサイクルを中心とした環境取り組みの様子を紹介する展示スペースを設けています。

#### ◆環境コミュニケーションツール



社内向けイントラネットによる環境情報発信



毎年発行している  
児童向け社会環境報告  
パンフレット

インターネット公開車種別環境情報

### 環境パフォーマンス評価制度

当社では2002年度より「環境パフォーマンス評価制度」を導入し、さらなる環境パフォーマンスの向上に取り組んでいます。これは、同業他社動向など相対評価をベースに毎年評価表を見直し、当社としてより合理的かつ有効的に環境保全活動に取り組んでいるかを評価する制度です。

2009年度の結果は合計70.5%となり、目標の70%を2年連続で達成しました。さらに改善すべきポイントとして、

- 原単位をベースとしたCO<sub>2</sub>排出量削減
- 海外を含めた当社グループとしての環境保全取り組み（中長期目標の設定、EMS構築範囲拡大）
- より活発な地域貢献活動の推進

などがあげられました。

### 環境教育・啓発

当社では2004年度に全社統一の階層別教育テキストを作成し、毎年度、新入社員をはじめ社内資格昇格者を対象に各階層に応じた環境教育を実施しています。

また事業所・カンパニーごとの環境マネジメントシステムに基づいた緊急時対応訓練、全員対象の環境保全一般教育、改善事例発表会、取引先各社への教育支援などを毎年度計画的に実施しています。



群馬製作所で  
開催した関連  
企業新入社員  
向け環境教育  
の様子

### 環境会計

当社では2000年度より環境会計を導入しています。当社の2009年度環境コストは160億円となり、前年度より2.5億円増加しました。これは主に研究開発費の増加(4億円)によるもので、生産段階・その他コストは1.4億円の低減となっています。

また経済効果は17.8億円となり、前年度より0.6億円減少しました。これは有価物売却益の減少(1.1億円)などが大きく影響しています。

\*環境会計の詳細については、下記ページに掲載しています。

- ・ 当社単独:47~48ページ
- ・ 国内関連企業部会の5社:49ページ
- ・ 北米環境委員会の5社:50ページ

# 環境問題の継続的改善への取り組み

## 第4次環境ボランティアプランの概要

### 2007年度から2011年度までの環境保全自主取り組み計画

スバルでは2006年度に第4次環境ボランティアプランとして2007年度から2011年度までの環境保全自主取り組み計画を発表しています。これは常により高い環境保全目標を掲げるとともに法規制、業界との連携を含めた的確な環境対策を織り込み、これまで以上にクリーンな商品を、クリーンな工場から、クリーンな物流により、クリーンな販売店を通してお客さまにお届けし、商品で社会に貢献することを目標としました。当社のみならずグループ企業の指針として共有し、当社グループとして環境諸問題の継続的改善に積極的に取り組んでいきます。ここではその取り組み項目の概要について、2009年度の実績と2010年度の計画とともにご紹介します。

\*43～44ページでは、第4次環境ボランティアプラン全項目の2009年度実績と2010年度の計画を掲載しています。

### 第4次環境ボランティアプランの概要

#### 地球温暖化防止に全力をあげて取り組んでいきます。

- 自動車のフルモデルチェンジ、年次改良ごとの継続的な燃費改善を図っていきます。
- 生産工場からのCO<sub>2</sub>排出量を2010年度までに1990年度比15%低減を目指します。
- 物流面では2011年度末までに、2006年度比5%のエネルギー使用量原単位削減を目指します。
- 電気自動車や風力発電システムなどクリーンエネルギーを利用する商品の開発、市場展開を進めます。

#### あらゆる段階で環境諸問題の継続的改善に取り組めます。

- 自動車ではさらなる低排出ガス対応化を進め、低排出ガス車両の普及を推進します。
- 新型車のリサイクル配慮設計を推進し、2015年のリサイクル率95%を目指します。
- 自動車生産ラインにおける揮発性有機化合物の排出量原単位を2010年度末までに2000年度比30%以上低減します。
- 全生産工場でのゼロエミッションを継続し、発生源対策により発生量を削減します。
- 海外も含めた取引先に環境マネジメントシステムの構築と環境負荷物質削減を要請するグリーン調達を進めます。
- 販売店の環境への取り組み活動に対する支援を行います。
- 社会貢献活動や環境関連情報の公開に努めていきます。

## 第4次環境ボランティアプラン

◆【第4次環境ボランティアプラン】富士重工業 環境保全自主取り組み計画(2007年度~2011年度)

[1] クリーンな商品

項目	目標・取り組み	2009年度実績	評価	2010年度計画
燃費の向上 [自動車]	フルモデルチェンジおよび年次改良ごとの継続的な燃費改善を図る。	◆新レガシィにリアトロンニックCVTを搭載し、燃費改善を図るとともにエクシーガへも搭載し、さらなる燃費改善を図った。	○	継続して、フルモデルチェンジ、および年次改良ごとの燃費改善を図る。
	平成22年度(2010年度)燃費基準達成車をさらに拡大する。	◆乗用車の平成22年度燃費基準+15%以上達成車の生産台数は昨年度比19ポイント向上し60%まで拡大した。 ◆すべての重量ランクで平成22年度燃費基準を達成 <sup>※1)</sup> した。	○	平成22年度燃費基準+15%以上達成車を拡大する。
	平成27年度(2015年度)燃費基準に向けた燃費改善を推進する。	◆平成27年度燃費基準達成に向けて、燃費改善を推進中。	○	引き続き、平成27年度燃費基準に向けた燃費改善を推進する。
排出ガスの クリーン化 [自動車]	平成17年基準排出ガス75%低減レベル対応の技術を拡大し、さらなる低排出ガス対応化を進め、低排出ガス車両の普及を推進する。	◆乗用車の平成17年基準排出ガス75%低減レベル(☆☆☆☆)の生産台数は89%まで拡大した。 ◆乗用車の低排出ガス認定車(平成17年基準排出ガス50%低減レベル(☆☆☆☆)以上)の生産台数は96%まで拡大 <sup>※1)</sup> した。	○	引き続き、平成17年基準排出ガス75%低減レベル認定車を拡大する。 (富士重工業生産車)
クリーンエネルギーを利用する 商品の開発	ハイブリッド自動車: アライアンスを活用した新ハイブリッドシステムの開発を行う。 <sup>※1)</sup>	◆新ハイブリッドシステムを開発中	-	引き続き、新ハイブリッドシステムの開発を行う。
	電気自動車: 業務用車両をはじめとした市場導入を目指し開発を行う。 <sup>※1)</sup>	◆プラグイン ステラを2009年7月よりリース販売開始し、官公庁、地方自治体、法人などの業務用車両として161台をリース販売した。	○	継続してプラグイン ステラを市場投入する。
	風力発電システムの開発、市場展開を継続する。 <sup>※2)</sup>	◆2,000kW級大型風力発電システム(SUBARU80/2.0)10基を建設し、運用を開始した。	○	引き続き、大型風力発電システムの拡販と、さらなる性能向上を目指して、実績を積んでいく。
LPG/CNGエンジンを使用した応用製品の市場展開を図る。 <sup>※3)</sup>	◆米国OEM向けデュアルフューエル(LPG/CNG)仕様V-TwinエンジンをCARB/EPA排ガス認証取得のうえ、市場投入を達成した。	○	デュアルフューエル仕様のエンジンのさらなる市場拡大を図る。	
リサイクル性の 向上 [自動車]	新型車のリサイクル配慮設計を推進し、2015年リサイクル率95%に貢献する。	◆再資源化率はシュレッダダスト82.1%で法定基準(2015年以降70%)を早期達成している。これにより車両換算したリサイクル実効率は97%となり、ボランティアプラン目標も早期達成した。 ◆エアバッグ類の再資源化率は94.1%で法定基準(85%)を達成した。 ◆新型車のほとんどの樹脂材料にリサイクル性に優れたオレフィン系樹脂を使用した。2010年度以降も使用を継続する。	○	再資源化率の維持・向上を図る。 新型車のリサイクル配慮設計の維持・向上を図る。
環境負荷物質の 低減 [自動車]	環境負荷物質の管理拡充および、さらなる低減を行う。	◆インパネ周りのスイッチ、リレー類、エアコンのセンサーなどの電気・電子部品について、はんだ鉛フリー材の採用、拡大を図った。	○	鉛化合物の鉛フリー化を順次拡大する。
車外騒音の低減 [自動車]	引き続き燃費向上や排出ガス低減との両立を図った騒音低減の技術開発を推進する。	◆CVTの特性を活かして市街地での騒音低減と燃費/排ガス性能との両立を進めた。	○	市街地での走行実態を考慮した騒音低減の技術開発を推進する。
エアコン冷媒にかかわる 地球温暖化の抑制 [自動車]	自動車1台あたりの冷媒(HFC134a)使用量の削減をさらに推進する。	◆新型車に省冷媒機器を搭載し、冷媒使用量を削減した。	○	冷媒使用量の削減をさらに推進する。
	低温暖化係数冷媒エアコンの開発を推進する。	◆低温暖化係数冷媒エアコンの開発を推進中。	○	低温暖化係数冷媒エアコンの開発をさらに推進する。
交通環境に 関する研究 [自動車]	安全かつ快適な車社会を実現する高度道路交通システム(ITS)への取り組みをさらに前進させる。	◆国土交通省 先進安全自動車(ASV)プロジェクトへの取り組みを継続推進。 ◆衝突回避プリクラッシュブレーキを搭載した、先進安全運転支援システム「新型アイサイト」を開発した。	○	高度道路交通システム(ITS)への取り組み、国土交通省 先進安全自動車(ASV)プロジェクトへの取り組みを推進する。
環境関連商品の 開発、環境関連 事業の推進	塵芥収集車の開発や環境機器・装置などの環境関連ビジネスを推進する。 <sup>※2)</sup>	◆電動式塵芥収集車「フジマイティエレクトラ」を開発して、省エネ・CO <sub>2</sub> 削減につながる活動ができた。 ◆物流環境においては、省エネ・CO <sub>2</sub> 削減活動であるモーダルシフト事業の取り組みが評価され「国土交通省海事局長表彰」を受賞した。	○	フジマイティエレクトラを市場導入し、燃費・CO <sub>2</sub> 削減、騒音低減に貢献する。さらに、派生車開発、CO <sub>2</sub> 削減効率向上を推進する。 モーダルシフト事業の取り組みを推進する。
	省力化、省人化、省エネルギーなどを目的としたロボット関連ビジネスを推進する。 <sup>※2)</sup>	◆オフィスビル専用部用小型清掃ロボットを住友商事㈱と共同で開発、導入した。 ◆サービスエリア大規模トイレ用小型清掃ロボットを中日本高速道路㈱と共同で、開発、導入した。	○	引き続きサービスロボットの事業化拡大に取り組んでいく。

※1) 自動車部門の取り組み。 ※2) エコテクノロジーカンパニーの取り組み。 ※3) 産業機器カンパニーの取り組み。  
注1) 第3次環境ボランティアプラン(2002~2006年度)の目標項目で、2007年度の取り組みにより目標を達成した項目。  
注2) ITS推進協議会:ITSによる安全運転支援システム推進のための関係省庁および産業界の代表で構成される協議会。



[2] クリーンな工場

項目	目標・取り組み	2009年度実績	評価	2010年度計画
地球温暖化の抑制	生産工場からのCO <sub>2</sub> 排出量を2010年度までに1990年度比15%低減を目指す。	◆CO <sub>2</sub> 排出量を1990年度比28%削減した。	○	CO <sub>2</sub> 排出量を1990年度比15%削減する。 [上乘せ努力目標:1990年度比22%削減]
生産工場における環境負荷物質の管理と排出削減	PRTR対象化学物質の環境への排出量削減を継続する。	◆排出量を1999年度比68.1%削減した。	○	PRTR法改正による新規指定化学物質の把握を開始するとともに、さらなる削減を進める。
	自動車生産ラインにおけるVOC(揮発性有機化合物)の排出量原単位(g/m)を2010年度末までに2000年度比30%以上低減する。	◆排出量原単位を2000年度比42.2%削減した。	○	排出量原単位の2000年度比30%以上削減を継続する。
	環境リスクアセスメント活動により環境リスクを低減し、事故・苦情・自主基準値超過のゼロ化を図る。	◆2009年度は、環境苦情4件、自主基準値超過1件、構内流出事故6件発生した。 法基準値超過と構内流出事故は、なし。	×	事故・苦情・自主基準値超過のゼロを目指した活動を推進する。
生産工場から排出される廃棄物の削減	歩留り向上、取り代削減、塗着効率向上、荷姿改善等の発生源対策により発生量を削減する。	◆2009年度発生量は64,936トン。 1999年度比27.8%、2008年度比4.5%低減した。	○	さらなる発生量の低減を推進する。
	ゼロエミッション(直接・間接を問わず埋立て処分量ゼロレベル)を継続する。	◆直接・間接を問わず埋立て処分量ゼロレベルを継続した。 (サーマルリサイクル後の焼却残渣含む)	○	ゼロエミッションを継続する。
水資源の節約	生産工場における水使用量を2011年までに1999年度比45%低減を目指す。	◆水使用量を1999年度比54.4%低減した。 [2009年度目標:1999年度比46.3%低減]	○	水使用量を1999年度比49.2%低減する。
グリーン調達活動	海外も含めお取引先に対し、環境マネジメントシステムの構築と環境負荷物質の削減を要請する。 環境マネジメントシステム構築については、下記を目標とする。 ●自動車部門、産業機器事業部門: 100%構築体制の維持継続。 ●エコテクノロジー部門、航空宇宙部門: 構築完了を目指す。	◆当社全体で100%(561社)が構築を完了した。 ・自動車部門:360社 ・航空宇宙部門:58社 ・エコテクノロジー部門:45社 ・産業機器部門:98社	○	新規お取引先を含めて100%構築体制を維持継続する。
	環境負荷物質の削減についてはEU指令など各種法規の対応日程を遵守する。	◆EU指令やREACH規則への法規対応を進めた。	○	はんだ鉛フリーへの切替を進める。 REACHのSVHC対応を進める。
	CSR調達についてはガイドラインを設定し、お取引先に展開する。	◆ガイドライン設定に向けた準備を進めた。	○	2011年のガイドライン設定に向けて引き続き準備を進める。

[3] クリーンな物流

項目	目標・取り組み	2009年度実績	評価	2010年度計画
物流面における環境負荷の低減	改正省エネ法への確実な対応の実施 ●2011年度末までに、2006年度比5%のエネルギー使用量削減を目指す。	◆エネルギー使用量原単位を2006年度比25.3%削減、2008年度比で7.8%削減した。	○	エネルギー使用量原単位を2006年度比25%削減維持を目指す。
	梱包資材などのリユースやリターンナブル箱の活用を推進し、環境負荷の低減に取り組む。	◆梱包資材などの総量を2006年度比約250トン削減、2008年度比約100トン削減した。	○	梱包資材のリターンナブル化の対象拡大などの施策により、さらなる削減を目指す。

[4] クリーンな販売店

項目	目標・取り組み	2009年度実績	評価	2010年度計画
販売店における環境保全活動の推進	販売店の環境への取り組み活動に対する支援を行う。	◆引き続きエコアクション21 <sup>注3)</sup> の認証取得支援を実施した。 [2009年度末実績 スパル販売特約店45社中、20社が認証取得完了した。]	○	引き続き、エコアクション21の認証取得支援を継続する。
	使用済みパンパーの回収を継続的に行う。	◆使用済みパンパーを38,733本回収した。	○	使用済みパンパーの回収を継続的に行う。
	交換された発煙筒の回収を継続的に行う。	◆交換された発煙筒を135,000本回収した。	○	交換された発煙筒の回収を継続的に行う。
	自動車リサイクル法への対応を継続する。	◆自動車リサイクル法に基づく2009年度再資源化実績。 ●シュレッダーダスト再資源化率82.1%となり、2015年度以降の法定基準である70%を達成した。 ●フロン類は162,829台(49,011kg)を引き取り、適正に処理した。 ●エアバッグ類は75,844台(15,101kg)をリサイクル施設に投入し、14,210kgを再資源化。再資源化率は94.1%となり、法定基準の85%を達成した。	○	自動車リサイクル法への対応を継続し、再資源化率の維持向上を図る。

注3)エコアクション21:環境省がISO14001をベースに策定した環境マネジメントシステムで、中小事業者が取り組みやすいように工夫されている。

[5] 管理面の拡充

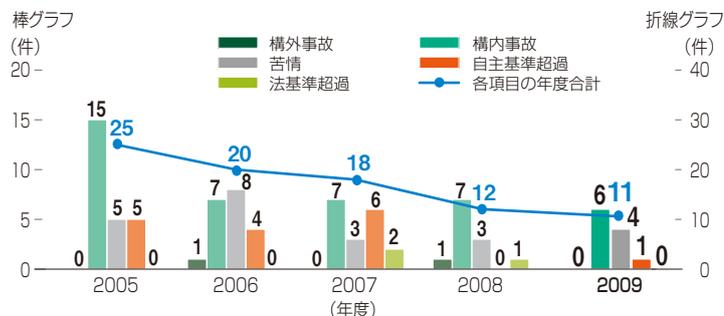
項目	目標・取り組み	2009年度実績	評価	2010年度計画
社会貢献活動の実施	◇環境イベントへの参画、工場近隣にお住まいの方との交流、工場見学への対応を継続する。 ◇各工場周辺地域の清掃活動や緑化活動に継続的に参加する。 ◇環境団体などの活動への支援、協力をを行う。	◆約10万人の工場見学受け入れや、地域の小学校へ出向いての出前環境教室(受講児童合計約3,100名)を開催した。 ◆延べ21万人以上を動員して、各工場周辺地域の清掃活動を継続実施した。 ◆地域の緑化推進委員会などに寄付を継続的に実施した。	○	工場見学受け入れ、敷地開放イベントの開催、出前環境教室を継続実施する。 各工場・事業所周辺地域の清掃活動を継続実施する。
環境関連情報の公開	◇環境・社会報告書の継続的発行、広報資料などによる環境・社会情報の適時公開を図る。 ◇環境・社会報告書記載内容の改善・充実を図る。 (ガイドラインへの対応、グループ企業も含めた報告)	◆CSRレポートに改称し、8月に発行した。 ◆冊子を要約版とレポートとして充実を図るとともに、web公開版をフルレポートとして充実を図った。 ◆2009環境報告ガイドラインの準拠率を向上させた。 ◆エコプロダクツ2009に出展し、当社の環境対応製品(電気自動車と風力発電)を広くアピールした。	○	2010CSRレポートを2010年8月初旬までに発行する。 web公開フルレポートでは、サイト単位の報告を含め、改めて環境報告の充実を図る。 エコプロダクツ2010に継続出展し、当社の環境対応製品、環境保全活動を広くアピールする。
環境教育や啓発活動の実施	◇社内教育システムに組み入れた環境・社会教育を継続実施する。 ◇社内報や各種媒体による啓発活動を継続する。 ◇講演会、職場における改善事例発表会などを継続実施する。	◆階層別、職場別に環境に関する教育を継続実施した。 ◆社内報やイントラネットを活用して環境啓発活動を進めた。 ◆事業所ごとに環境改善・省エネ発表会などを実施した。	○	環境に関する教育・啓発発表会などをさらに推進する。
環境マネジメントシステムの構築	◇ISO14001既取得事業所における環境マネジメントシステムの継続的改善を行う。 ◇関連企業と連携の強化、連結環境マネジメント体制の構築を継続する。	◆当社全事業所でISO14001統合認証を取得した。 ◆併せて環境方針をはじめ、関連規定類の再整備を進めた。 ◆環境に関する国内関連企業部会、北米環境委員会を各2回開催し、グループとしての環境マネジメントを進めた。	○	内部監査や環境教育など仕組みの共有化を進め、より合理的なEMS活動を目指す。 より合理的で効果のある連結環境マネジメント体制の構築を推進する。

## 環境法規制の順守状況

### 環境法規制値超過、環境事故・苦情

右図は、過去5年間の環境に関する苦情、法規制値超過、事故の発生件数の推移です。合計件数(折れ線グラフ)は、年々減少傾向にあります。いずれも、下表に示したとおり、是正処置を図っています。

◆環境法規制値超過、環境事故・苦情発生件数推移



### ◆2009年度にいただいた環境苦情と内容

2009年度には下表に示すとおり、4件の環境に関する苦情をいただきました。なお、2008年度は4件の環境苦情をいただいていた。今後も苦情件数“ゼロ”に向けて取り組みを進めていきます。

事業所名	件数	主な内容	主な是正処置
群馬製作所	臭気2件	2009年6月:群馬本工場北側にお住まいの方から排水処理場の臭気に関する苦情を受けました。	排水処理場の予備原水槽に貯留していた腐敗したクーラント液によるもので、該当槽の使用を禁止し日常的に臭気測定を実施することとしました。行政、区長および申立者様に経過を説明し、ご理解をいただきました。
		2009年12月:群馬本工場西側にお住まいの方から塗装臭気・ミスト飛散に関する苦情を受けました。	塗装工程からの排出・飛散によるもので、吸着フィルターの定期交換と飛散防止ネット設置により対策を図ったうえで、行政および申立者様に経過を説明し、ご理解をいただきました。
航空宇宙カンパニー (宇都宮製作所)	騒音2件	2009年7月:宇都宮本工場南側にお住まいの方から排水処理場エアリー漏れによる騒音に関する苦情を受けました。	交換したコンプレッサーのエアリーパッキン部よりエアリー漏れが発生したもので、使用実績のあるOリング式のエアリー弁に変更しました。また、エアリー弁の交換においてOリング式にするよう手順書を改訂しました。なお、申立者様には内容を説明し、ご理解をいただきました。
		2009年10月:宇都宮南工場東側にお住まいの方から休日のヘリコプターの地上運航に対し騒音苦情を受けました。	休日運航する場合、敷地境界から遠いエプロンで行うことを規定化し、実施しました。なお、申立者様には内容を説明し、ご理解をいただきました。

### ◆2009年度 環境法規制値超過件数と内容

当社では、環境法規制値よりも20%厳しい値を自主基準値として設定し、この自主基準値超過“ゼロ”を目標として取り組んでいます。2009年度には残念ながら下表に示すとおり、自主基準値超過が1件でした。なお、2008年度1件ありました法規制値超過は今回ありませんでした。

事業所名	件数	主な内容	主な是正処置
産業機器カンパニー (埼玉製作所)	水質1件	2009年4月:下水道放流の水質測定で自主基準値を超える値となりました。[n-ヘキサン抽出物質(動植物油)] 28mg/lを記録、法規制値30mg/l、自主基準値24mg/l	廃液処理装置の生物処理膜の不良が原因と考えられ、生物処理膜と吸着剤の交換を定期的(1回/3ヶ月)に実施することとしました。

### ◆2009年度 環境事故発生件数と内容

当社では、事業所内部で処理が完了したものも含めて、環境事故をカウントして事故件数の低減・外部へ影響する事故の未然防止に取り組んでいます。2009年度には下表のとおり構内事故が6件発生しました。なお、2008年度には1件の外部流出事故を含めて、計8件の環境事故が発生していました。今後も環境事故の未然防止に取り組んでいきます。

事業所名	件数	主な内容	主な是正処置
群馬製作所	構内事故1件	2009年11月:群馬本工場において、暖房機より燃料の重油が約700l、所内水路に流出しました。	流出油は所内水路の油水分離槽に滞留、ここで全量回収したため、外部への流出は食い止めました。対策として事故発生源の暖房機の点検、劣化部品の交換を行い、手順を改定するとともに所内類似職場に水平展開を施しました。
宇都宮製作所 (航空宇宙カンパニー)	構内流出事故2件	2009年12月:南第2工場 ボイラー工事でアルカリ排水を移送していたところ、ホースが抜けて排水200lが所内雨水側溝に流出しました。	流出したアルカリ排水は所内水路で全量回収し、外部への流出はありませんでした。対策として工事前に環境リスクを確認し対策を実施するとともに、工事作業員に対し注意事項を周知させることを手順に織り込みました。
宇都宮製作所 (エコテクノロジーカンパニー)		2010年3月:宇都宮本工場内酸洗浄工程より酸性溶液が所内側溝に80l流出しました。	溶液の流出した範囲を土壌で囲い、水洗しながらの吸引作業を溶液のpHが基準値内になるまで続けました。また、該当作業員への再教育を行いました。
東京事業所	構内流出事故3件	2009年7月:廃棄処理作業中に、パワーステアリングポンプを取り外し、そのまま所内をリザーブタンクよりオイルを漏らしながら走行したため、所内通路に漏洩(量:0.5l未満)しました。	所内走行経路の油分の吸着・拭き取りを行うとともに、パワーステアリングポンプを取り外した状態での走行禁止を教育により徹底しました。
		2009年9月:廃棄予定車の所内牽引運行中オイルを漏らしながら走行したため、所内通路に漏洩(量:0.5l未満)しました。	今回の漏洩はパワーステアリングオイルで、部品取り外し後に漏れない事を確認していますが、牽引中にハンドルを切ったことによる加圧で漏れ出したのが原因でした。上記同様対策を図るとともに、牽引時の後方確認を徹底しました。
		2009年11月:試験車走行中にエンジン冷却液(クーラント)が漏れ、所内通路に漏洩(量:0.5l未満)しました。	試験走行前の点検実施の再徹底と、少しでも異常を認知した際は試験を中止することを課内展開しました。

## 環境パフォーマンスデータ

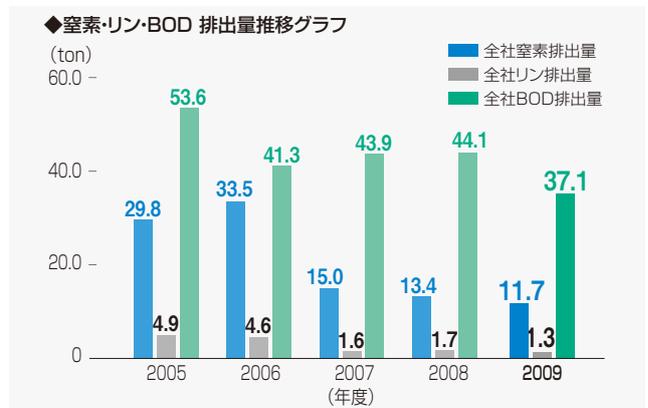
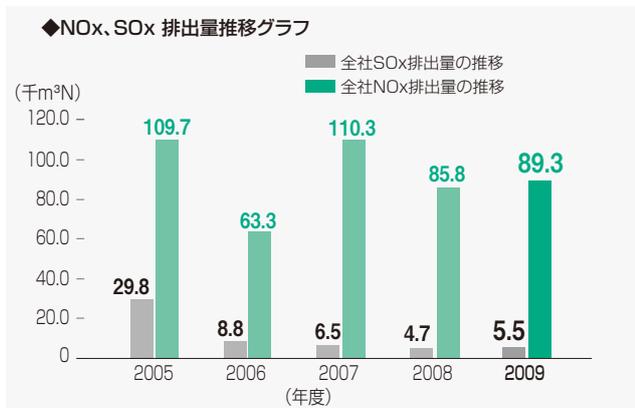
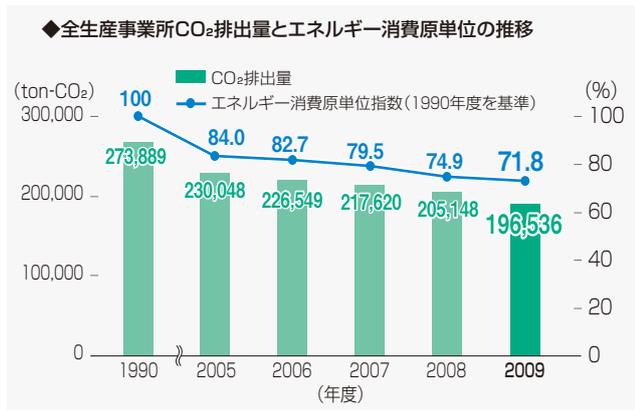
当社の2009年度の主な環境パフォーマンスはグラフに示したとおりです。

CO<sub>2</sub>排出量、廃棄物発生量、水使用量、PRTR対象化学物質排出量のいずれにおいても低減が図れました。

なお廃棄物の埋立量につきましては、2004年度にゼロエミッション<sup>※1</sup>を達成し、現在も継続しています。

※1 当社のゼロエミッションの定義

埋立物(直接埋め立てされるもの+中間処理後に埋め立てされるもの)の総量が金属くずを除く廃棄物(産業廃棄物+特別管理産業廃棄物+事業系一般廃棄物)の総量の0.5%未満のことをいいます。



## 富士重工業(単独)の2009年度実績

### 2009年度集計結果について

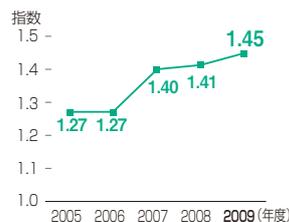
- 環境コストは160億円で、前年度より2.5億円(1.5%)増加しました。これは環境負荷低減コストは減少(1.3億円)しましたが、製品研究開発費等の増加(3.9億円)が大きく影響したことによります。
- 経済効果は17.8億円で前年度より0.6億円減少しました。これは廃棄物処理費・有価物売却益の減少(1.1億円)が大きく影響しています。
- 環境パフォーマンス(物量効果)は、CO<sub>2</sub>排出量低減、廃棄物量低減、VOC排出量低減が順調に改善されました。PRTR対象化学物質は取扱量と排出量ともに昨年量の維持となりました。(埋立量については2004年度以降「ゼロレベル」を継続しています)

### 環境経営指標

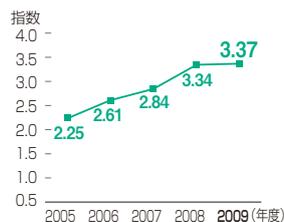
環境経営指標のひとつとして、事業活動の環境効率を[売上高÷環境負荷]ととらえ、生産段階における環境負荷量で1999年度を基準に算出した結果が右記のグラフです。

CO<sub>2</sub>排出量、PRTR対象物質排出量、廃棄物量ともほぼ順調に環境効率が向上しています。

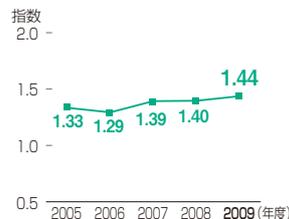
◆売上高/CO<sub>2</sub>排出量



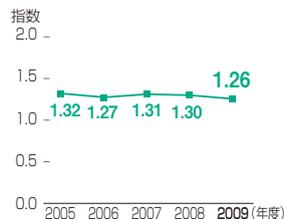
◆売上高/PRTR対象物質排出量



◆売上高/廃棄物量



◆売上高/環境コスト



◆2009年度の環境コストおよび効果の集計結果 ◇集計対象:富士重工業(単独) ◇集計期間:2009年4月~2010年3月

コスト区分 右下[番号]:環境省ガイドラインでのコスト分類(※1参照)	環境コスト			主な内容 ☆:2009年度新規実施施策 (増加要因)	設備投資額 (百万円)			
	2007年度	2008年度	2009年度		2007年度	2008年度	2009年度	
環境負荷低減コスト (生産段階)	廃棄物の処理・リサイクル、 廃棄物削減 [①-3]	408	466	416	リサイクル費 ☆モートルック購入	173	13	1
	省エネ、CO <sub>2</sub> 排出削減 [①-2]	41	41	47	☆工場・設備の更新 ☆照明インバータ化	729	184	343
	代替フロン排出低減 [①-2]	0.7	0.0	0.0	—	0.0	0.0	0.0
	排水処理、排ガス処理等 公害防止 [①-1]	271	322	300	排水処理費 ☆塗装臭気対策工事	276	130	54
	VOC排出低減 [①-1]	15	16	16	塗装工場の更新	726	49	0
	環境負荷低減コスト合計	735	845	779		1,905	376	398
投資コスト	教育、ISO14001関連 [③]	114	108	95	環境教育 ISO14001維持(申請費、専任労務費)	—	—	—
	製品研究開発 [④]	14,998	14,377	14,774	燃費向上、排ガスクリーン化、リサイ クル性向上 環境関連の研究開発設備の修繕	893	1,011	1,026
	投資コスト合計	15,112	14,485	14,870		893	1,011	1,026
その他コスト	製品使用廃棄後の対策 [②]	183	163	143	自動車リサイクル対応	116	0	0
	社会貢献、その他環境対策 [③⑤⑥⑦]	283	219	165	CSRレポート作成、工場周辺清掃 日本自動車工業会環境関連事業 植樹、環境不具合対策等	0	39	0
	その他コスト合計	465	382	308		116	39	0
合計	16,313	15,711	15,957		2,914	1,426	1,424	

※1 環境省ガイドラインでのコスト分類

① 事業エリア内コスト、①-1 公害防止コスト、①-2 地球環境保全コスト、①-3 資源循環コスト、② 上・下流コスト、③ 管理活動コスト、④ 研究開発コスト、⑤ 社会活動コスト、⑥ 環境  
損傷対応コスト、⑦ その他コスト

◆環境コストおよび経済効果の考え方と算出方法

環境省のガイドラインを参考に、富士重工の環境保全活動組織に合わせた独自のガイドライン(2005年度集計から一部算出方法を変更)を策定し、これに基づき環境コストおよび経済効果を算出・集計しています。(グループ企業も同様に算出・集計しています。)

算出方法詳細につきましては、2006環境・社会報告書別冊データ編の9ページから13ページに掲載していますので参照ください。

◆環境コスト、設備投資額の算出方法

環境対応とそれ以外の目的を合わせ持つ設備(投資額25百万円以上)の投資額・関連費(維持管理費等)および労務費については、差額集計または按分集計を行っています。例えば、ある生産設備について、省エネルギーに関する投資額、環境コストは以下のよう

設備投資額、環境コスト=  
 $K \times (\text{該当生産設備の設備投資額} + \text{維持管理費など})$   
 ここで、Kは環境影響係数で次から算出します。  
 $K = (\text{投資総額} - \text{省エネ目的なしの場合の投資額}) / \text{投資総額}$

設備投資額が25百万円未満の小規模設備については導入目的から判断し、環境目的主体のものであれば環境設備として設備投資額と維持管理費等のコストの全額を計上しています。また、キャッシュフロー重視の観点から投資設備の減価償却費は環境コストとして計上しておりません。その他、固定資産税・保険料等少額の費用は計上を省略しています。環境設備による環境コスト、経済効果は、設備稼働の翌年から3年間のみ計上しています。

◆経済効果の算出方法

環境省ガイドラインを参考に環境負荷量の削減に伴って得られる費用削減等の効果を基本とし、一部当社独自の考え方を織り込み算出しています。

具体的には、廃棄物等発生量抑制および処理方法の変更による廃棄物等処理費低減分、エネルギー費用削減分等について、コスト区分それぞれに対応させ算出しています。設備を伴わない環境改善施策については、前年度との費用の差額(その改善施策を実施しなかった場合との費用の差額)としています。なお、製品付加価値への寄与、リスク回避(賠償責任回避)等は算出方法に明確な裏づけを与えることが困難であるため当面経済効果把握の対象外としています。

◆環境コストの定義と分類

①環境負荷低減コスト	生産段階で発生する環境負荷を低減させるコスト	
②投資コスト	将来にわたり環境保全に効果を発するコスト	
③その他コスト	上記に属さないコスト	
※環境設備投資額	環境コストに含めず別枠で表示しています [キャッシュフロー重視の観点から、投資設備の減価償却費はコスト計上していません]	

経済効果		効果金額(百万円)		
		2007年度	2008年度	2009年度
環境負荷低減コスト(生産段階)	廃棄物発生抑制、処理方法変更による処理費削減、リサイクルで得られた有価物等の売却益	1,628	1,517	1,408
	エネルギー費用削減 コージェネレーションシステム効果 照明インバータ化効果	226	313	357
	代替フロン回収・再利用	4	4	4
	処理費用低減	3	4	1
	ペイントガン変更による塗着効率向上	100	4	8
	環境負荷低減効果合計	1,961	1,842	1,777
	投資コスト	—	—	—
		(投資効果合計) 当面把握対象外	0	0
その他コスト	リサイクル材使用によるバージン材削減	29	0	0
	—	0	0	—
	その他効果合計	29	0	0
合計	1,990	1,842	1,777	

環境パフォーマンス(物量効果)					
主な内容	単位	2007年度実績	2008年度実績	2009年度実績	対前年増減分
廃棄物発生量	ton	71,653	68,019	64,936	-3,083
埋立量	ton	0	0	0	0
エネルギー使用量(原油換算)	千kℓ	134.6	126.9	121.9	-5.0
生産高エネルギー原単位	kℓ/億円	13.3	13.2	13.0	-0.3
CO <sub>2</sub> 排出量	万ton-CO <sub>2</sub>	21.8	20.5	19.7	-0.9
—	—	—	—	—	—
PRTR対象物質 <sup>※2</sup>					
取扱量	ton	4,053	3,337	3,137	-200
排出量	ton	842	681	665	-17
VOC排出量(自動車のみ)	g/m <sup>2</sup>	63.2	56.3	52.8	-3.5

※2 年間取扱量1トン(特定第一種は0.5トン)以上の物質を集計しています。

◆環境保全活動が当社の事業活動に占める割合

	2007年度	2008年度	2009年度
試験研究費に対する環境保全目的の研究開発費の割合	29%	33%	40%
設備投資額に占める環境保全目的の投資額割合	8%	4%	5%

\* 小数点第一位を四捨五入していますので、表記数字の合計が一部合わないところがあります。

## 国内関連企業部会5社の2009年度実績

### 2009年度集計結果について

国内関連企業部会5社の生産段階での環境負荷低減活動においては、環境コストは1.26億円と9百万円の減少(前年比6.8%減少)、経済効果は1.4億円と80百万円の減少(前年比36.4%減少)となりました。環境パフォーマンス実績値については総合的に削減が進んでいますが、廃棄物量が305トン(リサイクル処理)増加しています。

廃棄物の埋立量については2008年度よりさらに1トン(17.3%)削減し、部会全体として廃棄物ゼロレ

ベルを継続しました。引き続き、部会の全個別企業での廃棄物ゼロレベル達成に向け取り組みを推進しています。

エネルギー使用量・CO<sub>2</sub>排出量の総量削減を進めています。CO<sub>2</sub>排出量は24.0千ton-CO<sub>2</sub>で2008年度比0.72%の削減となりました。地球温暖化防止のため、さらに省エネルギー、CO<sub>2</sub>排出量削減に取り組んでいきます。

PRTR対象物質については取扱量、排出量とも削減が進んでおり、2009年度は各社とも対象物質はありませんでした。

### ◆2009年度の環境コストおよび効果の集計結果

注:小数点第一位を四捨五入していますので、表記数字の合計が一部合わないところがあります。

◇集計対象企業:国内関連企業部会5社:輸送機工業(株)、富士機械(株)、(株)イチタン、桐生工業(株)、(株)サルロジスティクス

◇集計対象期間:2009年4月~2010年3月

### ◆集計方法・計上基準について

2005年度集計から導入した当社グループの環境会計ガイドラインにより集計を行いました。ガイドラインの概要は富士重工業(単独)のページを、また、詳細につきましては2006環境・社会報告書 別冊データ編(Webに掲載)P9~P13をご参照ください。

環境コスト				投資額 (百万円)			経済効果				
コスト区分 右下[番号]:環境省ガイドラインでのコスト分類*	コスト金額(百万円)			投資額(百万円)			内容	金額(百万円)			
	2007年度	2008年度	2009年度	2007年度	2008年度	2009年度		2007年度	2008年度	2009年度	
環境負荷低減コスト(生産段階)	廃棄物の処理・リサイクル、 廃棄物削減 [①-3]	55	54	44	1.7	0	0	廃棄物発生抑制、処理方法変更による処理費削減、リサイクルで得られた有価物等の売却益	193	182	118
	省エネ、CO <sub>2</sub> 排出削減 [①-2]	12	11	15	21	7	8	エネルギー費用削減	33	38	21
	排水処理、排ガス処理等 公害防止 [①-1]	6	7	7	74	7	0	—	0	0	0
	環境負荷低減コスト合計	72	72	66	97	14	8	環境負荷低減効果合計	226	220	140
投資コスト	教育、ISO14001関連、 環境調査ほか [③]	12	11	12	—	—	—	—	—	—	—
	製品研究開発 [④]	48	47	45	0.4	0.2	0	—	—	—	
	投資コスト合計	60	58	57	0	0	0	(投資効果合計)当面把握対象外	0	0	0
コスト その他	社会貢献、環境対策ほか [②⑤⑥⑦]	12	5	3	—	—	—	—	1	0	0
	その他コスト合計	12	5	3	0	0	0	その他効果合計	1	0	0
合計		144	135	126	97	14	8		226	220	140

環境パフォーマンス(物量効果)					
項目	単位	2007年度 実績	2008年度 実績	2009年度 実績	対前年 増減分
廃棄物量	ton	7,775	6,944	7,250	305
埋立量	ton	14	8	6	-1
エネ使用量(原油換算)	千kl	14.1	13.8	13.6	-2.0
生産高エネ原単位	kl/億円	39.43	38.55	1.39	-37.16
CO <sub>2</sub> 排出量	ton-CO <sub>2</sub>	24,757	24,198	24,024	-174
PRTR化学物質 <sup>*2</sup>					
取扱量	ton	2	0	0	0
排出量	ton	1	0	0	0

※1 環境省ガイドラインにおけるコスト分類

- ① 事業エリア内コスト
- ①-1 公害防止コスト
- ①-2 地球環境保全コスト
- ①-3 資源循環コスト
- ② 上下流コスト
- ③ 管理活動コスト
- ④ 研究開発コスト
- ⑤ 社会活動コスト
- ⑥ 環境損傷対策コスト
- ⑦ その他コスト

※2 各社の年間取扱量1トン(特定第一種は0.5トン)以上の物質を集計対象としています。09年度は対象物質はありませんでした。

## 海外関係会社(北米)5社の2009年度集計結果 [参考値]

北米における関係企業5社の2009年度(2009年4月～2010年3月)の環境会計集計を行いました。

### 2009年度試行集計結果について

- 環境コストは811百万円、内訳は廃棄物処理で314百万円、排水処理等公害防止で192百万円、製品の研究開発で230百万円でした。
- 経済効果は588百万円でした。これは主に廃棄物処理費用削減による効果です。

- 環境パフォーマンス(物量効果)では廃棄物量は増加しましたが、直接埋立量は削減できました。特に自動車生産拠点SIAの直接埋立量は0トンを継続しています。
- エネルギー使用量とCO<sub>2</sub>排出量は、削減努力により前年度に比べ減少しました。地球温暖化防止のため、さらに削減に努めていきます。

### ◆2009年度の環境コストおよび効果の試行集計結果

注:小数点第一位を四捨五入していますので、表記数字の合計が一部合わないところがあります。  
◇集計対象企業:SIA、RMI、SOA、SCI、SRDの北米関連企業5社  
◇集計対象期間:2009年4月～2010年3月

### ◆集計方法・計上基準について

2005年度に富士重工業(単体)・国内関連企業部会で導入した富士重工業グループ環境会計ガイドラインに準拠して集計しました。ガイドラインの概要は富士重工業(単体)のページをご参照ください。

環境コスト		コスト金額 (百万円)		設備投資額 (百万円)		経済効果		
コスト区分 右下[番号]:環境省ガイドラインでのコスト分類 <sup>*1</sup>		コスト金額 (百万円)		設備投資額 (百万円)		内容	金額(百万円)	
		2008年度	2009年度	2008年度	2009年度		2008年度	2009年度
環境負荷低減コスト (生産段階)	廃棄物の処理・リサイクル、 廃棄物削減 [①-3]	259	314	0	4	廃棄物発生抑制、 処理方法変更による 処理費削減、売却益	1,292	536
	省エネ、CO <sub>2</sub> 排出削減 [①-2]	13	28	6	1	エネルギー費用削減	17	51
	排水処理、排ガス処理等 公害防止 [①-1]	167	192	0	2	—	0	1
	環境負荷低減コスト合計	439	535	6	7	環境負荷低減効果合計	1,309	588
投資コスト	教育、ISO14001関連、 環境調査(非定常) [③]	32	33	0	0	—	—	—
	製品研究開発 [④]	229	230	0	0	—	—	—
	投資コスト合計	261	262	0	0	(投資効果合計) 当面把握 対象外	0	0
その他コスト	社会貢献、環境対策ほか [②⑤⑥⑦]	3	13	0	0	—	0	0
	その他コスト合計	3	13	0	0	その他効果合計	0	0
合計		703	811	6	7		1,309	588

環境パフォーマンス (物量効果)			
項目	単位	2008年度 実績	2009年度 実績
廃棄物量	ton	22,040	25,018
直接埋立量	ton	544	501
エネ使用量(原油換算)	千kℓ	55.4	52.1
CO <sub>2</sub> 排出量	ton-CO <sub>2</sub>	110,721	101,926

注:小数点第一位を四捨五入していますので、表記数字の合計が一部合わないところがあります。

※1 環境省ガイドラインにおけるコスト分類

- ① 事業エリア内コスト
- ①-1 公害防止コスト
- ①-2 地球環境保全コスト
- ①-3 資源循環コスト
- ② 上・下流コスト
- ③ 管理活動コスト
- ④ 研究開発コスト
- ⑤ 社会活動コスト
- ⑥ 環境損傷対策コスト
- ⑦ その他コスト

## クリーンな商品

# 環境に配慮したクルマの開発

スバルでは、「走りと地球環境の融合」を目指して、燃費の向上、排出ガスの低減、騒音対策など、あらゆる面を考慮した技術開発を進めています。  
電気自動車や次世代電池の開発にも積極的に取り組み、さらなる環境保全に貢献していきます。

## 燃費の向上

### 燃費向上への考え方

クルマは燃料を消費するとそれに比例した二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)を排出します。燃費の改善を行うことで限られたエネルギー資源を節約し、二酸化炭素の排出を減らして地球温暖化防止にも寄与できます。

スバルでは、シンメトリカルAWDや水平対向エンジンなどの特長を活かしつつ、エンジンの改良による効率化、駆動系の伝達ロスの軽減、車両の軽量化、走行抵抗の軽減など燃費改善の技術開発を進め、ガソリン自動車の燃費目標である平成22年度燃費基準をさらに15%以上上回る基準達成車を順次市場投入しています。

### 燃費の向上 目標

平成22年度燃費基準+15%以上達成車を拡大する。

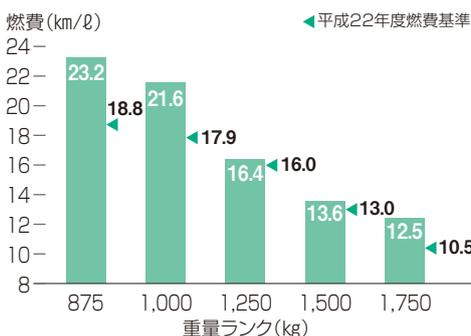
### 全重量ランクで平成22年度燃費基準を達成

ガソリン乗用車の平成22年度燃費基準達成車の生産台数は、全体の91%を占め、全重量ランクで平成22年度燃費基準を達成しました。

ガソリン軽貨物車は2001年度に全重量ランク、2002年度以降は、全車種で平成22年度燃費基準を達成しています。

エコカー減税の対象となる平成22年度燃費基準+15%以上達成車の生産台数は、全体の59.8%を占めており、2008年度比18.6ポイント拡大しています。今後も当社は低燃費車の普及を促進していきます。

### ◆ガソリン乗用車の平成22年度燃費基準達成状況



### エンジンの改良

新型レガシィではエンジンの仕様を全面的に見直すことによって燃費をはじめとして排出ガスも全車平成17年度基準75%低減レベル対応するなど環境性能の向上に取り組んできました。

中心となるエンジンの排気量を従来型に対してUPすることでドライバビリティを向上させた扱いやすいエンジンとし、フリクションの低減、電装系や冷却性能の改善をはじめとした細部にわたる改善を図ることによって、排気量UPにもかかわらず従来型以上の実用燃費のよさを実現しました。



2.5リットル SOHC エンジン

### 駆動系の改良

新型レガシィ2.5ℓ NA車では、環境性能と動力性能を両立させる次世代自動変速機として、量産乗用車としては世界初となるAWD乗用車用縦置きチェーン式CVT「リニアトロニック」を開発しました。主変速機構にはベルト式より高効率・コンパクトなチェーン式バリエータを採用し、レイアウトの工夫によって水平対向エンジン+シンメトリカルAWD技術と融合させ、クラストップレベルの燃費性能と従来のCVT車とは一味違う運転の愉しさと安全の走り、さらに衝突安全性能の向上を実現しました。

また、2.5ℓターボおよび3.6ℓのAT車には内部フリクションを低減した5ATを、2.5ℓターボMT車は新開発のコンパクト6速MTを標準装備し、環境性能を高めました。



チェーン式CVT「リニアトロニック」

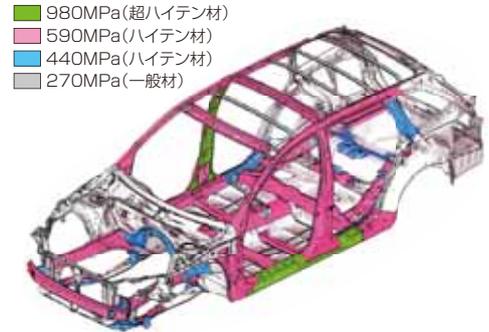
## レガシィの燃費向上の取り組み

### 車体の軽量化

新型レガシィは、衝突性能トップレベルを狙った衝突エネルギー吸収構造、そして走りを支える車体剛性を確保しつつ、車体サイズ拡大と軽量化を両立するよう開発しました。

新採用のエンジンクレードルにより、前方部の車体フレームの最適化を図りながら前面衝突時のエネルギー吸収効率を高め、基本となる車体骨格で衝突性能を向上させています。側面衝突時の車室内変形量を低減させる部位など要所に980MPa級の高張力鋼板も使用し、軽量化を図りました。

さらに、部材の結合部構造の見直し、効果的な部分補強により強度と剛性を確保しながら、車体剛性のバランスを追求しました。その結果、重量増を抑え、走りの軽快感と燃費向上を実現しています。

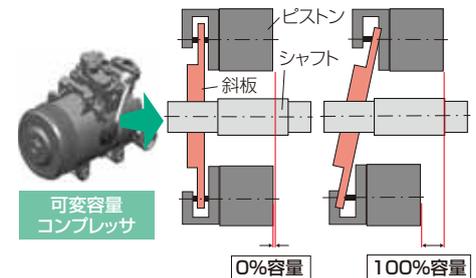
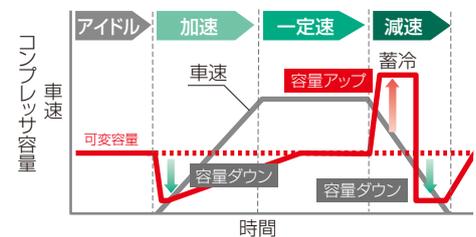


### 車両全体での実燃費向上に向けた取り組み

当社はお客さまの使用状況に合わせた燃費向上にも積極的に取り組んでいます。例えば、快適なドライブとの両立を図るためにパワーユニットの特性改良や、発電量を最適化する制御システムを組み込み、低燃費化を図ってきました。

新型レガシィでは、走行状態と車室内環境に応じ、コンプレッサ容量を無段階で可変するエアコンシステムを採用しました。特に、燃料消費量が少ない減速時に容量をアップして蓄冷を図り、逆に燃料を多く必要とする加速時は容量ダウンして低燃費と快適性の両立を図りました。今後とも環境に配慮し、一層の実燃費改善に取り組んでいきます。

#### ◆可変エアコンシステム



## エコドライブ支援の取り組み

### 運転者・クルマ・環境とのコミュニケーション

当社は運転者とクルマのコミュニケーションを促進するインターフェースとして2006年発売のレガシィに搭載したエコドライブ支援装置エコゲージ、シフトアップインジケータ(MT車)の装備を順次拡大しています。新型レガシィにはエコゲージ(全車)、シフトアップインジケータ(北米除く)を装備しました。今後もエコドライブ支援装置をさらに発展させるべく開発に取り組めます。

#### ■エコゲージ

エコゲージの針を「+」方向に振れさせることで、ドライバーにエコドライブ状態を知らせます。意識的にアクセル調整をすることで約5%(社内測定値)の燃費向上が見込めます。



レガシィ用エコゲージ

#### ■シフトアップインジケータ

燃費走行に適したエンジン回転数に達するとインジケータが点滅し、ドライバーにシフトアップ操作を促します。



レガシィ用シフトアップインジケータ

## 排出ガスのクリーン化

### 排出ガスクリーン化への考え方

自動車から排出される一酸化炭素(CO)、炭化水素(HC)、窒素酸化物(NOx)などは、特に自動車が集まる大都市部における大気汚染の原因のひとつになっています。当社は、大気汚染の状況を改善するため、規制より厳しい基準に適合した低排出ガス車(国土交通省認定)を順次市場投入しています。

#### ▶ 排出ガスクリーン化目標

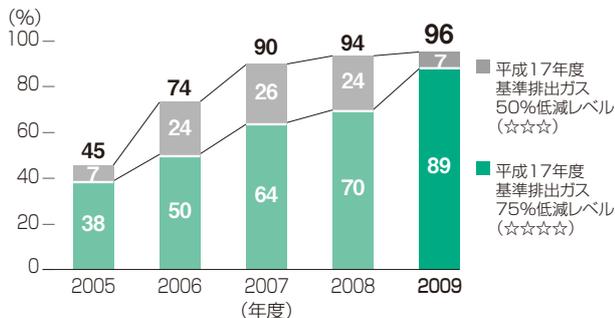
平成17年排出ガス基準75%低減対応の技術を拡大し、さらなる低排出ガス対応化を進め、低排出ガス車両の普及を促進する。

### 低排出ガス認定車の向上と普及

新型レガシィは全車、国土交通省「平成17年度基準排出ガス75%低減レベル(☆☆☆☆)」であり、平成17年度基準排出ガス75%低減レベル(☆☆☆☆)車の生産台数は89%、低排出ガス認定車の生産台数は96%に達しました。

今後も当社は低排出ガス車の普及を促進していきます。

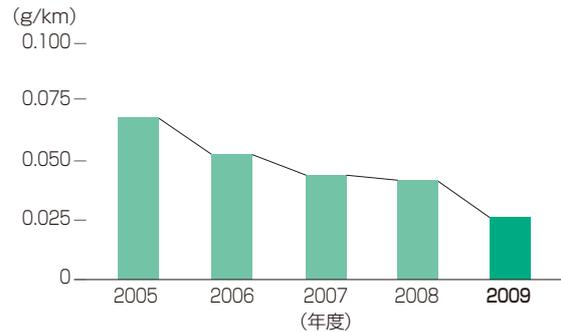
#### ◆ガソリン乗用車の低排出ガス車比率の推移



### 低排出ガス車の投入によりNOxは年々減少

低排出ガス車認定基準を満たした低排出ガス車を順次市場投入していくことによりスバル車の平均NOxは下のグラフのように年々低減しています。

#### ◆スバル車の平均NOx排出量の推移



#### ◆2009年度の排出ガスの達成状況

##### 低燃費かつ低排出ガス認定車<sup>※1</sup>の出荷台数

	乗用車		貨物車		合計台数 (比率)		
	普通車 小型車	軽自動車	普通車 小型車	軽自動車			
低公害車	電気自動車		0	161	0	161 (0.1%)	
低燃費かつ 低排出ガス 認定車	平成17年度基準排出ガス 75%低減レベル☆☆☆☆		67,166	37,009	0	1	104,176 (59.3%)
	平成17年度基準排出ガス 50%低減レベル☆☆☆		4,463	2	0	629	5,094 (2.9%)
合計		71,629	37,172	0	630	109,431 (62.3%)	
					出荷総台数	175,768 (100%)	

※1 省エネ法に基づく2010年度燃費基準早期達成車で、かつ、低排出ガス車認定実施要領に基づく低排出ガス認定車。

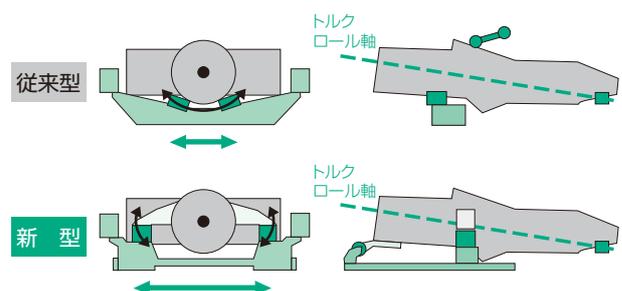
## 騒音対策

### 新型レガシィで騒音・振動を低減

当社では自動車から出る交通騒音の低減にも積極的に取り組んでいます。交通騒音の主な音源となるタイヤ騒音、エンジン騒音、吸排気系騒音に対し、効果的に低減できるように技術開発を進めています。

2009年5月に発売された新型レガシィでは環境性能が高いCVTを拡大展開することにより実際の市街地走行時の交通騒音の低減を図っています。また、騒音・振動の低減と乗り心地の向上を狙いに、新構造「クレードル構造マウント」を採用しました。

#### ◆クレードル構造マウントによる振動・騒音の低減



(クレードル構造マウントの画像は54ページ下方に掲載しています)

## クリーンエネルギー自動車

### 電気自動車「プラグイン ステラ」のリース販売を開始

クリーンエネルギー自動車は、温室効果ガス(二酸化炭素)や大気汚染物質(一酸化炭素、炭化水素、窒素酸化物など)の排出が少なく、ガソリン自動車より環境への影響が少ないという特性を持っていますが、価格や航続距離などの技術的な課題があります。当社では、ガソリン自動車の走りや利便性などの特性を継承させたクリーンエネルギー自動車や電気自動車の開発を進めるとともに、ハイブリッド車や燃料電池車に使用する次世代電池開発にも積極的に取り組んでいます。

ガソリン車と同等の安全性を有し、環境にやさしい電気自動車プラグイン ステラのリース販売を2009年7月より開始し、シティーコミューターとして地域環境負荷低減商品を市場投入しました。2009年度出荷台数実績は161台です。

### 優れた実燃費によりe燃費アワードを4年連続で受賞

#### ■軽自動車

株式会社IRIコマース&テクノロジー社が運営する携帯端末向けマイカー情報管理サービス「e燃費」において、2009年1月~12月の1年間における燃費平均値ランキングにてR2が4年連続となる第1位、R1、ステラも上位5位以内に入り、軽自動車部門の「e燃費アワード2009-2010」を受賞しました。また、2006年度から4年連続で、スバルのR1、R2、ステラが国土交通省発表の「燃費の良いガソリン軽自動車ベスト10(MT車を除く)」に入っています。

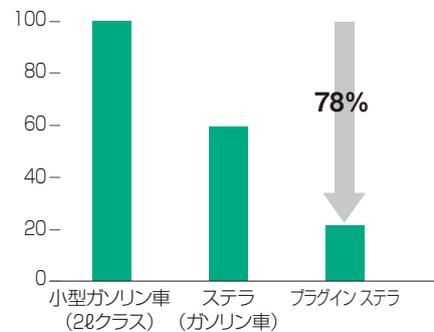
#### ■普通車

エクシーガの2.0L・DOHCエンジンのCVT車(車両重量1,520kg以上)は、平成22年度燃費基準+25%を達成しており、国土交通省発表の「平成21年度 普通・小型自動車重量区分別ベスト10(MT車を除く)」の1,516~1,765kgの重量区分におけるベスト6に入っています。また、新型レガシィ2.5L・SOHCエンジンCVT車(車両重量1,520kg以上)は、平成22年度燃費基準+15%、20%を達成しています。



電気自動車「プラグイン ステラ」

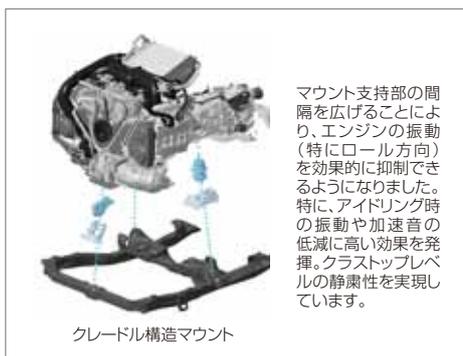
◆小型ガソリン車を100としたときの1km走行あたりのCO<sub>2</sub>排出量比較



受賞した軽自動車部門「e燃費アワード2009-2010」のトロフィー



R2



## 自動車リサイクル

# 限りある資源を有効活用していきます

スバルは自動車リサイクル法<sup>\*1</sup>に則り、使用済み自動車(ELV<sup>\*2</sup>)のリサイクル適正処理を行うために「自動車リサイクルシステム(ARSS<sup>\*3</sup>)」を構築し積極的に対応を図ってきました。2009年度実績としてASRリサイクル率は2015年度の法定基準(ASRリサイクル率70%以上)をクリアし、82.1%を達成しました。これによりリサイクル実効率は97.0%となり、2015年度目標としていた95%をクリアすることができました。今後もリサイクル配慮設計を推進し、リサイクル実効率の向上を目指します。

- \*1 自動車リサイクル法  
使用済み自動車の再資源化等に関する法律(2005年1月1日施行)。
- \*2 ELV(End of Life Vehicles)
- \*3 ARSS(Automotive Recycle System of SUBARU)

## 設計段階での取り組み

### リサイクル配慮設計の推進

当社では限りある資源を有効に活用していくために、リサイクルを考慮したクルマづくりを推進しています。

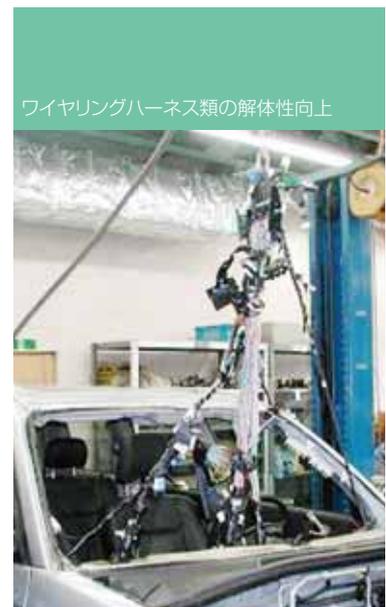
#### ■リサイクル市場調査

国内各地の解体事業者、シュレッダー事業者、および廃棄物処理事業者等を訪問し、実際のELV処理の実態を含めた市場の現状と今後の動向などについて意見交換を継続的に行っています。その結果は、リサイクル配慮設計の方向づけと、今後の具体的な研究テーマ抽出に役立てています。

#### ■リサイクル性向上の取り組み

##### ワイヤリングハーネス類の解体性向上

ワイヤリングハーネスは多くの銅が使用されているため、シュレッダー処理前にこれらがELVより解体できれば、鉄と銅の分別回収の向上につながり、資源リサイクルとしての利用価値もあげられます。効率よく短時間で回収するために回収しやすいハーネススライアウト、構造について研究を行っています。「新型レガシィ」にはこれらの成果を織り込みました。



### 材質表示の改善

材料のリサイクルはその部品の材質は何か分かることが最も重要です。当社は業界ガイドラインに先駆けて1973年から樹脂部品への材質表示を実施してきました。従来は部品の目立たない裏面などに表示していましたが、部品を解体しなくても材質表示が確認できれば「解体したが、別の材質だった」というムダを省くことができると考え、表示の位置を改善しました。2001年から順次「レガシィ」、「インプレッサ」、「フォレスター」、「エクシーガ」をはじめスバル車全車種のバンパーに実施しています。

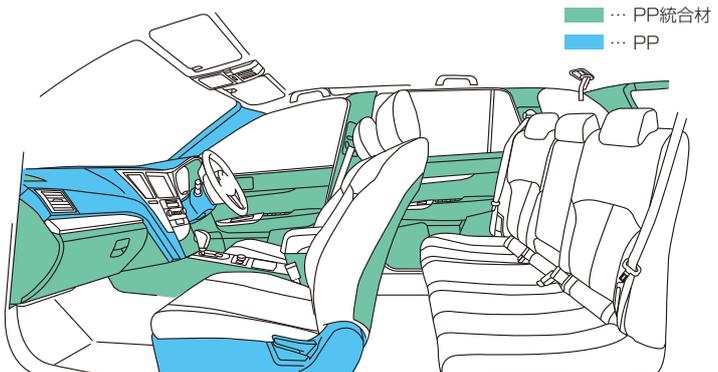
解体しなくても材質が確認できます。



材質表示の例(>PP<, PPIは「ポリプロピレン」を表します)



#### ◆内装用統合材、オレフィン系樹脂の使用状況「新型レガシィ」



## ■適正処理性向上の取り組み

特に、フロン(エアコンの冷媒)、エアバッグの適正処理は「使用済自動車の再資源化等に関する法律」(自動車リサイクル法)でも規制されており、より処理しやすくすることが不可欠と認識しています。

### エアコン冷媒の削減

エアコン冷媒は現在オゾン層に害のない代替フロンHFC134aを使用していますが、地球温暖化に影響があるとされているため、HFC134aの使用量削減およびエアコン使用過程における漏れ量の削減にも取り組んでいます。また、フロン以外の代替冷媒の研究も進めています。

### エアバッグ類の処理性向上

エアバッグおよびプリテンショナーつきベルトは事故時等の乗員の衝撃低減に対し、大いに貢献をします。反面、大多数の車でこれらエアバッグ類が未使用のまま廃車されます。自動車リサイクル法においても、これらエアバッグ類の処理が求められています。より安全かつ容易な方法を求め、「車上作動処理」「取り外し回収処理」の両面より、関連部品も含めた最適構造の研究を行っています。

## ■環境負荷物質の削減

自動車工業会の自主行動計画に基づき、環境負荷物質4物質(鉛、水銀、カドミウム、六価クロム)の削減に取り組み、一部前倒しですでに目標を達成していますが、2009年度は、特にはんだ中の鉛フリー化を推進し、インパネ周りのスイッチ、リレー類やエアコンのセンサー等の電気・電子部品について、はんだ鉛フリー材の採用拡大を図りました。

### ◆削減目標/自動車工業会の自主行動計画(新型車より)

削減物質	目標(実施時期)	削減内容
鉛	2006年1月以降	1996年比、1台あたりの使用量1/10以下
水銀	2005年1月以降	一部(コンビネーションパネル、ディスチャージヘッドライト、ナビの液晶パネルなど)ごく微量に含有)を除き、使用禁止
カドミウム	2007年1月以降	使用禁止
六価クロム	2008年1月以降	使用禁止

## ■車室内VOC<sup>※1</sup>の低減

人体の鼻、のどなどへの刺激の原因とされるホルムアルデヒド、トルエン等の揮発性有機化合物を低減するために、車室内の部材や接着剤の見直しに取り組んでいます。2009年度は「新型レガシィ」では、厚生労働省が定めた指定13物質について、室内濃度指針値を下回るレベルに低減し、自動車工業会 自主目標<sup>※2</sup>を達成しました。なお、昨年度の「エクシーガ」でも達成しており、今後も、厚生労働省が定めた室内濃度指針値以下にする取り組みを進め、さらなる車室内環境の快適化に努めていきます。

※1 VOC(Volatile Organic Compounds):揮発性有機化合物  
ホルムアルデヒドやトルエンなど、常温で揮発しやすい有機化合物のことで、近年、新築の住宅ビルなどに入ると、目や鼻、のどなどに刺激を感じるなどの体調不良が生じるシックハウス症候群の要因とされている。

※2 自主目標  
日本自動車工業会が発表した2007年度以降の新型乗用車(国内生産・国内販売)に対する「車室内のVOC低減に対する自主取り組み」にて、厚生労働省が定めた13物質について、室内濃度を指針値以下にするというもの。

## 自動車リサイクル

### 使用済み自動車(ELV)の処理

#### 「全部再資源化」への取り組み

当社ではELVのリサイクル率のさらなる向上のために「使用済み自動車の銅含有部品取り外しのための情報」をART<sup>※1</sup>のホームページで公開しています。現在、乗用車のリサイクルにおいてASRを発生させずリサイクル率を向上させる手段として「全部再資源化」と呼ばれる方法がとられています。

これは廃車ガスを電気炉等に投入し鉄分を溶解し建築用資材などとして製品化するものです。この際、ASRのもととなる部品類は炉の中で燃焼し熱源として利用されるため(サーマルリサイクル)、埋め立てなどの処理を行う必要がありません。

この「全部再資源化」を実施するには鉄鋼製品の品質保持のため、廃車ガサに含まれる銅含有量を極力少なく

する必要があり、事前の銅含有部品取り外しをいかに効率よく、徹底して行えるかが重要となります。

この銅含有部品の大部分を占める「ワイヤリングハーネス」が車体のどの部分にレイアウトされているかを、現在ELVの主流となっている過去の生産車に関して公開するのが「使用済み自動車の銅含有部品取り外しのための情報」の主眼です。

当社では2008年5月よりレガシィ(1994年国内発売車)とヴィヴィオ(1993年発売車)の情報を公開し、2008年12月よりフォレスター(1997年国内発売車)とインプレッサ(1992年国内発売車)の情報を公開しました。この結果、ELVとして発生するスバル車の多くをカバーしています。

※1 ART(Automobile shredder residue Recycling promotion Team):自動車破砕残さリサイクル促進チーム  
ASRのリサイクル処理は、自動車メーカーが2チームに分かれて推進している。  
ARTは日産、マツダ、三菱、富士重その他全12社で運営。  
もうひとつはTHチームでトヨタ、ホンダ、ダイハツその他で運営している。

### 使用済みバンパーの回収

#### 使用済みバンパーを各種部品にリサイクル

当社では業界ガイドラインに先駆けて1973年から樹脂部品への材料表示を行ってきました。この取り組みは現在、修理で交換した使用済みバンパーを回収して自動車部品にリサイクルする活動に役立っています。2009年度、全国から回収した使用済みバンパーの本数は38,733本(前年度実績41,055本の94.5%)でした。

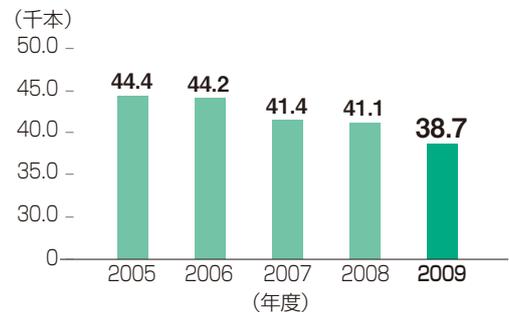
回収したバンパーは右表のように、スバルの各種部品にリサイクルされ、活用されています。

#### 「リサイクル通信」の発行

当社と販売店のリサイクル推進コミュニケーションツール「リサイクル通信」の発行を2008年9月より継続しています。

毎月発行しており、特約店から回収された使用済みバンパーの異物除去がなぜ必要かなどの役に立つ情報を掲載しています。これらの情報をきっかけとした販売店からの問い合わせにも応じており、自動車リサイクルに関した、より活発な双方向コミュニケーションツールにしたいと考えています。

◆使用済みバンパー回収本数の推移



◆使用済みバンパーの車種別部品活用例

対象車種	対象部品
レガシィ	トランク内装材
フォレスター	アンダーカバー
インプレッサ	トランク内装材
サンバー	エンジンカバー エアガイド スブラッシュボード

## クリーンな工場

# 生産段階での取り組み

スバルでは、ムダ・ロスを排除し工数や製造原価の低減を行いながら、省エネルギー活動にも積極的に取り組み、環境保全への取り組みを推進しています。

また、廃棄物物理立量については、2004年度に全生産事業所においてゼロレベルを達成し、現在も継続中しています。

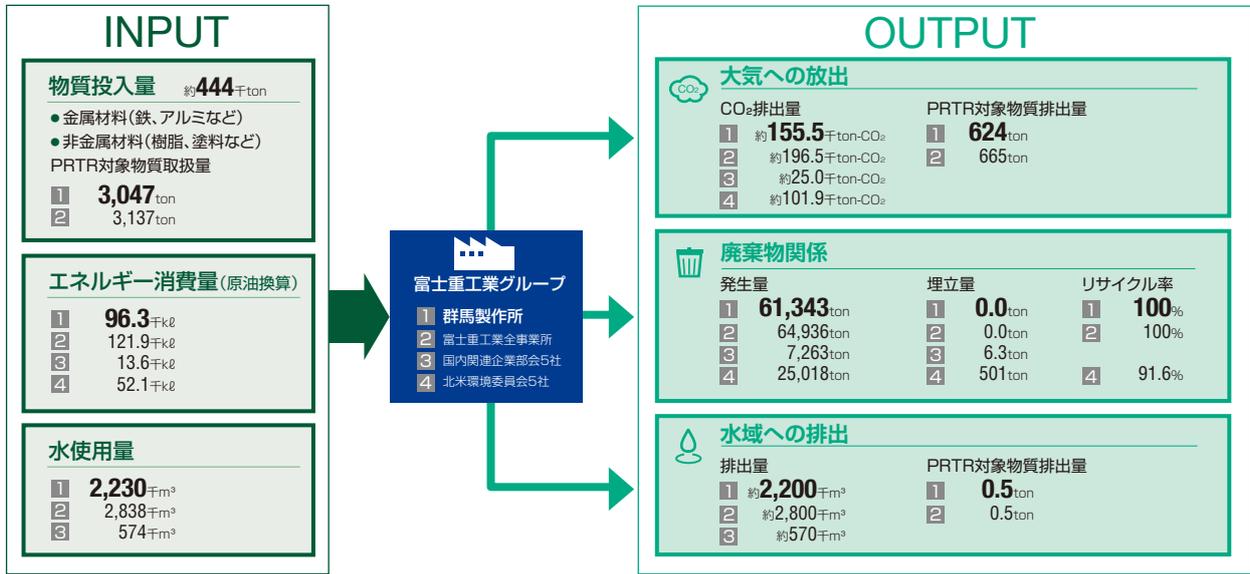
## 生産段階での取り組み

### 自動車製造(群馬製作所)における主な投入資源量と発生物総量

スバル車を製造する群馬製作所を中心とした2009年度の主な投入資源の量と環境への排出量は下図のとおりです。

[下記表中の数値: ■群馬製作所、■当社全体、■国内関連企業部会5社合計、■北米環境委員会5社合計]

#### ◆投入資源の量と環境への排出量



## 地球温暖化防止活動

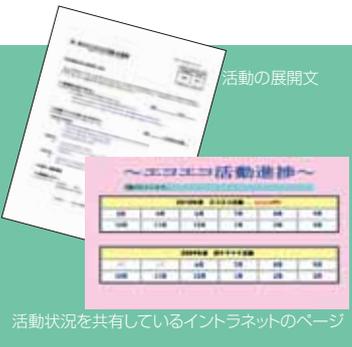
### CO<sub>2</sub>排出量削減と省エネルギー活動

当社では、これまでに天然ガスコージェネレーションシステム導入、重油ボイラーのガスボイラー化、待機電力の削減、エネルギー多量消費工程に絞った省エネルギー活動の展開など、CO<sub>2</sub>排出量削減と省エネルギーのためにさまざまな活動を展開してきました。年度により生産量の増減などもありますが、2009年度のCO<sub>2</sub>総排出量は約196.5千ton-CO<sub>2</sub>となり、1990年度比28%の低減となりました。

第4次環境ボランティアプランで掲げている2010年度に「1990年度比15%のCO<sub>2</sub>総排出量の削減」という目標に対し、「1990年度比22%のCO<sub>2</sub>総排出量の削減」に上乗せた目標を設定しチャレンジしています。

### 群馬製作所の省エネ活動

自動車製造の群馬製作所では、「省エネケチケチ活動」の名称で製造部門各課単位で毎月改善アイテムの抽出や省エネパトロールなどを実行し、「きめる、とめる、なおす、さげる」を合言葉に、全員参加で省エネ活動を進めています。なお2010年度からは、名称を「エコエコ活動」に変えて活動を進めています。



### 代替フロン(HFC134a)の大気放出量の低減活動

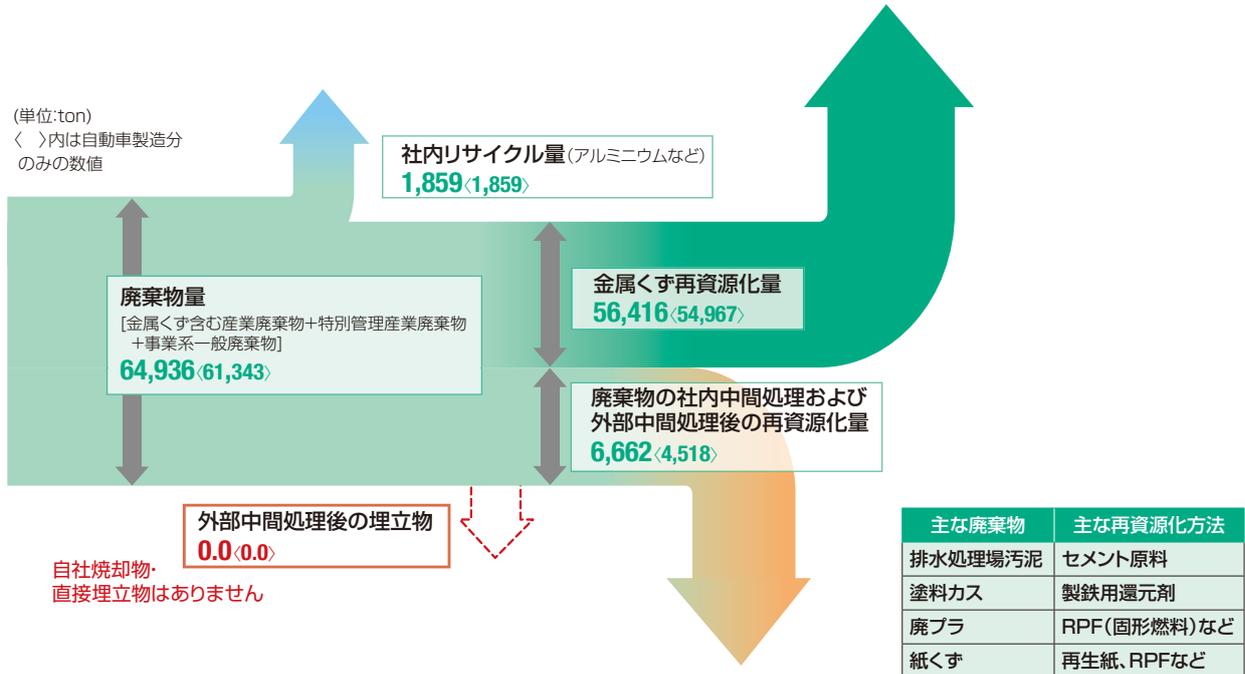
群馬製作所の自動車生産ラインでは、エアコンガス用の冷媒として使用されている代替フロン(HFC134a)の大気への放出量を削減するため、これまでにエアコンガス注入時や回収時の漏れを極小化する取り組みを重ねてきました。その結果、2003年度からは1996年度実績に対して95%以上の大気放出量削減を達成、2006年度からは約97%の削減を達成し、継続しています。

## 廃棄物削減

### 埋め立て物発生量は全工場でゼロレベルを継続中

当社では、2004年度から廃棄物のゼロエミッションを継続達成しています。2009年度の廃棄物発生量とその処理概要は下図のとおりです。

◆2009年度全事業所および自動車製造(群馬製作所)の発生物発生量と処理の概要



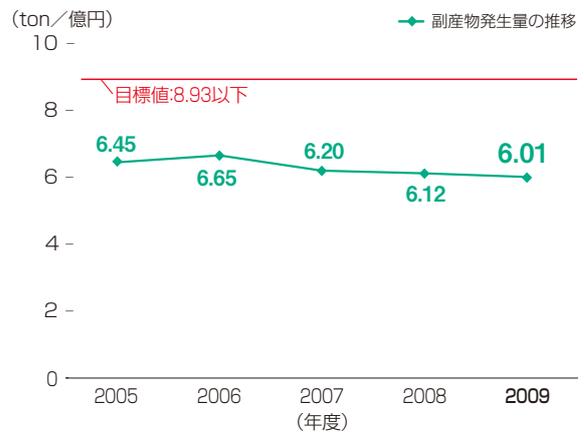
### 廃棄物削減への取り組み

当社では、ゼロエミッションの継続はもちろん、廃棄物が発生すること自体をムダと考え、発生量を削減する取り組みを進めています。

生産工程で使用する原材料の歩留まり向上や、塗装工場で使用される塗料の塗着効率の向上などの取り組みを進めて、資源の有効利用に努めています。

右のグラフは、自動車部門の副産物(金属くずやアルミなどの非鉄くず)の発生量を製品の生産高で割った指標です。2009年度は6.01と過去最良の値となりました。また目標値(資源有効利用促進法による副産物発生抑制計画値)に対しては2003年度から連続7年達成しています。

◆製品の生産高に対する副産物発生量の推移



## 水資源使用量低減への取り組み

### 水資源の保全活動

2009年度水使用量は全事業所合計で約2,838千m<sup>3</sup>で、前年度比15%の低減となりました。

これは各事業所で、給水管の老朽更新のほか、漏れの

点検などきめ細かな低減活動を実施してきた効果です。ベンチマークとしている1999年度と比較しても54%の低減と、半分以下の使用量となっています。

\*水使用量の推移については46ページに掲載しています。

## 環境負荷物質の低減活動

### 化学物質の管理活動(PRTR制度)

当社ではPRTR対象18物質を使用しています。2009年度の排出量は全事業所合計で665トンとなり、前年度に比べ約17トン削減できました。これは、自動車ボディーや塵芥収集車の塗装工程で使用する洗浄用シンナーの使用量低減などの取り組みによる成果です。

\*PRTR対象化学物質排出量などの推移については46ページに掲載しています。

### 土壌・地下水汚染防止

当社では、1998年より自主的に各事業所の土壌、地下水の調査を行い、その結果を行政に報告してきました。宇都宮製作所など土壌・地下水の浄化対策を行った事業所においても、引き続き地下水のサンプリング調査を継続的に行い、結果を行政に報告しています。

### 大気汚染物質

ボイラーなどの特定施設より排出される窒素酸化物(NOx)、硫黄酸化物(SOx)の全事業所合計排出総量の推移は46ページのグラフのとおりです。

SOx、NOxともに2009年度の定期測定の結果はすべての測定個所で自主基準値を順守しています。

### PCB機器などの保管状況

当社では、法規を順守し、適切にPCBを保管し、毎年度届出を行っています。

保管しているPCB含有機器(トランス・コンデンサーなど)については、2006年3月に日本環境安全事業(株)(JESCO)に早期処理の登録を行っており、2011年度から処理・処分が開始される予定です。

### 水質汚濁物質

排水中の窒素・リン・BODの全事業所の排出総量の推移は46ページのグラフのとおりです。

また、2009年度の定期測定の結果では1件の自主基準値の超過がありました。詳細については45ページの環境法規制の順守状況の「環境法規制値超過件数と内容」欄に記載しています。

\*そのほか、各事業所の特徴的な取り組みについては、63～92ページのサイトレポートにも掲載しています。

### 群馬製作所の塗装工程で発生するVOC (揮発性有機化合物)

2009年度の塗装面積あたりのVOC排出量は52.8g/m<sup>2</sup>で、2000年度実績に対して42.2%削減となり、第4次環境ボランタリープラン<sup>\*1</sup>の目標を前倒しして達成しています。これは、塗装工程の洗浄用シンナー回収率向上などの成果です。今後はさらに低減の上乗せに取り組んでいきます。

\*1 第4次環境ボランタリープラン目標値  
2010年度末までに2000年度比30%以上低減する。

## クリーンな物流

# 物流における環境負荷低減に向けて

スバルでは、完成車輸送において最適な輸送ルートの設定、モーダルシフトの推進、同業他社との完成車共同輸送の取り組みなどにより、環境負荷低減に貢献しています。また、梱包資材の再利用による資材削減活動にも積極的に取り組んでいます。

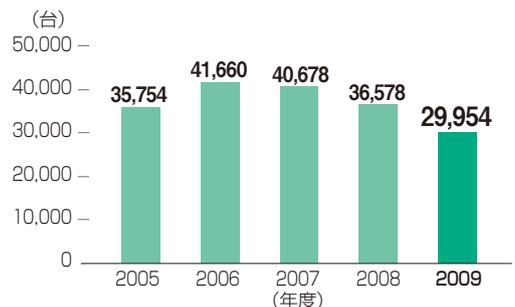
## 完成車輸送における環境負荷の低減

### スバルロジスティクスの取り組み

完成車の輸送では、最適な輸送標準ルートの設定、モーダルシフトの推進、積載効率向上などの輸送の効率化を進めることで環境負荷低減活動に貢献しています。また、スバルロジスティクスでは同業他社と完成車の共同輸送の取り組みを進め、2009年度の共同輸送取扱量（他社への委託台数と他社からの受託台数の合計）は、29,954台となりました。

2009年度も、デジタルタコグラフの拡大、アイドリングストップ装置、エコタイヤの装着を推進し、定期的に協力会社から走行距離・燃費データを集約することでより精度の高いエネルギー消費量（含むCO<sub>2</sub>排出量）の把握を行いました。結果、前年比約1%の燃費向上を達成し、年間1%以上のエネルギー消費量の低減を継続的に進めています。

◆共同輸送取扱量の推移



## 梱包資材の再利用化

### 海外向けノックダウン部品梱包資材の再利用による資材削減活動

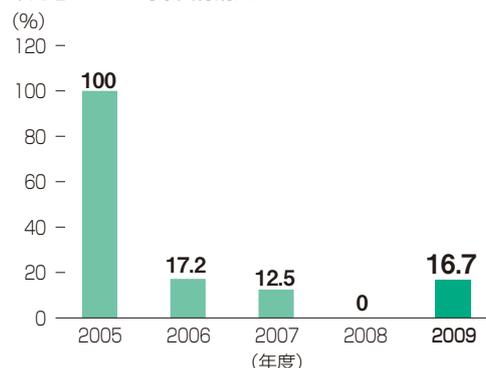
ノックダウン部品の梱包荷姿設計を担うスバルロジスティクス部品物流本部では、梱包資材の再利用化を柱に環境負荷低減活動に取り組んでいます。取り組み内容としては2006年3月から発泡スチロール梱包資材と真空成型梱包資材の再利用化を図り、2008年度は資材購入を‘ゼロ’に抑え、すべて再利用資材で出荷できました。また、2009年度より導入した新規発泡スチロール梱包資材は、再利用化を考慮にいれた部品梱包荷姿設計を行い、出荷を開始しました。

今後はさらに再利用化を進めるため、現状梱包資材の総点検を行いリユース資材の拡大を図り、廃棄物を発生させないよう取り組んでいきます。

◆発泡リユース対象資材取扱量推移



◆発泡リユース対象資材購入量



# クリーンな販売店の拡大を目指して

スバルでは、販売特約店における環境保全の取り組みを強化するために環境マネジメントシステム「エコアクション21」の導入を推進しています。お客さまの環境意識が高まるなか、エコカーの普及と同時にクリーンな販売店を目指して取り組みを加速させていきます。

## SUBARU販売特約店での環境保全取り組み

### エコアクション21 (EA21<sup>※1</sup>)の 認証取得を推進しています

当社では、国内の販売特約店における環境保全の取り組みを強化するために、環境省がISO14001<sup>※2</sup>をベースに策定した環境マネジメントシステム「エコアクション21 (EA21)」の導入を推進しています。2008年9月から取り組みをスタートし、2010年3月現在では、国内45社中20社が認証を取得しています。引き続きEA21の認証取得店の拡大を進めていきます。

- ※1 EA21の認証取得には以下の施策が求められます。
  - ・環境マネジメントシステムの構築
  - ・CO<sub>2</sub>排出量、廃棄物、水使用量の把握、削減目標の設定と取り組み
  - ・環境活動レポートの定期的な作成と公表
- ※2 ISO14001の認証については以下の2社が取得継続しています。
  - ・富士スバル(株) ・大阪スバル(株)
- ※3 九州地区は、統括会社の「福岡スバル株式会社」名で事業会社5社を含めた合計6社一括で認証を取得しています。
- ※4 栃木スバル自動車(株)のEA21認証取得活動については、特集の15ページで紹介しています。

◆EA21の認証取得状況[2010年4月1日現在 取得順]

販売特約店名	認証取得日	認証・登録No.	スバル新車 取り扱い店舗数
東京スバル(株)	2009年1月27日	0003261	32
埼玉スバル自動車(株)	2009年2月25日	0003347	18
名古屋スバル自動車(株)	2009年4月30日	0003592	19
東四国スバル(株)	2009年5月29日	0003691	10
四国スバル(株)	2009年5月29日	0003692	8
広島スバル(株)	2009年6月23日	0003777	8
岐阜スバル自動車(株)	2009年7月21日	0003889	9
山口スバル(株)	2009年7月31日	0003965	10
三重スバル自動車(株)	2009年8月28日	0004068	7
神奈川スバル(株)	2009年8月28日	0004069	24
山陰スバル(株)	2009年8月28日	0004070	9
岡山スバル自動車(株)	2009年8月28日	0004071	7
南信スバル(株)	2009年9月29日	0004188	1
福岡スバル(株)	2010年3月11日	0004737 <sup>※3</sup>	19
西九州スバル(株)			12
熊本スバル自動車(株)			8
大分スバル自動車(株)			5
南九州スバル(株)			12
新沖縄スバル(株)			3
栃木スバル自動車(株) <sup>※4</sup>			2010年3月18日



三重スバル自動車(株)の認証授与の様子      山陰スバル(株)の認証授与の様子      南信スバル(株)の認証

## Close Up

### 東京スバル(株)が取り組みを披露



2009年6月には、エコアクション21地域事務局東京中央主催の「エコアクション21導入セミナー」において、東京スバル(株)の添野常務がエコアクション21の導入を検討している企業の皆さまに向けて「エコアクション21認証取得について」と題した講演を披露しました。

# 富士重工業株式会社 2010 CSR

Site Report

## 群馬製作所

### 本工場

所在地	〒373-8555 群馬県太田市スバル町1-1
土地面積	585,521㎡
建物面積	312,313㎡
従業員数	3,071人
主な生産品目	サンバー、ステラ



### 矢島工場

所在地	〒373-0822 群馬県太田市庄屋町1-1
土地面積	549,845㎡
建物面積	255,466㎡
従業員数	2,748人
主な生産品目	レガシィ、エクシーガ、 インプレッサ、フォレスター



### 太田北工場

所在地	〒373-0027 群馬県太田市金山町27-1
土地面積	43,750㎡
建物面積	26,841㎡
従業員数	63人
主な生産品目	自動車用部品



### 大泉工場

所在地	〒370-0531 群馬県邑楽郡大泉町いすみ1-1-1
土地面積	316,176㎡
建物面積	227,823㎡
従業員数	1,623人
主な生産品目	自動車用発動機、自動車用変速機



### 伊勢崎工場

所在地	〒372-8508 群馬県伊勢崎市末広町100
土地面積	177,422㎡
建物面積	58,866㎡
従業員数	84人
主な生産品目	自動車用部品



### スバル研究実験センター

所在地	〒327-0512 栃木県佐野市
土地面積	1,080,832㎡
建物面積	24,378㎡



## トップメッセージ



常務執行役員  
群馬製作所長  
**笠井 雅博**

群馬製作所では、豊かな自然を守り次世代に引き継ぐため、環境にやさしいクルマづくりを目指し、「クリーンなスバル」を「クリーンな工場」からお届けするために環境活動に積極的に取り組んでおります。

また、製作所周辺地域や社会と共生し、ともに繁栄していくことが大切であると認識しています。お互いの理解を深める交流会の実施、基金などへの協力、環境関連イベントへの参加を積極的に行っています。

これからも「スバル」をどうぞよろしくお願い申し上げます。

# 地域社会とのかかわり

## 地域社会とのコミュニケーション

群馬製作所では、地域社会との共生を通じて、豊かな社会づくりに貢献していくことを目指して、ふれあい行事、交流会、工場見学受け入れ、地域の清掃活動、地域イベントへの協力など、さまざまなかたちで地域の皆さまとのコミュニケーションを図っています。

### ■ 出前環境教室



6～12月 太田市・邑楽郡大泉町内の全小学校(28校)に従業員が出向き、「みんなで大切な地球をまもろう」をテーマに地球温暖化の原因と対策について実験を交えて説明し、環境問題への理解を深める活動を行っています。本活動は、2004年度に開始し、今回で6年目を迎えています。今後も継続的に実施していく予定です。

### ■ 富士スバル㈱主催 乗り物教室



7月 富士スバル㈱の主催で、矢島工場・ピシターセンター見学会を一般応募の親子約200名を招待して開催しました。

### ■ スバル地域交流会主催 金山清掃



5月 スバル地域交流会の主催で、一般市民を含め約600名が参加して太田市内にある金山の赤松林の下草刈りと清掃を行いました。参加者には飲料・タオル・花の苗を配布しました。

### ■ 「おおた夏まつり」に参加



7月 従業員約580名が参加した「おおた夏まつり」。ほかにも「大泉まつり」「伊勢崎まつり」に多数参加しています。

### ■ スバル旗争奪群馬県学童軟式野球大会開催



10月 群馬県内各市町村から選抜された20の学童チーム(約400名)による野球大会を開催しました。

### ■ 「太田市産業環境フェスティバル」に参加



11月 太田市の新田文化会館で開催された太田市産業環境フェアに参加しました。当日は、電気自動車「プラグイン ステラ」を展示し、多数の方からの質問に対応しました。

## ■ スバルビジターセンター工場見学



年間を通してビジターセンター、工場の見学を受け入れています。2009年度には小学生87,813名(1,074校)、一般の方10,256名の計98,069名の皆さまに見学いただきました。  
\*見学の申し込み(10~200名)、スバルビジターセンターの詳細については、当社ホームページをご参照ください。



<http://www.subaru.jp/about/showroom/vc/index.html>

## 教育・啓発活動など

群馬製作所では、職種・階層に応じた教育や訓練をはじめ、交通安全、環境保全などさまざまな教育を実施しています。また、当製作所の従業員だけでなく、関係会社やお取引先支援の一環としての教育や地域の学校などに招かれての講演活動も多数実施しています。

### ■ 関係会社新入社員向け環境教育



4月 関係会社の新入社員(約100名)を対象に、環境保全教育を実施しました。地球環境保全から当社の環境マネジメントシステムまで幅広い環境知識を習得してもらいました。

### ■ 学校教頭研修で講演



1月 「第2回東部管内小・中・特別支援学校教頭研修」に当社小塚副所長が招かれ、教頭先生約130名を対象に当社の教育体制などについて講演を行いました。

## 環境保全の取り組み

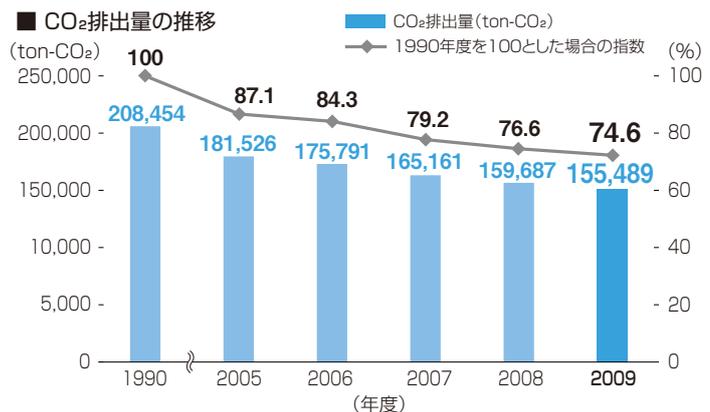
スバル車を製造する群馬製作所では、「クリーンなスバル」を「クリーンな工場」からお届けするためにさまざまな環境保全活動に積極的に取り組んでいます。

## 地球温暖化防止への取り組み

CO<sub>2</sub>排出量は近5年、減少傾向で推移しています。また、1990年実績比では25.4%の削減を達成しています。

2009年度には、「省エネ ケチケチ活動」の名称で改善アイテムの抽出や省エネパトロールなどを実行し、「きめる、とめる、なおす、さげる」を合言葉に、全員参加で省エネ活動を進めてきました。

今後もさらに、省エネルギー活動に取り組み、地球温暖化防止へ寄与していきます。



## ゼロエミッションへの取り組み

群馬製作所では2001年3月に、当社のなかで一番早くゼロエミッションを達成しています。

今後も、リサイクルの向上と廃棄物排出量の削減に向け努力していきます。

### 電子マニフェストへの対応

2008年度に電子マニフェストへの対応を試験的に開始しました。

2009年8月からは本格的に導入を開始し、2010年3月現在では、80%以上が電子マニフェストに切り替わりました。

■ 廃棄物発生総量と埋立処分の推移



## 公害防止への取り組み

地域社会との共生や緑豊かな自然環境を維持していくため、排出ガスや排水の管理、環境リスク低減などに取り組み、環境事故や公害の発生を防止するための活動を推進しています。

しかしながら2009年度には、工場近隣にお住まいの方から臭気に関する苦情を2件受け、所内水路に重油を流出させる構内環境事故が1件発生しました。本件に関する発生状況や是正処置などについては2010 CSRレポート45ページをご参照ください。

今後も、基準値超過を含めてゼロを目標に取り組んでいきます。

## 2009年度の環境測定結果

測定結果は、すべて水質汚濁防止法および群馬県条例、太田・大泉公害防止協定、伊勢崎市下水道条例に適合しており、20%上乗せした自主基準値\*1もクリアしています。

\*1 当社では大気、水質、騒音振動すべての測定結果について、法令基準値に20%上乗せした自主基準値を設定しています。

### ■ 水質測定結果

本工場:水質汚濁防止法、県条例

項目	規制値 (県条例)	自主基準値	最大値	最小値	平均値
pH	5.8~8.6	6.1~8.3	7.7	7	7.3
BOD	25	20	6.1	0.4	2.7
SS	50	40	9.6	0.9	2.6
n-ヘキサン抽出物質(鉱物油)	5	4	2.5	0.1	0.6
フッ素	8	6.4	0.8	0.2	0.4
亜鉛	5	4	0.3	0.0	0.2
溶解性鉄	10	8	0.1	0.1	0.1
溶解性マンガン	10	8	0.1	0.1	0.1
全りん	16(8)	6.4	1.8	0.1	0.7
全窒素	120(60)	48	8.5	1.9	4.7
大腸菌	3,000	2,400	440	0	145

【記号】…pH:水素イオン濃度、BOD:生物化学的酸素要求量、SS:水中に浮遊または懸濁している直径2mm以下の粒子状物質  
 【単位】…大腸菌=個/ml、その他はpH除きmg/l、全りん、全窒素の規制値は日間平均値

大泉工場:水質汚濁防止法、大泉公害防止協定

項目	規制値 (県条例)	自主基準値	最大値	最小値	平均値
pH	5.8~8.6	6.1~8.3	8.0	7.1	7.4
BOD	10	8	7.7	0.5	3.1
SS	10	8	7.4	0.9	4.1
n-ヘキサン抽出物質(鉱物油)	3	2.4	1.8	0	0.5
フッ素	8	6.4	0.2	0.2	0.2
亜鉛	2	1	0.3	0.1	0.2
溶解性鉄	5	4	0.1	0.1	0.1
溶解性マンガン	5	4	0.1	0.1	0.1
全りん	16(8)	6.4	0.5	0.2	0.4
全窒素	120(60)	48	7.5	2.1	4.8
大腸菌	1,000	800	16	0	8

矢島工場:水質汚濁防止法、県条例

項目	規制値 (県条例)	自主 基準値	最大値	最小値	平均値
pH	5.8~8.6	6.1~8.3	7.5	7.2	7.3
BOD	25	20	5.6	2.3	3.9
SS	50	40	4.8	0.9	2.3
n-ヘキサン抽出物質(鉱物油)	5	4	2.8	0.2	1.4
フッ素	8	6.4	1.2	0.5	0.9
亜鉛	5	4	0.4	0.1	0.2
溶解性鉄	10	8	0.5	0.1	0.3
溶解性マンガン	10	8	0.6	0.1	0.35
全りん	16(8)	6.4	0.4	0.2	0.3
全窒素	120(60)	48	5.7	2.5	4.1
大腸菌	3,000	2,400	360	90	225

北工場:水質汚濁防止法、県条例

項目	規制値 (県条例)	自主 基準値	最大値	最小値	平均値
pH	5.8~8.6	6.1~8.3	7.9	7.5	7.7
BOD	25	20	4.8	0.1	1.0
SS	50	40	7.2	0.9	2.9
n-ヘキサン抽出物質(鉱物油)	5	4	1.4	0	0.4
フッ素	8	6.4	0.2	0.2	0.2
亜鉛	5	4	0.02	0.02	0.02
溶解性鉄	10	8	0.5	0.2	0.4
溶解性マンガン	10	8	0.1	0.1	0.1
全りん	16(8)	6.4	4.9	1.8	3.4
全窒素	120(60)	48	1.5	1.4	1.5
大腸菌	3,000	2,400	0	0	0

伊勢崎工場:伊勢崎市下水道条例

項目	規制値 (下水道)	自主 基準値	最大値	最小値	平均値
pH	5.7~8.7	6~8.4	7.9	7.4	7.6
BOD	300	240	150	3.7	59.1
SS	300	240	43.4	4	21.5
n-ヘキサン抽出物質(鉱物油)	5	4	1.0	1.0	1.0
フッ素	8	6.4	1.9	0.2	0.9
亜鉛	5	4	1.3	0.0	0.4
溶解性鉄	10	8	0.1	0.1	0.1
溶解性マンガン	10	8	2.2	0.1	0.8
全りん	20	16	1.7	0.2	0.9
全窒素	150	120	13	4	6

【記号】…pH:水素イオン濃度、BOD:生物化学的酸素要求量、  
SS:水中に浮遊または懸濁している直径2mm以下の粒子状物質  
【単位】…大腸菌=個/ml、その他はpH除きmg/l、全りん・全窒素の規制値は日間平均値

■ 大気測定結果

測定結果は、すべて大気汚染防止法に適合しており、20%上乗せした自主基準値もクリアしています。

本工場:大気(大気汚染防止法)

設備	物質	規制値	自主基準値	最大値	平均値
ボイラー (5号、6号)	NOx	150	120	93	68
	SOx	60.3	48.2	0.22	0.18
	ばいじん	0.25	0.2	0.005	0.003
乾燥炉 (電着、中・上塗)	NOx	230	184	44	27
	ばいじん	0.2、0.3	0.16、0.24	0.003	0.002

【単位】NOx:ppm、SOx:m<sup>3</sup>N/h、ばいじん:g/m<sup>3</sup>N、  
法規特定施設33機中、大型ボイラー、乾燥炉のデータを掲載しています。  
掲載していない特定施設についても測定値は法規制値をクリアしています。

矢島工場:大気(大気汚染防止法)

設備	物質	規制値	自主基準値	最大値	平均値
ボイラー (2号)	NOx	230	184	78	78
	SOx	62	50	0.5	0.5
	ばいじん	0.25	0.2	0.004	0.004
乾燥炉 (電着、中上塗、PP)	NOx	230	184	49	22
	ばいじん	0.2、0.35	0.16、0.28	0.002	0.001

【単位】NOx:ppm、SOx:m<sup>3</sup>N/h、ばいじん:g/m<sup>3</sup>N、  
法規特定施設20機中、大型ボイラー、乾燥炉のデータを掲載しています。  
掲載していない特定施設についても測定値は法規制値をクリアしています。

大泉工場:大気(大気汚染防止法)

設備	物質	規制値	自主基準値	最大値	平均値
コーゼエ (1、2号ガス機関)	NOx	600	480	229	219
	ばいじん	0.05	0.04	0.001	0.0
アルミ溶解炉	NOx	180	144	75	65
	ばいじん	0.2	0.16	0.012	0.007

【単位】SOx:m<sup>3</sup>N/h、NOx:ppm、ばいじん:g/m<sup>3</sup>N、  
法規特定施設12機中、溶解炉、大型ボイラーデータを掲載しています。  
掲載していない特定施設におきましても測定値は法規制値をクリアしています。

その他  
北工場に暖房機他3機、伊勢崎工場に小型ボイラー2機ありますが、いずれの測定値も自主基準値を順守しています。

■ 騒音・振動測定結果

測定結果は、すべて騒音・振動規正法に適合しており、20%上乗せした自主基準値もクリアしています。

騒音関係

[単位:dB(A)]

測定場所	規制値 (夜間)	自主 基準値	測定数	測定値
本工場	55	54	40	32~46
矢島工場	55	54	32	43~54
大泉工場	50	49	25	37~49
北工場	50	49	30	32~41

振動関係

[単位:dB(Z)]

測定場所	規制値 (夜間)	自主 基準値	測定数	測定値
本工場	65	64	40	0~21
矢島工場	65	64	28	13~22
大泉工場	60	59	25	12~26
北工場	60	59	31	5~20

■ 塗装施設などのVOC測定結果

合計15の施設すべてで測定を行っています。  
測定結果はすべて自主基準値をクリアしています。

[単位] ppm-C

設備	規制値	最大値	平均値
塗装ブースなど	700	399	276
	400	160	96

■ PRTR対象化学物質の取扱量、排出量など

群馬製作所[本工場、矢島工場、大泉工場、北工場]

[単位:kg/年]

物質番号	CAS番号	化学物質名	取扱量	大気排出量	水域排出量	移動量	消費量	除去処理量	リサイクル量
1	none	亜鉛の水溶性化合物	5,345		58	1,156	4,131		
16	141-43-5	2-アミノエタノール	1,043		84	318		642	0
30	25068-38-6	4,4'-イソプロピルジフェノールと1-クロロ-2,3-エポキシプロパンの重縮合物	19,679			1,604	18,004	71	
40	100-41-4	エチルベンゼン	269,126	131,602			42,403	21,820	73,301
43	107-21-1	エチレングリコール	1,532,427				1,532,427		
63	1330-20-7	キシレン	550,640	251,487			192,366	45,304	61,483
224	108-67-8	1,3,5-トリメチルベンゼン	27,554	19,561			146	3,602	4,245
227	108-88-3	トルエン	521,015	221,288			228,232	41,674	29,821
232	none	ニッケル化合物	1,238		56	935	248		
272	117-81-7	フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)	8,774			243	8,531		
299	71-43-2	ベンゼン	14,916	51			14,866		
311	none	マンガンおよびその化合物	4,276		71	1,337	2,868		
合計			2,956,034	623,990	268	5,594	2,044,221	113,112	168,850

群馬製作所[伊勢崎工場]

[単位:kg/年]

物質番号	CAS番号	化学物質名	取扱量	大気排出量	水域排出量	移動量	消費量	除去処理量	リサイクル量
1	none	亜鉛の水溶性化合物	5,345		58	1,156	4,131		
63	1330-20-7	キシレン	2,138	60			2,078		
227	108-88-3	トルエン	2,485	6			2,480		
232	none	ニッケル化合物	1,238		56	935	248		
272	117-81-7	フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)	2,216			111	2,106		
311	none	マンガンおよびその化合物	4,276		71	1,337	2,868		
合計			17,699	66	184	3,539	13,910	0	0

スバル研究実験センター(栃木県佐野市)

[単位:kg/年]

物質番号	CAS番号	化学物質名	取扱量	大気排出量	水域排出量	移動量	消費量	除去処理量	リサイクル量
63	1330-20-7	キシレン	25,144	34			25,110		
224	108-67-8	1,3,5-トリメチルベンゼン	2,532	3			2,530		
227	108-88-3	トルエン	54,449	83			54,366		
299	71-43-2	ベンゼン	1,658	2			1,656		
合計			83,784	122	0	0	83,662	0	0

沿革

- 1917年 12月 飛行機研究所を群馬県太田町に移転
- 1934年 11月 太田新工場完成、旧太田工場は呑竜工場と改称
- 1945年 8月 中島飛行機(株)を富士産業(株)と改称
- 1953年 7月 富士重工業(株)設立
- 1955年 4月 太田北工場、伊勢崎工場開設
- 1958年 3月 軽四輪乗用車スバル360発表
- 1960年 10月 群馬製作所本工場開設
- 1964年 11月 群馬製作所テストコース完成
- 1969年 2月 矢島工場稼働開始
- 1983年 2月 大泉工場開設、本格稼働
- 1987年 5月 スバル研究実験センター起工式挙行
- 1999年 3月 群馬製作所としてISO14001認証取得
- 2001年 3月 群馬製作所ゼロエミッション達成
- 2010年 3月 富士重工業(株)としてISO14001統合認証を取得

■ 臭気関係測定結果

本工場7ヶ所、矢島工場7ヶ所、大泉工場4ヶ所、北工場4ヶ所、伊勢崎工場3ヶ所、計25ヶ所の敷地境界で測定を行っています。測定結果は、臭気濃度、臭気指数ともにすべて10未満で、規制値の21をクリアしています。

お問い合わせ先

群馬製作所 総務部総務課 TEL 0276-26-2011  
FAX 0276-26-3020

# 富士重工業株式会社

## 2010 CSR

Site Report

### 宇都宮製作所

#### 本工場(航空宇宙カンパニー)

所在地	〒320-8564 栃木県宇都宮市陽南町1-1-11
土地面積	337,457㎡
建物面積	176,895㎡
従業員数	1,900人
主な生産品目	航空機、無人機、宇宙関連機器

本工場、南工場、第二南工場の合計数です



#### 本工場(エコテクノロジーカンパニー)

所在地	〒320-8564 栃木県宇都宮市陽南町1-1-11
土地面積	171,816㎡
建物面積	51,689㎡
従業員数	199人
主な生産品目	塵芥収集車、風力発電システム、ロボットなど

#### 南工場(航空宇宙カンパニー)

所在地	〒321-0106 栃木県宇都宮市上横田町1418
主な生産品目	航空機



#### 第二南工場(航空宇宙カンパニー)

所在地	〒321-0131 栃木県宇都宮市宮の内2-810-4
主な生産品目	航空機



#### 半田工場(航空宇宙カンパニー)

所在地	〒475-0032 愛知県半田市潮干町1-27
土地面積	49,041㎡
建物面積	11,227㎡
従業員数	364人
主な生産品目	航空機



#### 半田西工場(航空宇宙カンパニー)

所在地	〒475-0804 愛知県半田市上浜町102
土地面積	41,977㎡
建物面積	13,809㎡
従業員数	27人
主な生産品目	航空機



#### トップメッセージ



宇都宮製作所  
所長

梅原 英資

私たちは、経営ビジョンのひとつとして「社会的責任を全うする企業」を掲げています。これは当社の長期ビジョンである「存在感と魅力ある企業」を実現するための基本事項であり、「すべてはお客さまのために」を基本方針に、環境への配慮、社会への貢献、コンプライアンスの向上などに積極的に取り組み、皆さまから信頼される企業を目指して持続的な社会発展へ貢献するとともに企業価値の向上を図ってまいります。

これらの実現のため、宇都宮製作所では、地球温暖化防止をはじめとする環境への取り組み強化を図ることと併せて、住宅地域と近接して工場があることから「地域に愛される企業」をスローガンに掲げ、コンプライアンスの徹底や交通マナーアップ、苦情への真摯な対応などに注力しています。また製造業の強みを活かし、子どもたちに科学や環境活動について理解を深める取り組みを継続していきます。

# 地域社会とのかかわり

## 地域社会とのコミュニケーション

宇都宮製作所は、地域社会の一員として地域との共生を図り、ともに繁栄していくことを目指し、さまざまなコミュニケーション活動を推進しています。特に製造業の強みを活かし、子どもたちに科学や環境保全活動について理解を深める取り組みを長年にわたり実施しています。

### ■ 出前環境教室



年間を通じて、宇都宮市内の小学校に従業員が出向き、地球温暖化の仕組みについて説明や実験を実施、環境問題への理解を深める活動を行っています。2009年度は26クラス、756名の小学校5年生に対して実施しました。(累計で112クラス、3,362名)

### ■ 帝京大学「理工系進学体験イベント」



9月 帝京大学宇都宮キャンパスで行われた進学体験イベントに参加。当社は、飛行機が飛ぶ仕組みを翼の模型を使い、風をあてて浮かび上がらせる実験や、展示により、航空機材料の軽さを体験していただくなど、訪れた約650名の児童に楽しみとともに科学に興味を持っていただきました。

### ■ JAPAN CUP サイクルロードレースに協賛



毎年10月に宇都宮市が主催するアジア最高峰の自転車レース「JAPANCUP」に冠スポンサーとして1990年度より継続して協賛しており、国内外に自転車の街「宇都宮」を広くアピール支援しています。2009年度は過去最高の約67,000名の観客が県内外から集まりレースを楽しみました。

### ■ 企業体験バスツアー



3月 宇都宮市が企画する学生に「ものづくり」の楽しさに触れて、将来の進路検討に役立てていただくという工場見学・体験会を宇都宮製作所で実施しました。2009年度は高校生・大学生33名が参加し、飛行機の開発・製造の現場を見学し材料の軽さを体験しました。

### ■ 市民工場見学会



8月 製作所近隣の自治会92名の皆さまに参加いただき、製作所内でどういった製品をつくっているのか、どのような作業を行っているのかを理解いただくための工場見学会を実施しました。世界中を飛び回っている飛行機の多くに、当製作所でつくられた部品が使われていることに参加者からは驚きの声があがっていました。

### ■ 学童向け野球教室



1月 当社硬式野球部が地域の学童野球チームに技術向上などの指導をする野球教室を開催しました。今回で8回目を迎えた本教室は、すっかり地域にも定着しグラウンドに光る子どもたちの真剣な眼差しが、冬の恒例行事となっています。

## 交通安全・環境保全教育・啓発活動、その他

宇都宮製作所では、CSR活動推進のためにさまざまな機会をとらえて、従業員に対する交通安全や環境保全活動促進のための教育や、啓発のための取り組みを積極的に実施しています。

### ■ 交通安全教育(ナイトスクール)



3月 若年層を中心に夜間運転の教育を所内で実施しました。実際の車両を使い、昼間と夜間時の人やクルマの見え方の違いを体験するなど、夜間運転の危険性を学ぶことで交通安全意識の向上を図りました。

### ■ 地域の児童交通安全指導



従業員の交通マナー意識向上も兼ねて、通勤・通学時間帯に当所周辺の道路で交通安全指導を実施しました。製作所周辺は通学路が多いため、新入生が通い始める4月と、夏休み明けで緊張が緩む9月の2回実施しました。

### ■ 環境事例発表会



10月 自職場の環境影響を理解し、本来業務の改善を通して、環境負荷の低減、そして利益貢献につなげていこうという環境活動の事例発表会を開催しました。今回は6職場が発表、取り組みへの理解を進めました。

### ■ クリーンキャンペーン(環境月間行事)



6月 当製作所周辺のごみ分別収集作業にボランティアとして従業員440名が協力しました。自分たちの手で普段何気なく通勤などで使用している「生活道路」の環境を整え、環境活動を身近なものとしてとらえました。

### ■ モーダルシフト事業で「国土交通省海事局長表彰」受賞



11月 環境問題に配慮し、輸送量あたりのCO<sub>2</sub>排出量を削減する取り組みとして「フジマイティー」の輸送において陸路での自走から海上輸送へのモーダルシフトを推進。CO<sub>2</sub>削減に寄与したとして「国土交通省海事局長表彰」を受賞しました。



右: (株)スバルロジスティクス岡崎社長(受賞当時)  
左: エコテクノロジーカンパニー 荒井 プレジデント(受賞当時)

### ■ 毎年恒例の「緑の募金」活動



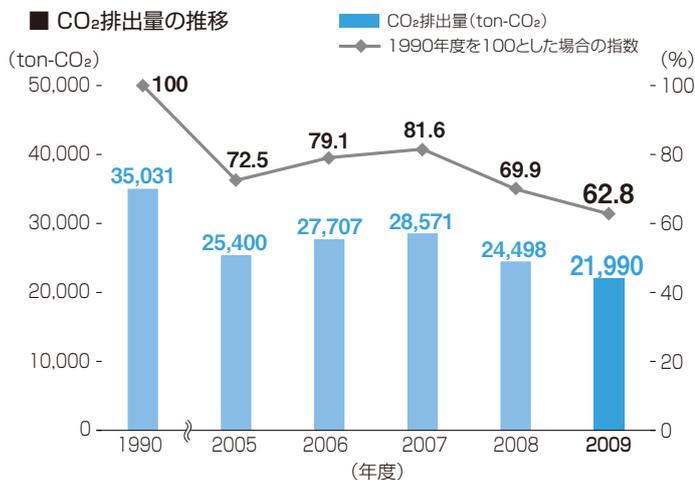
9月 栃木県・愛知県の緑化推進委員会に所内で働く人全員が協力した募金を寄付しました。本活動は2000年度より開始し、今年で10回目を迎えました。回を重ねるごとに製作所内における環境保護活動への関心が定着しています。(2009年度実績: 約330千円)

## 環境保全の取り組み

私たちは、自動車をはじめとする総合輸送機器メーカーとして、「地球環境問題への対応は経営における重要課題」と認識し、環境保全の取り組みを進めていきます。

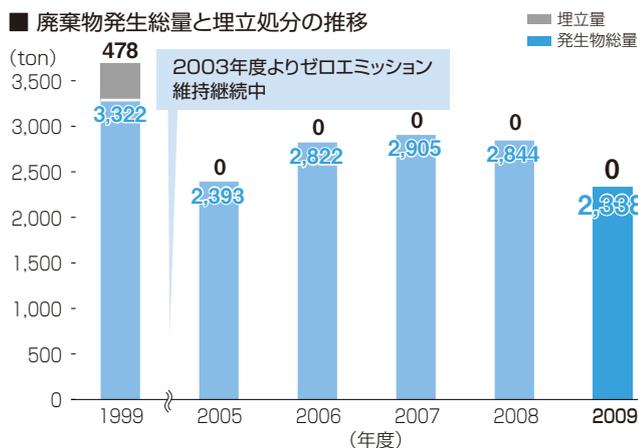
### 地球温暖化防止への取り組み

CO<sub>2</sub>排出量は近3年、減少傾向で推移しています。また、1990年実績比では37.2%の削減を達成しています。今後もさらに、省エネルギー活動に取り組み、地球温暖化防止へ寄与していきます。



### ゼロエミッションへの取り組み

2003年に、ゼロエミッションを達成しています。今後も、リサイクルの向上と廃棄物排出量の削減に向け努力していきます。



### 公害防止への取り組み

地域社会との共生や緑豊かな自然環境を維持していくため、排出ガスや排水の管理、環境リスク低減などに取り組み、環境事故や公害の発生を防止するための活動を推進しています。

しかしながら2009年度には、工場近隣にお住まいの方から騒音に関する苦情を2件受け、所内水路に廃液を流出させる構内環境事故が2件発生しました。本件に関する発生状況や是正処置などについては2010 CSRレポート45ページをご参照ください。

今後も、基準値超過を含めてゼロを目標に取り組んでいきます。

### 2009年度の環境関連測定結果

測定結果は、すべて水質汚濁防止法および各地域ごとに適用される宇都宮市下水道条例、半田市公害防止協定に適合しており、20%上乗せした自主基準値※1もクリアしています。

※1 当社では大気・水質・騒音振動すべての測定結果について、法令基準値に20%上乗せした自主基準値を設定しています。

## ■ 水質測定結果

本工場:宇都宮市公共下水道

項目	規制値 (下水道)	自主 基準値	最大値	最小値	平均値
pH	5~9	5.4~8.6	7.7	6.1	7.2
BOD	600	480	281	0.5	48.0
SS	600	480	246	1未満	36.5未満
n-ヘキサン抽出物質(鉱物油)	5	4	3.5	1未満	1.5未満
フッ素	8	6.4	1.5	0.2未満	0.4未満
カドミウム	0.1	0.08	0.01	0.01未満	0.01未満
シアン	1	0.8	0.1	0.1未満	0.1未満
総クロム	2	1.6	0.5	0.01未満	0.05未満
六価クロム	0.1	0.08	0.02	0.02未満	0.02未満

南工場:宇都宮市公共下水道

項目	規制値 (下水道)	自主 基準値	最大値	最小値	平均値
pH	5~9	5.4~8.6	8	6.8	7.3
BOD	600	480	92.9	7.6	31.9
SS	600	480	162	5.2	33.2
n-ヘキサン抽出物質(鉱物油)	5	4	1.4	1未満	1未満
フッ素	8	6.4	0.2未満	0.2未満	0.2未満
カドミウム	0.1	0.08	0.005未満	0.005未満	0.005未満
シアン	1	0.8	0.01未満	0.01未満	0.01未満
総クロム	2	1.6	0.03	0.01未満	0.01未満
六価クロム	0.1	0.08	0.02	0.02未満	0.02未満

南第二工場:宇都宮市公共下水道

項目	規制値 (下水道)	自主 基準値	最大値	最小値	平均値
pH	5~9	5.4~8.6	8	6.9	7.3
BOD	600	480	94.9	0.9	21.6
SS	600	480	126	1	23.6
n-ヘキサン抽出物質(鉱物油)	5	4	1未満	1未満	1未満
フッ素	8	6.4	2	0.2未満	0.3未満
カドミウム	0.1	0.08	0.005未満	0.005未満	0.005未満
シアン	1	0.8	0.01未満	0.01未満	0.01未満
総クロム	2	1.6	0.27	0.01未満	0.07未満
六価クロム	0.1	0.08	0.02	0.02未満	0.02未満

## ■ 大気測定結果

測定結果は、すべて大気汚染防止法に適合しており、20%上乗せした自主基準値もクリアしています。

本工場:大気(大気汚染防止法)

設備	物質	規制値	自主基準値	最大値	平均値
コージエネ	NOx	600	480	157	156
	ばいじん	230	184	60	56
乾燥炉	NOx	230	184	60	56
	ばいじん	0.2	0.16	0.001	0.001

【単位】 NOx:ppm、ばいじん:g/m<sup>3</sup>N、  
法規特定施設9機中、コージエネと乾燥炉のデータを掲載しています。  
掲載していない特定施設についても測定値は自主基準値をクリアしています。

半田西工場:大気(愛知県条例)

設備	物質	規制値	自主基準値	最大値	平均値
2トンボイラー	SOx	1.5	1.2	0.01	0.01
	NOx	180	144	38	35
	ばいじん	0.1	0.08	0.002	0.002

【単位】 SOx:m<sup>3</sup>N/h、NOx:ppm、ばいじん:g/m<sup>3</sup>N、  
法規特定施設5機中、ボイラーデータを掲載しています。  
掲載していない特定施設についても測定値は自主基準値をクリアしています。

半田工場:水質汚濁防止法、愛知県条例

項目	規制値 (県条例)	自主 基準値	最大値	最小値	平均値
pH	6~8	6.2~7.8	7.8	6.6	7.4
BOD	25	20	11	0.5	8.3
SS	25	20	21	1	5.1
n-ヘキサン抽出物質(鉱物油)	5	4	0.5未満	0.5未満	0.5未満
COD	25	20	11	2.2	5.8
大腸菌群数	3,000	2,400	240	30	86.6

半田西工場:水質汚濁防止法、愛知県条例、半田市公害防止協定

項目	規制値 (協定値)	自主 基準値	最大値	最小値	平均値
pH	6~8	6.2~7.8	7.8	6.9	7.5
BOD	15	12	4.1	1	2.6
SS	15	12	8	1	4.3
n-ヘキサン抽出物質(鉱物油)	2	1.6	0.5未満	0.5未満	0.5未満
フッ素	5	4	0.02未満	0.02未満	0.02未満
シアン	0.5	0.4	0.02未満	0.02未満	0.02未満
総クロム	0.2	0.16	0.04未満	0.04未満	0.04未満
六価クロム	0.3	0.24	0.04未満	0.04未満	0.04未満

【記号】…pH:水素イオン濃度、BOD:生物化学的酸素要求量、  
SS:水中に浮遊または懸濁している直径2mm以下の粒子状物質  
【単位】…大腸菌=個/ml、その他はpH除きmg/l、全りん:全窒素の規制値は日間平均値

■ 騒音・振動測定結果

測定結果は、すべて騒音・振動規正法に適合しており、20%上乗せした自主基準値もクリアしています。

騒音関係 [単位:dB(A)]				振動関係 [単位:dB(Z)]					
測定場所	規制値(夜間)	自主基準値	測定数	測定値	測定場所	規制値(夜間)	自主基準値	測定数	測定値
本工場	60	58	8	57	本工場	65	63	8	32
南工場	50	48	3	39	南工場	60	58	2	<30
南第二工場	50	48	3	47	南第二工場	60	58	3	<30
半田工場	65	63	3	44	半田工場	70	68	3	37
半田西工場	65	63	6	60	半田西工場	70	68	5	<30

■ PRTR対象化学物質の取扱量、排出量など

宇都宮製作所 [航空宇宙カンパニー] (本工場、南工場、南第二工場)

[単位:kg]

物質番号	CAS番号	化学物質名	取扱量	大気排出量	水域排出量	移動量	消費量	除去処理量	リサイクル量
30	25068-38-6	4,4-イソプロピレンジフェノールと1-クロロ-2,3-エポキシプロパンの重縮合物	2,033			813			
40	100-41-4	エチルベンゼン	531	79		22	430		
63	1330-20-7	キシレン	4,882	1,835		647	2,400		
227	108-88-3	トルエン	22,368	14,551		4,055	3,762		
69	none	六価クロム化合物	2,010		3	976	647	384	
311	none	マンガンおよびその化合物	1,375			550	825		
合計			33,199	16,465	3	7,063	9,284	384	0

\*宇都宮製作所 [航空宇宙カンパニー] の、半田工場・半田西工場については1トン以上使用したPRTR対象物質はありませんでした。

宇都宮製作所 [エコテクノロジーカンパニー]

[単位:kg]

物質番号	CAS番号	化学物質名	取扱量	大気排出量	水域排出量	移動量	消費量	除去処理量	リサイクル量
40	100-41-4	エチルベンゼン	7,897	4,847			1,919		1,131
63	1330-20-7	キシレン	22,433	13,922			5,451		3,060
227	108-88-3	トルエン	7,709	4,986			1,873		850
合計			38,039	23,755	0	0	9,243	0	5,041

沿革

- 1953年 7月 富士重工業(株)設立
- 1958年 1月 T-1 中等練習機、初飛行に成功
- 1962年 3月 ロードパッカー(塵芥収集車・現フジマイティ)の生産開始
- 1963年 8月 UH-1B タービンヘリコプターを防衛庁に納入
- 1965年 8月 国産軽飛行機FA-200(エアロスバル)初飛行
- 1978年 T-3 初等練習機を防衛庁に納入
- 1984年 対戦車ヘリコプター AH-1Sを防衛庁に納入
- 1988年 T-5 初等練習機を防衛庁に納入
- 1992年 12月 ボーイング777組立工場(半田工場)稼働開始
- 1993年 UH-1Jヘリコプターを防衛庁に納入
- 1999年 7月 宇都宮製作所としてISO14001認証を取得
- 2000年 11月 フジマイティ LPO型発売
- 2002年 3月 宇都宮製作所ゼロエミッション達成
- 6月 カンパニー制度導入
- 航空宇宙カンパニーとエコテクノロジーカンパニー設立
- 7月 T-7 新初等練習機初飛行および防衛庁に納入
- 2005年 9月 次期輸送機・固定翼哨戒機の主翼を納入
- 12月 茨城県神栖市に大型風力発電試作機建設
- 2006年 3月 AH-64D ヘリコプターの初飛行および防衛庁に納入
- 2007年 1月 ボーイング787の中央翼を初出荷
- 2010年 3月 富士重工業(株)としてISO14001統合認証を取得



[2010年3月31日現在]



お問い合わせ先

宇都宮製作所 総務部 TEL 028-684-7777  
FAX 028-684-7778

# 富士重工業株式会社 2010 CSR

Site Report

## 埼玉製作所 (産業機器カンパニー)

### 事業概要

[2010年3月31日現在]

所在地 〒364-8511 埼玉県北本市朝日4-410

土地面積 143,438㎡

建物面積 92,061㎡

従業員数 527人

主な事業内容 ロビンエンジン、エンジン発電機など



### トップメッセージ



執行役員  
産業機器カンパニープレジデント  
**上野 康男**

私たちは、事業活動のあらゆる段階を通して「地球温暖化防止」「省エネルギー」「廃棄物や環境負荷物質削減」に、全製作所一丸となり積極的に取り組むことで、地球環境保全を推進し、豊かな未来の実現を目指します。

## 地域社会とのかかわり

埼玉製作所は、1995年に稼働を開始した、当社では一番新しい製造拠点です。地域行事への参加、製作所見学の受け入れ、クリーン活動などのさまざまなコミュニケーションを大切にしています。また、自動車製造会社として交通事故撲滅をリードしていくことが社会的責任と認識し、毎年交通安全教育を実施しています。

### 地域社会とのコミュニケーション

当製作所では、生産工程を中心とした工場見学のほか、教育を主体とした環境型工場見学や社会体験学習なども実施しています。



北本市内中学生の社会体験学習



工業高校5年目教諭対象の研修

当製作所では朝、正門前の道路で通学児童の交通指導を実施しています。また、北本市による「びかびかきたもとおまかせプログラム」に参加しており、工場周囲の清掃活動を行っています。12月には交通指導が評価され、北本市内小学校の「ありがとう集会」に当社従業員が招待されました。



12月 感謝の手紙と素敵な首飾りをいただく当社従業員



毎月1回開催「びかびかきたもとおまかせプログラム」による清掃活動

当製作所では、子育て支援、交通安全活動なども行っています。



10月 3回目となる「お父さん応援講座」が開催され、お父さんの子育てについて教育を受けました



12月 鴻巣警察交通指導課に協力いただき開催した交通安全講話会

## 環境保全の取り組み

### グリーン調達活動

産業機器カンパニーは、世界トップレベルの環境配慮型汎用エンジンを製造・提供するため、『地球にやさしい部品調達』を常に心掛けています。部品に含まれる環境負荷物質の削減はもちろん、サプライヤーの皆さまと協力して部品の設計段階までさかのぼり、グリーン調達活動に取り組んでいます。最近の事例としては、鍛造部品の熱処理廃止によりCO<sub>2</sub>削減とコストダウンを同時に実現しました。また、軽量化や加工数の削減、リサイクル材の積極採用など限られた資源の有効活用を心掛けています。

現在、汎用エンジン業界は、中国勢の台頭など激しい国際協力が繰り広げられていますが、ロビンエンジンは優れた耐久性と環境性能によって差別化を図り、その価値をお客さまに認めていただけるようカンパニー一丸となってこれからも取り組んでいきます。

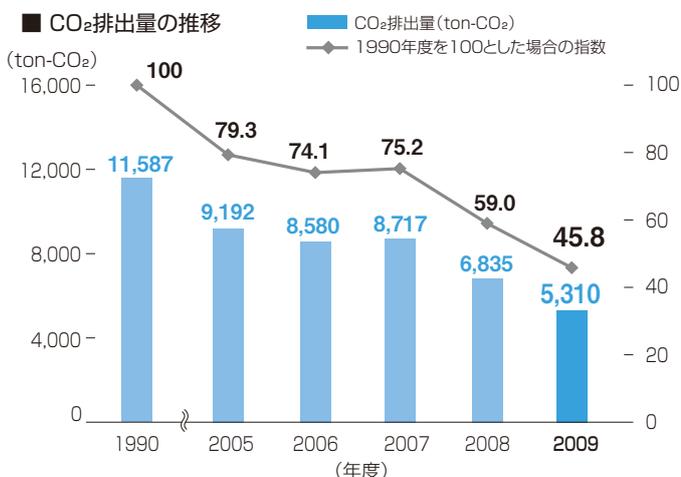
### 地球温暖化防止、省エネルギーへの取り組み

当所のCO<sub>2</sub>排出量は1990年度比50%以上の低減となっています。

当所で主に使用されるエネルギーとして、電気、ガソリン系、LPGがあります。2009年度はゼロベースで見直しを行い、対応が遅れていたLPG使用量削減に取り組みました。LPGは、焼入職場のガス浸炭炉、食堂厨房、蒸気ボイラーへ送られ、蒸気ボイラーは工場棟2階運転場暖房、集中洗浄機用に使用されています。NHK(無くす・減らす・変える)の手法に沿い、十分なテスト結果によりLPGは自然気化だけでも足りることが確認できたので、強制気化装置の使用廃止、ボイラー運転時間の最適化選定、洗浄機タンクへの断熱シート貼りを行うなどして、夏場のLPG使用量20%削減を達成しました。

本改善は、2009年度業務改善優秀事例発表全社大会で発表しました。

2010年度は、さらに改善を進めて昇温時のみLPG、保温は電気ヒーターを使用するハイブリッド熱源化に取り組んでいきます。

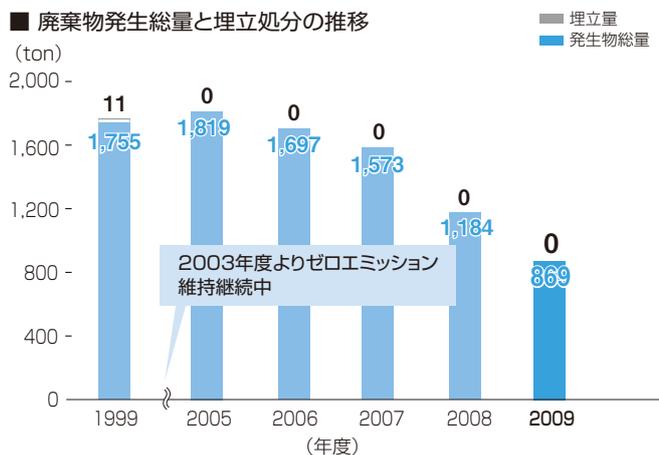


2009年度業務改善優秀事例発表全社大会の様子

### ゼロエミッションへの取り組み

#### ■ リターナブル鉄製パレット ～ずっと前からエコでした～

製品を出荷するために使用する梱包材はお客さまに届いた時点で役目を終え、廃棄物となってしまいます。しかし、傷や衝撃から製品を守り、大切にお届けするためには、十分な強度を有する梱包材が必要です。その結果、一般的にはダンボールの梱包材を使用し、大量の廃棄物を発生させることとなります。



当カンパニーの製品の約半分は鉄製パレットで出荷しています。この鉄パレットは1台で製品の種類により4~9台を積載可能で、繰り返し使用でき、ダンボールのように廃棄物になりません。また、梱包・開梱の作業性がよく、お客さまからも大変好評をいただいています。当カンパニーでは30年以上にわたって鉄パレットを使用しており、約13,500トンもの廃棄物を削減してきたこととなります。



一方で、鉄パレットはお客さまとの間を行き来するため、使用回転率を高めることが課題となります。このため、比較的近距离で行き来の頻繁なお客さまには積極的活用を図り、遠距離のお客さまには容積効率・作業性を考慮したダンボールの集合梱包も併用するなどの使い分けも行っています。

今後も、鉄パレット、ダンボール共容積効率向上、廃棄物削減に向けた取り組みを進めていきます。

## 公害防止への取り組み

地域社会との共生や緑豊かな自然環境を維持していくため、排出ガスや排水の管理、環境リスク低減などに取り組み、環境事故や公害の発生を防止するための活動を推進しています。

2009年度には、下水道放流のn-ヘキサン抽出物測定値で自主基準値\*1を超える値が1回発生しました(北本市条例の基準値は超過していません)。本件に関する是正処置状況などについては2010 CSRLレポート45ページをご参照ください。

今後も、基準値超過・苦情を含めてゼロを目標に取り組んでいきます。

\*1  
当社では大気・水質・騒音・振動全ての測定結果について、法令基準値に20%上乗せした自主基準値を設定しています。

### ■ 水質関係測定結果

下水道放流、北本市条例

項目	規制値 (下水道)	自主 基準値	最大値	最小値	平均値
pH	5~9	5.4~8.6	8.2	6.6	7.7
BOD	600	480	400	94	186.6
SS	600	480	240	54	153.4
n-ヘキサン抽出物質 (動植物油)	30	24	28	3.9	10.7

pH:水素イオン濃度  
BOD:生物化学的酸素要求量  
SS:水中に浮遊または懸濁している直径2mm以下の粒子状物質  
【単位】pH除き、mg/ℓ

### ■ 騒音・振動関係測定結果

[騒音単位: dB(A)、振動単位: dB(Z)]

	測定時間帯	規制値	自主基準値	測定数	測定値
騒音関係	朝、夕	50	49	1	41~49
	昼	55	54	2	47~54
	夜	45	44	1	41~44
振動関係	昼	60	59	1	32
	夜	55	54	1	<30

### ■ PRTR対象化学物質の取扱量、排出量など

[単位: kg]

物質番号	CAS番号	化学物質名	取扱量	大気排出量	水域排出量	移動量	消費量	除去処理量	リサイクル量
40	100-41-4	エチルベンゼン	1,205	12			1,193		
43	107-21-1	エチレンジクロール	798	0			798		
63	1330-20-7	キシレン	6,457	42			6,415		
224	108-67-8	1,3,5-トリメチルベンゼン	855	3			852		
227	108-88-3	トルエン	9,575	166			9,409		
299	71-43-2	ベンゼン	430	19			411		
合計			19,320	242	0	0	19,078	0	0

## 沿革

1943年 3月 中島飛行機 大宮製作所開設、海軍機体生産開始  
1946年 6月 富士産業(株) 大宮工場、船外機エンジン生産開始  
1950年 8月 大宮富士工業(株)設立  
1953年 7月 富士重工業(株)設立  
1970年 2月 ロビンエンジン生産累計100万台突破  
1985年 7月 ロビンエンジン生産累計1,000万台突破  
1995年 4月 埼玉製作所稼働開始  
1999年 5月 埼玉製作所サイトとしてISO14001認証を取得  
2002年 3月 埼玉製作所ゼロエミッション達成  
2010年 3月 富士重工業としてISO14001統合認証を取得



### お問い合わせ先

産業機器カンパニー 総務課 TEL 048-593-7755  
FAX 048-593-7790

# 富士重工業株式会社 2010 CSR

Site Report

## 東京事業所

### 事業概要

[2010年3月31日現在]

所在地	〒181-8577 東京都三鷹市大沢3-9-6
土地面積	158,147㎡
建物面積	69,173㎡
従業員数	1,084人
主な事業内容	自動車用エンジン、 トランスミッションの研究開発、実験



### トップメッセージ



常務執行役員  
東京事業所長

宮脇 基寿

近年、企業の社会的責任(CSR)に対する関心が高まるなか、当社では企業の社会的責任は正に企業活動そのものと理解し、環境保全・コンプライアンス・社会貢献などに、積極的に取り組んでいます。

東京事業所では、スバル車のパワーユニット(エンジン・トランスミッション)開発を担うサイトとして、走りと環境安全性能を高い次元で両立させるために、たゆまぬ努力を続けています。

自動車の環境負荷を左右する重要なポジションにあることを自覚するとともに、住宅地に隣接する都市型事業所を強く意識しながら、環境に配慮した開発や事業活動に心掛け、環境保全や公害防止の取り組みを強化しています。

これからも、燃費や排気ガスの性能向上、クリーンエネルギー自動車の開発などを通して、環境にやさしいクルマづくりを目指し、「クリーンなパワーユニット」を提供することで、社会に貢献していきます。

## 地域社会とのかかわり

私たちは、住宅地に隣接する“都市型事業所”として、周辺地域の皆さまとのお付き合いを大切にしています。ともに豊かな社会を創造するために、安全防災体制の整備や、地域行事・クリーン活動に取り組むとともに、次世代を担う人材育成の一助として、事業所見学を通して小学生の皆さんの社会科授業をお手伝いしています。

### 地域社会とのコミュニケーション



1月 近隣小学校の児童(計456名)を招いて開催した事業所見学会



10月 社会科授業支援として多摩市内の小学校で出張授業を開催



4月 もしものときに備え、新入社員(90名)が救命講習を受講



1月 近隣の小学生(約200名)を招いて当社硬式野球部による野球教室を開催



10月 三鷹市住民協議会会員を招いて開催した環境関連施設見学会



5月、11月 三鷹警察署に協力いただき二輪車安全運転教室を開催

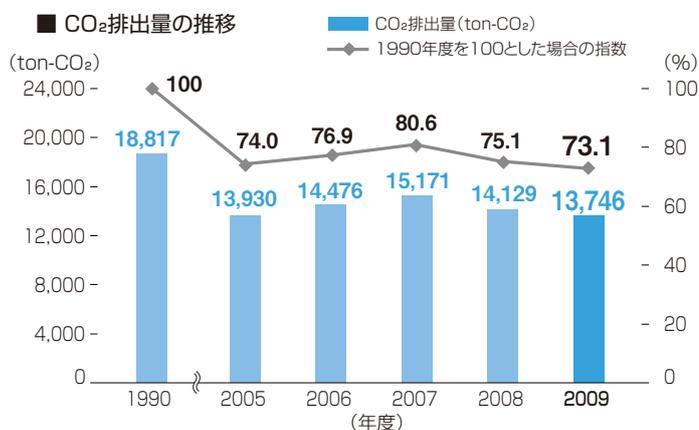
## 環境保全の取り組み

私たちは、自動車をはじめとする総合輸送機器メーカーとして、「地球環境問題への対応は経営における重要課題」と認識し、環境保全の取り組みを進めています。

### 地球温暖化防止への取り組み

CO<sub>2</sub>排出量を、2010年までに1990年実績比22%の削減を目標に取り組んでいます。

今後さらに、省エネルギー活動に取り組み、地球温暖化防止へ寄与していきます。



### Close Up

#### 環境対応型事務本館が完成

11月に、地上5階建ての事務本館が完成しました。この建物は、太陽光発電や窓際照明の自動調光など、各所に環境への配慮を取り入れています。

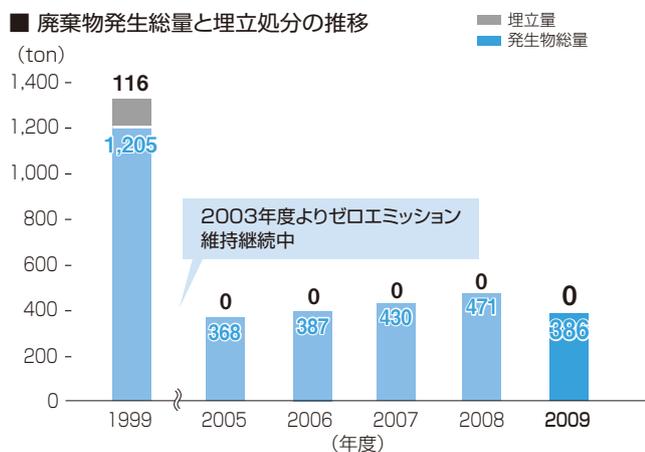
また、屋上は将来の緑化に備えた構造となっています。



### ゼロエミッションへの取り組み

2003年に、ゼロエミッションを達成しました。

今後も、リサイクルの向上と廃棄物排出量の削減に向け努力していきます。



## 公害防止への取り組み

地域社会との共生や緑豊かな自然環境を維持していくため、排出ガスや排水の管理、環境リスク低減などに取り組み、環境事故や公害の発生を防止するための活動を推進しています。

しかしながら2009年度には、所内通路に少量油分を漏洩などの構内環境事故が3件発生しました。本件に関する発生状況や是正処置などについては2010 CSRレポート45ページをご参照ください。

今後も、基準値超過・苦情を含めてゼロを目標に取り組んでいきます。

### 2009年度の環境測定結果

大気・水質すべての測定結果は、法令はもとより当社で定めた法令よりも20%厳しい自主基準値を順守しています。

#### ■ 水質測定結果(三鷹市公共下水道)

項目	規制値 (県条例)	自主基準値	最大値	最小値	平均値
pH	5.7~8.7	5.9~8.4	8.4	7.2	8.0
BOD	300	240	240	2.2	86.0
SS	300	240	240	5	62.4
n-ヘキサン抽出物質(鉱物油)	5	4	4未満	4未満	4未満
n-ヘキサン抽出物質(動植物油)	30	24	19	4	5.4
全りん	16(8)	12.8	12.7	0.4	2.9
全窒素	120(60)	96	70.3	4.8	24.9
溶解性マンガン	10	8	0.03	0.01	0.02
シアン	1	0.8	0.01未満	0.01未満	0.01未満

pH:水素イオン濃度  
BOD:生物化学的酸素要求量  
SS:水中に浮遊または懸濁している直径2mm以下の粒子状物質  
【単位】pH除き、mg/ℓ

#### ■ 大気測定結果(大気汚染防止法)

設備	物質	規制値	自主基準値	最大値	平均値
ボイラー	NOx	65	52	45	45
	ばいじん	0.3	0.24	0.001	0.001

NOx:窒素酸化物  
【単位】NOx:ppm、ばいじん:g/m<sup>3</sup>

#### ■ PRTR対象化学物質の取扱量、排出量など

[単位:kg]

物質番号	CAS番号	化学物質名	取扱量	大気排出量	水域排出量	移動量	消費量	除去処理量	リサイクル量
40	100-41-4	エチルベンゼン	13,937	0.379			13,937		
43	107-21-1	エチレングリコール	2,912				2,912		
63	1330-20-7	キシレン	63,602	1.525			63,600		
224	108-67-8	1,3,5-トリメチルベンゼン	8,756	0.049			8,756		
227	108-88-3	トルエン	173,369	14.218			173,355		
299	71-43-2	ベンゼン	5,201	1.548			5,199		
合計			267,777	17.718	0	0	267,759	0	0

### 沿革

- 1941年 5月 中島飛行機 三鷹研究所設立
- 1955年 4月 富士重工業(株) 三鷹製作所となる
- 1958年 2月 スバル360用空冷エンジン生産開始
- 1975年 8月 レオーネ用エンジン(SEEC-T)生産開始
- 1982年 2月 製造部門の群馬地区移転がスタート
- 1989年 2月 東京事業所に名称変更
- 1996年 10月 スバル開発本部ISO9001認証取得
- 1999年 3月 事業所内でのエンジントランスミッションの生産を終了(研究開発に集中)
- 2004年 1月 東京事業所サイトとしてISO14001認証を取得
- 2010年 3月 富士重工業としてISO14001統合認証を取得



### お問い合わせ先

東京事業所 総務部 TEL 0422-33-7010  
FAX 0422-33-7777

# 富士重工業株式会社 2010 CSR

Site Report

## 本社 ※1

### 新宿サイト

所在地	〒160-8316 東京都新宿区西新宿1-7-2
土地面積	1,600㎡
建物面積	7,254㎡
従業員数	552人
主な事業内容	スバル製品の企画、マーケティングおよび販売ならびにコーポレート部門



### 大宮サイト

所在地	〒331-0812 埼玉県さいたま市北区宮原町1-854-1
土地面積	3,644㎡
建物面積	4,267㎡
従業員数	49人



### スバルアカデミー

所在地	〒193-0941 東京都八王子市狭間町1460
土地面積	10,397㎡
建物面積	13,378㎡
従業員数	42人
主な事業内容	総合研修センター



本社はスバルの商品企画、マーケティング、販売およびコーポレート部門などから構成された複合組織です。社内外コミュニケーションを重視し、自分たちにできる目の前のことから取り組んでいます。

※1 「本社」とは、スバル製品の企画、マーケティング、販売ならびにコーポレート部門を行う新宿サイト、スバルパーツ製品のマーケティングおよび販売、ならびにスバルITシステムの開発および構築を行う大宮サイト、当社従業員および販売特約店などの教育を行う宿泊施設を備えた総合研修施設のスバルアカデミーサイトの3サイトを範囲としたISO14001環境マネジメントシステムの外部審査適用範囲の総称です。

## 地域社会とのかかわり

### 地域社会とのコミュニケーション

#### ■ エコキャップ回収活動

スバルでは2009年度よりペットボトルのキャップを回収し、NPO法人を通してポリオワクチンを途上国へ寄贈する活動に参加しています。2010年2月に第一回目となる回収を行い、約46,000個のキャップを寄贈することができました。これは約58名分のポリオワクチンとなり、途上国へと送られます。また、このキャップを焼却処分した場合と比較すると363kgのCO<sub>2</sub>を削減したことになります。



エコキャップ専用回収箱を各階に設置



第一回目に回収されたエコキャップ約46,000個

#### ■ モータースポーツ業務における社会貢献

2010年3月、当社従業員が中学校の生徒を対象に講演を実施しました。講演は今回で5回目となります。二部構成になっており、第一部はクルマを取り巻く環境とスバルの技術面・モータースポーツについて説明し、ラリーパーツに実際に触れる機会を設けました。第二部はSTI (株)の従業員と全日本ラリードライバーによるラリーカー開発やラリー参戦体験談が語られました。この活動は企業とモータースポーツのイメージ向上のみを目的としたわけではなく、本物のモータースポーツ車両に触れることで、正しいモータースポーツの理解とクルマ離れが問題となりつつある若者の新規ファンの獲得を意識しました。さらに、実体験を生徒目線で講演することによって、夢に向かって努力することの大切さも伝えることができました。

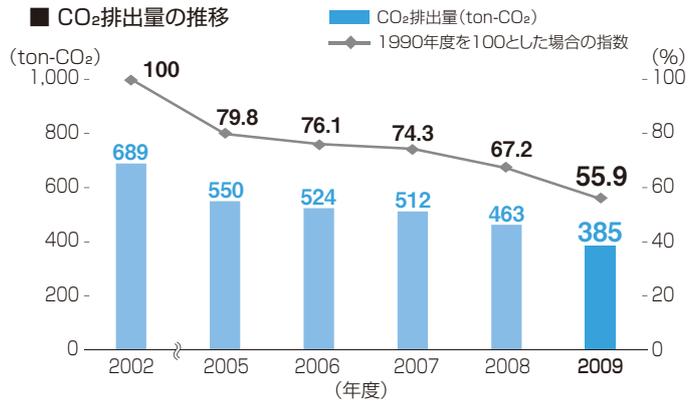


# 環境保全の取り組み

## 地球温暖化防止への取り組み

2009年度のCO<sub>2</sub>排出量は、約385ton-CO<sub>2</sub>となり、2008年度比約17%の削減ができました。これは「エコオフィス活動」の名称で活動してきた従業員一人ひとりの省エネ意識の浸透や、車両デモ運行の見直しなどを進めた結果です。

今後もさらに、省エネルギー活動に取り組み、地球温暖化防止へ寄与していきます。



## ゼロエミッションへの取り組み

2009年度は廃棄物発生量は217.9トンとなり、2008年度比約3%の増加となりました。これは不要となった販促材料(紙類)の多量廃棄(2008年度比12トン増)が影響しています。全体のリサイクル率は5年連続で90%以上をキープしており、埋立量は3.4トンと過去最小となりました。

今後も、リサイクルの向上と廃棄物排出量・埋立量の削減に努力していきます。



## Close Up ライトダウンキャンペーン参加

当社は環境省が主催する温暖化防止のための「CO<sub>2</sub>削減/ライトダウンキャンペーン」に参加しています。この活動は照明を消すことでいかに照明を使用した生活に慣れているかを実感し、地球温暖化問題について考える活動です。2003年度から毎年続けて実施されており、当社は2009年度からの参加となります。2009年度は6月20日と7月7日の20:00～22:00の2時間、屋上のライトを消灯しました。



## 環境マネジメントシステム

2009年度、ISO14001の事務局として全社統合認証を取得しました。環境マネジメントシステムの適用範囲にスバルアカデミーを加え、本社3サイトとしての活動を開始しました。



2月 EMS改善事例発表会



3月 審査機関を招いての統合認証授賞式

## 沿革

- 1953年 7月 富士重工業(株)設立 本社 東京都新宿区角筈2-73
- 1954年 5月 本社 千代田区丸の内2-18 内外ビルに移転
- 1966年 1月 本社 新宿区西新宿1-7-2 スバルビルに新築移転
- 2005年 3月 本社サイトとしてISO14001 認証を取得
- 2010年 3月 富士重工業としてISO14001 統合認証を取得

## お問い合わせ先

本社 総務部 TEL 03-3347-2111  
FAX 03-3347-2015

# 富士重工業株式会社 2010 CSR

Site Report

## 国内関係会社

### 輸送機工業株式会社

所在地 〒475-8668  
愛知県半田市上浜町102  
従業員数 117人  
主な事業内容 航空機部品の製造、販売



### 富士機械株式会社

所在地 〒371-0035  
群馬県前橋市岩神町2-24-3  
従業員数 356人  
主な事業内容 自動車部品・産業機械・農業用  
トランスミッションの製造、  
販売



### 株式会社イチタン

所在地 〒373-0037  
群馬県太田市新道町74  
従業員数 202人  
主な事業内容 自動車・産業機械用鍛造品の  
製造・販売



### 桐生工業株式会社

所在地 〒376-0011  
群馬県桐生市相生町2-704  
従業員数 139人  
主な事業内容 スバル特装車の製造・スバル用部  
品の物流管理・スバルエンジン、  
トランスミッションなどの再生



### 株式会社スバルロジスティクス

所在地 〒373-0814  
群馬県太田市朝日町558-1  
従業員数 159人  
主な事業内容 自動車およびその部品の梱包、  
出荷、陸送業、倉庫業、整備業、  
保険代理店業



## 国内関連企業部会活動

スバルでは、国内関係会社のなかで、環境負荷の高い製造関係および輸送関係の5社により「国内関連企業部会」を組織しています。この部会は年2回定期的に開催して各社の活動事例の共有化や水平展開、当社からの情報提供を図り、効率的で合理的な環境保全活動を推進しています。

2009年度は、5月13日と10月28日に部会会議を開催し、2008年度の実績、2009年度の計画・進捗を報告・討議し、当社からは「改正省エネ法」の概要や、当社で行ったISO14001の統合認証などについて報告しました。

## 地域社会とのかかわり

各社とも、さまざまな社内外コミュニケーション、会社周辺の清掃活動などを定期的  
に実施しています。ここでは2008年度に実施した活動の一部をご紹介します。  
また、(株)イチタン、(株)桐生工業(株)、(株)スバルロジスティクスの3社は、スバル地域交流  
会\*1の活動にも参加しています。

\*1 スバル地域交流会:富士重工業とのお取引先55社からなる組織で、太田市と周辺地域住民との相互交流ならびに地域  
発展を図り、「住みよい街」づくりに貢献することを目的として、さまざまな地域貢献活動を行っています。  
活動内容については下記ホームページからご覧いただけます。



<http://www.chiiki-kouryuukai.com/index.html>



スバル地域交流会Webサイト

## 地域社会とのコミュニケーション

各社とも、会社周辺を中心に清掃活動を定期的に行っています。下の写真は、桐生工業(株)の会社周辺および近隣通学路の  
清掃の様子です。



輸送機工業(株)では、毎年「緑の募金」活動を実施しており、今年も10月に愛知県緑化推進委員会に集まった募金を寄贈し  
ました。



左:愛知県緑化推進委員会  
柴田事務局長  
右:当社 竹井主査

## Close Up

～(株)イチタンの環境マネジメントシステム活動～  
社団法人日本鍛造協会より  
「環境保全優良企業表彰」を受賞

(株)イチタンでは、ISO14001認証取得、環境法令順守、省  
エネ、ゼロエミッションなど環境保全全般の実績が評価され、  
11月に社団法人日本鍛造協会より「環境保全優良企業」と  
して表彰されました。



左:(株)イチタン  
田村社長(受賞当時)



# 環境保全の取り組み

## 環境マネジメントシステム

各社の環境マネジメントシステムの構築状況は下表のとおりです。

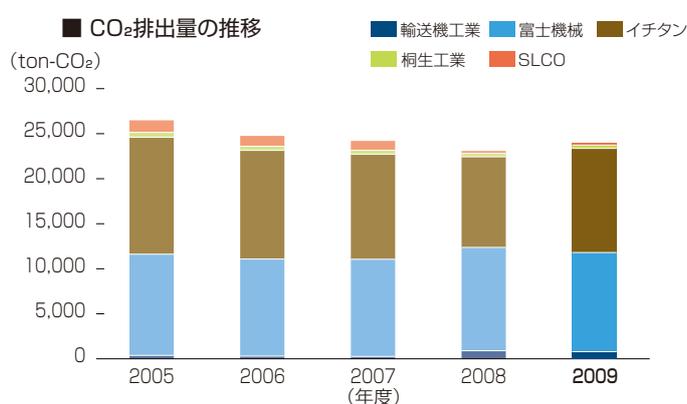
	初回認証 取得年月	2009年度 審査受審日	結果
富士機械(株)	2002年6月	2009年8月5~8日	軽微な不適合3件、よい点2件、改善推奨53件
(株)イチタン	2004年3月	2010年1月26~29日	不適合なし、よい点1件、改善推奨11件
桐生工業(株)	2004年10月	2009年8月19~20日	不適合なし、よい点2件、改善推奨21件
輸送機工業(株)	当社の統合認証の適用範囲に含んでいます		
(株)スバルロジスティクス	2004年2月に外部認証を取得しましたが、現在は自主的なEMS活動に切り替えています		

## 地球温暖化防止への取り組み

2009年度5社合計のCO<sub>2</sub>排出量は24,024ton-CO<sub>2</sub>となり、前年比約1,000ton-CO<sub>2</sub>増加となりましたが、部会活動を開始した2001年度比では約1,500ton-CO<sub>2</sub>、13%削減となっています。

今後もさらに、CO<sub>2</sub>排出量削減・省エネルギー活動に取り組み、地球温暖化防止に貢献していきます。

なお、2009年度までのCO<sub>2</sub>排出量の実績推移は右の図のとおりです。



## Close Up

### ～(株)スバルロジスティクスのCO<sub>2</sub>排出量削減～ モーダルシフト事業で「国土交通省海事局長表彰」受賞

(株)スバルロジスティクスでは、環境問題に配慮し、輸送量あたりのCO<sub>2</sub>排出量を削減する取り組みとして、当社エコテクノロジーカンパニーと共同で、塵芥収集車『フジマイティー』の輸送において陸路での自走から海上輸送へのモーダルシフトを推進してきました。

その結果、陸路自走と比較しCO<sub>2</sub>排出量は全体で約32%削減できました。こうした取り組みが評価され、11月に国土交通省 海事局長表彰を受賞しました。

右:(株)スバルロジスティクス岡崎社長(受賞当時)  
左:当社エコテクノロジーカンパニー 荒井プレジデント(受賞当時)

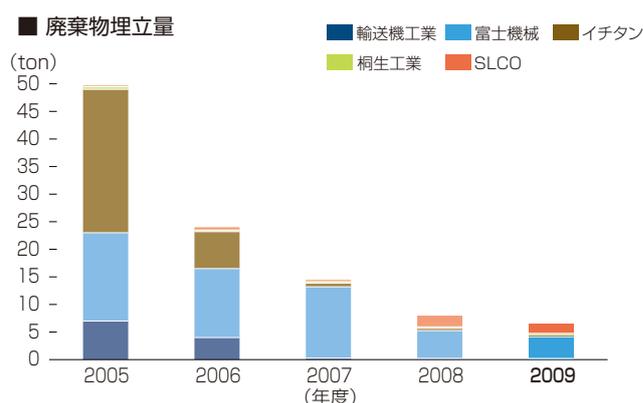


## ゼロエミッションへの取り組み

2009年度は、5社合計で廃棄物発生量7,236トン、埋立量6.3トンとなり、2001年度の部会活動開始以来初めて、廃棄物発生量に対する埋立量の比率が0.1%未満となりました。

今後も、リサイクルの向上と廃棄物発生量・埋立量の削減に向け努力していきます。

なお、2009年度までの廃棄物埋立量の実績推移は右図のとおりです。



## 公害防止への取り組み

各社とも、地域社会との共生や緑豊かな自然環境を維持していくため、環境パトロール、排出ガスや排水の管理、環境リスク低減などに取り組み、環境事故や公害の発生を防止するための活動を推進しています。

### ■ 環境関連法規順守、行政指導など

2009年度、環境関連の法基準値の超過、環境事故・苦情、行政指導はいずれもありませんでした。引き続き「ゼロ」を目標に取り組んでいきます。

### ■ 環境関連測定結果

環境関連の測定結果は下表のとおりです。すべて法規制値を順守しています。

### ■ PCB含有機器などの保管状況

輸送機工業(株)、(株)イチタン、桐生工業(株)の3社で管理台帳とともに適正に保管しています。 桐生工業(株)の緊急時対応訓練の様子



### ■ PRTR対象化学物質取扱いについて

2009年度は、5社とも、対象化学物質の取扱量1トン未満で、届出に該当する会社はありませんでした。

## 2009年度の環境関連測定結果

### ■ 水質関係

輸送機工業(株):半田市公害防止協定

項目	規制値 (協定値)	自主 基準値	最大値	最小値	平均値
pH	5.8~8.6	6~8	8	7.3	7.6
BOD	25	20	3.7	1.1	2.1
SS	30	20	9	1	2.8
n-ヘキサン抽出物質(鉱物油)	2	2	1.2	0.5	0.7
全窒素	120	60	16	0.4	2.2
りん	16	8	1.4	0.01	0.3

富士機械(株)本社工場:下水道法

項目	規制値 (下水道法)	最大値	最小値	平均値
pH	5.7~8.7	7.7	7.3	7.5
BOD	300	1	1未満	1未満
SS	300	2未満	2未満	2未満
n-ヘキサン抽出物質(鉱物油)	5	1	1未満	1未満

富士機械(株)芳賀工場:下水道法

項目	規制値 (下水道法)	最大値	最小値	平均値
pH	5.7~8.7	6.9	6.5	6.7
BOD	300	1	1未満	1未満
SS	300	5	2未満	3
n-ヘキサン抽出物質(鉱物油)	5	1未満	1未満	1未満

富士機械(株)城南工場:水質汚濁防止法、県条例

項目	規制値 (県条例)	最大値	最小値	平均値
pH	5.8~8.6	6.9	6.7	6.8
BOD	20	2	1未満	1.2
SS	20	2未満	2未満	2未満
n-ヘキサン抽出物質(鉱物油)	3	1未満	1未満	1未満

(株)イチタン:水質汚濁防止法、県条例

項目	規制値 (県条例)	自主 基準値	最大値	最小値	平均値
pH	5.8~8.6	6~8.4	7.7	6.7	7.2
BOD	25	20	4.4	0	2.6
SS	50	40	16	0	2.7
n-ヘキサン抽出物質(鉱物油)	5	4	0	0	0.0
大腸菌群数	3,000	2,000	32	0	5.3

(株)スバルロジスティクス 太田納車整備センター:太田市公害防止条例

項目	規制値 (県条例)	自主 基準値	最大値	最小値	平均値
pH	5.8~8.6	6.1~8.3	7.7	7.2	7.4
BOD	10	8	3	0.8	2.1
SS	10	8	1.4	0.4	0.9
n-ヘキサン抽出物質(鉱物油)	3	2.4	1.3	0.1	0.4

【記号】…pH:水素イオン濃度、BOD:生物化学的酸素要求量、  
SS:水中に浮遊または懸濁している直径2mm以下の粒子状物質

【単位】…大腸菌=個/ml、その他はpH除きmg/l、全りん:全窒素の規制値は日間平均値

### ■ 大気関係

輸送機工業(株)

設備	物質	規制値	自主基準値	最大値	平均値
暖房用ボイラー	ばいじん	0.1	0.1	0.006	0.003

富士機械(株) 芳賀工場

設備	物質	規制値	最大値	平均値
ボイラー	NOx	-	72	84
	SOx	0.28	0.01未満	
	ばいじん	-	0.003	0.003

(株)イチタン

設備	物質	規制値	自主基準値	最大値	平均値
ボイラー	NOx	8	4	0.13	0.08
	SOx	180	126	36	35
	ばいじん	0.25	0.15	0.006	0.004

【単位】SOx:m<sup>3</sup>N/h、NOx:ppm、ばいじん:g/m<sup>3</sup>N

### ■ 騒音振動関係

各社で測定を実施しており、2009年度の測定結果はすべて法基準値以内となっています。

# 富士重工業株式会社 2010 CSR

Site Report

## 海外関係会社

### SIA

**所在地** インディアナ州ラファイエット  
**従業員数** 2,716名(2010年3月現在)  
**主な事業内容** 米国におけるスバル車の製造、トヨタ車の受託生産



### SOA

**所在地** ニュージャージー州チェリーヒル  
**従業員数** 746名(2010年3月現在)  
**主な事業内容** 米国におけるスバル車および部品の販売、整備

### SCI

**所在地** オンタリオ州ミシサーガ  
**従業員数** 126名(2010年3月現在)  
**主な事業内容** カナダにおけるスバル車および部品の販売、整備

### SRD

**所在地** ミシガン州アンナーバー  
**従業員数** 26名(2010年3月現在)  
**主な事業内容** 北米市場におけるスバル車の研究開発

### RMI

**所在地** ウィスコンシン州ハドソン  
**従業員数** 22名(2010年3月現在)  
**主な事業内容** 米国における汎用・四輪バギー・ゴルフカート用エンジンの製造、販売

## 主な委員会活動実績

スバルでは、海外の関係会社のなかで特に環境負荷が高い北米の製造関係および販売関係の5社により、「北米環境委員会(NAEC)」を組織しています。この委員会は、年2回定期的に開催し、企業間の活動事例の共有、水平展開を図り、効率的で合理的な環境活動を推進しています。また、2009年に発足した「北米CSR委員会(NACC)」も同時開催し、スバルのグローバルなCSR活動の情報共有および活動推進を図っています。

2009年は2月19日と11月5日に北米環境委員会および北米CSR委員会を開催しました。この委員会には日本からもCSR・環境委員長、事務局が参加し、北米環境委員会各社の活動報告とともに日本の環境委員会の活動報告も行い、グローバルな情報の共有化を進めています。



2009年のNAEC/NACCの様子  
テレビ会議にて開催

## Close Up

### The Indiana Environmental Stewardship Program 加入

SIAは積極的な環境活動への参加が評価され、The Indiana Department of Environmental ManagementよりThe Indiana Environmental Stewardship Programへの正式な加入が認められました。このプログラムへの加入は州のなかでも非常にまれで、SIAはこの名誉あるプログラムに認められた数少ない企業といえます。



The Indiana Department of Environmental Management  
理事のThomas Easterly氏

## 地域社会とのかかわり

### 社会貢献

スバルでは地域とのかかわりを大切に、信頼関係を築くことで社会貢献活動を受け入れ、評価していただけると信じています。地域との信頼関係をより強固なものにするための取り組みを、従業員や地域を巻き込んで展開していきたいと考えています。

#### ■ チャリティ活動

SIAでは、日本でも関心が高まっている乳がんおよび生活習慣病の糖尿病に対して、乳がん撲滅チャリティウォークと糖尿病撲滅チャリティウォークを実施しました。

SOAではアメリカ国内の乳がん、ダウン症、糖尿病、がんなど、さまざまな問題に意識を向け、資金を募るWalks, runs, bowl-a-thonsというイベントを実施しました。

SCIでは、乳がん撲滅の募金を募るイベントである“Golf Fore the Cure”のスポンサーになりました。



SUBARU Share the Love Gardenでの収穫

#### ■ フードバンクに食糧を寄贈

SOAでは、2009年度の新たな取り組みとして、地域貢献活動と環境活動の支援を同時に進めるため、従業員が地元の農業団体やフードバンクとともに、都市型農業地“The SUBARU Share the Love Garden”を開設しました。ここで従業員が育て、収穫した食物はフードバンクに寄贈し、飢餓撲滅活動に一役買っています。2009年度は約270kgの食物をSouth Jerseyのフードバンクに寄贈しました。

#### ■ 近隣地域の清掃活動と植樹活動

2009年10月、SCI関連会社のSOMIでは地元の他社ディーラーと協力し、Mississauga Litternot Programという清掃キャンペーンを実施しました。このキャンペーンは従業員がディーラー周囲2kmの道路清掃活動を行います。このキャンペーンは年に3回、2年連続で計6回開催されます。

RMIもまた、Earth Dayに会社近隣地域の清掃に取り組みました。

地域との共存を目指して、自分たちにできることから一歩ずつ取り組みを進めています。



Mississauga Litternot Programへの参加の様子

### Close Up

#### SIAがCSR賞受賞

SIAは、数々の社会貢献活動がラファイエット地域において将来につながる活動であるということが認められ、2009年10月にGreater Lafayette Commerceから、初の受賞者として“Corporate Social Responsibility Award”を受賞しました。



### Close Up

#### SRDが地域で日本文化を紹介「もちつき大会」を開催

2010年1月、SRDでは地元住民を招いてもちつき大会を開催しました。SRDの従業員がもちを準備し、つきたてのもちが振舞われました。遠方からの参加者もあり、600名以上が参加したこのイベントは地元のwebサイトでも取り上げられるほど盛り上がりました。そのほか、書き初めや折り紙、紙芝居など日本の伝統文化を地元住民に広めるよい機会となりました。



SRDのもちつき大会が掲載された地元のwebサイト

## 交通安全フェア

スバルでは、交通安全活動に積極的に取り組んでいます。なかでも若年ドライバーに対して、自身の行動に責任を持って交通事故を起こさない運転をするよう指導しています。交通事故の撲滅することが我々の使命だと考えています。北米5社はおの交通安全教育や指導を行っていますが、今回はSIAとSOAをご紹介します。

SIAでは2009年5月に、運転経験の浅い若年ドライバーを対象とした、SIA交通安全フェアを開催しました。フェアでは交通安全指導をはじめ、自動車のメンテナンス方法、チャイルドシートの取り付け方法を学びました。さらに、シートベルト効果確認の装置、飲酒運転体験ゴーグルを着用しての運転などで実際に体験することによって、シートベルト着用の重要性や飲酒運転の恐ろしさを体感しました。

SOAでは例年、ニュージャージー州安全委員会主催Alive at 25プログラムの支援を行っています。このプログラムは16～24歳の若年ドライバーの違反や交通事故を減らすために交通指導、ワークショップが実施されています。さらに、Bryn Mawr Rehab病院で交通安全指導を実施しています。飲酒運転などが原因で交通事故に遭った人と若者が、交流・対話をし、交通事故の恐ろしさを実感する貴重な機会を設けています。



シートベルト効果の確認中(SIA)



飲酒運転体験ゴーグルをかけての運転(SIA)



Alive at 25プログラムのイベントで使用されたフォレスター(SOA)

## 環境保全の取り組み

### 環境マネジメントシステム

北米環境委員会の5社はすべてISO 14001環境マネジメントシステムの認証を取得し、教育、訓練、特定施設の法令順守活動、内部監査など、汚染の未然防止と環境負荷の低減に向けた取り組みを進めています。

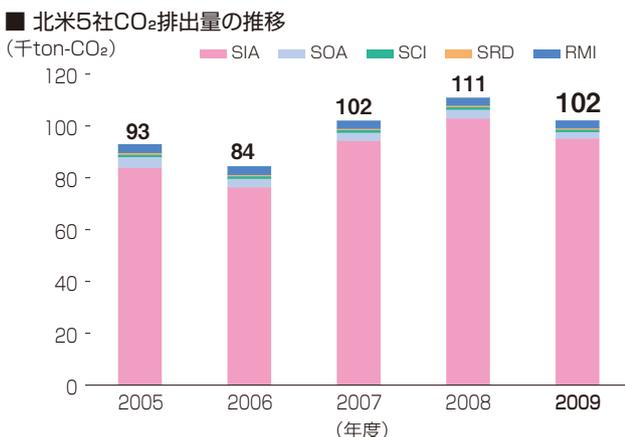
特にSIAでは1998年11月に認証取得しており、これは日本国内のスバル生産拠点である群馬製作所よりも4ヶ月早い取得でした。

また、2006年12月にはSIA・SOA・RMIの3社でさらに進んだ取り組みとして統合認証を取得しています。

### 地球温暖化防止への取り組み

深刻な問題である地球温暖化防止のため、各社さまざまな対策を推し進めてCO<sub>2</sub>総量の削減に努めています。

2009年度の北米5社のCO<sub>2</sub>総排出量は101,926ton-CO<sub>2</sub>で、2008年度の110,724ton-CO<sub>2</sub>に比べ約8%削減しました。なかでもSIAではこまめな省エネ活動により生産台数は増加しましたが、CO<sub>2</sub>の排出量は2008年度に比べ約8%削減しました。一台あたり原単位は2008年度の0.54ton-CO<sub>2</sub>/台から2009年度は0.49ton-CO<sub>2</sub>/台へと低減しました。過去5年間の推移は下記グラフをご参照ください。地球温暖化防止のため、さまざまな対策を推進し、総量の削減に努めていきます。



### Close Up

#### 4年連続 Waste Wise賞受賞

米国環境保護庁(EPA)からWaste Wise賞を2006年度から4年連続で受賞しました。2009年度は地域活動参加部門でのゴールド賞受賞でした。(2008年度は気候変化部門ゴールド賞、2007年度はリサイクル部門、2006年度は新人賞)



## ■ カーシェアリングの推奨

国土の広い北米では一堂に会す会議への参加にも飛行機を使うことがあります。SCIは2009年6月にケベック州で開催されたCanadian National Dealer Meetingへの参加は飛行機の代替手段として社有車でカーシェアリングを推奨しました。47名の参加者中、各エリアから33名がカーシェアリングをして現地へ赴きました。



カーシェアリングで会議に参加した参加者

## ■ STARSプログラム

SIAが実施しているSTARSプログラムは地元の学校、クラス、クラブの子どもたちをSIAに招きCO<sub>2</sub>削減をはじめとする環境保護教育を実施し、それを子どもたちが家で実践し、学校対抗で競争するプログラムです。すでに5,000名以上の生徒が参加しました。SIAはこのプログラムの資金提供をし、審査員も務めます。『教育』から『実践』へと、未来を担う子どもたちに環境保護活動に楽しく取り組む機会を与えています。



STARSプログラム参加者(SIA)

## ■ アースディ

北米各社は従業員の環境への意識を高め、エネルギー資源を保護するため、アースディ・アースアワーに参加しています。なかでもSCIでは独自にアース・ウィークエンドを設け、金曜日の仕事が終わった後、コンピュータの電源や仕事場の電気をオフにし、省エネ活動に従事しました。関連会社であるSOMIではアースウィークエンドに週末の夜間の照明を止めました。



アースディ  
ディーラーの照明オン  
(SOMI)

アースディ  
ディーラーの照明オフ  
(SOMI)

## 廃棄物削減への取り組み

2009年度の北米5社の総廃棄物埋立量は501.4トンとなり、2008年度544トンに比べ約8%削減しました。なお、自動車を生産しているSIAは2005年にゼロエミッションを達成し、現在も継続しています。過去5年間の推移は下記グラフをご参照下さい。各社は輸送時の梱包材のリターナブル化を進め、廃棄物そのものを減らす取り組みも行っています。

SCIではSOA・FHIと協力して再利用可能な部品用コンテナの検討を始めています。

SOAではさらに、自動車の売上増加によって廃棄物の発生量はわずかながら増加しましたが、工場内でのリサイクルが進み、2009年は埋立廃棄物を479トンまで減らすことができました。配送段階において折りたたみ式のリターナブルパレットを使用しています。この改善により、年間でダンボール40,000箱の削減になります。

### ■ 廃棄物埋立量



## Close Up

### 地元大学で「スバルアイデンティティ／日系企業の実践」を講演

地域貢献の一環で、ミシガン大学において、SRD総務課長である矢野氏による講演が行われました。環境関連での企業促進を目的とした学生組織、Michigan Green Entrepreneur Groupに向けて「スバルアイデンティティ／日系企業の実践」というタイトルで、スバルの最近の環境/CSR活動や日本人の就業感、日本が優れているモノづくりの創意工夫について講演し、好評を博しました。



講演するSRD総務課長 矢野氏



				2009年 6月 守りのCSRと攻めのCSRの考え方に 基づいて「CSR方針」を改定	C S R
				2009年 8月 「CSRレポート」を「社会・環境報告書」から 改称して発行	
	2006年 8月 第4次環境ボランタリープラン (2007-2011年度)公表			2009年 1月 東京スバル(株) エコアクション21 認証取得	環 境
			2008年 12月 環境総合展示会「エコプロダクツ2008」 に初出展	2010年 2月 ISO14001 統合認証  2010年 3月 「環境方針」を改定 	
		2007			
2006			2008 SUBARU生誕50周年	2009	
				2010	
	2006年 6月 次世代型電気自動車 スバルR1eを東京電力に納車	2007年 7月 3代目インプレッサ発売	2008年 6月 エクシーガ発売	2009年 5月 5代目レガシイ発売	自 動 車
					
	2006年 6月 軽自動車ステラ発売	2007年 12月 3代目フォレスター発売	2008年 11月 DEX発売	2009年 7月 高性能リチウムイオン電池搭載電気自動車 プラグイン ステラ発売	自 動 車 以 外
				2010年 4月 軽自動車ルクラ、プレオ発売	
		2007年 1月 Boeing787 中央翼 初号機納入		2010年 3月 サービスエリア清掃 ロボットシステムを共同開発	自 動 車 以 外
		2007年 2月 充電式草刈機e-カッターPRO発売		2010年 4月 電動式塵芥収集車 フジマイティイーエレクトラ発売	
					



株式会社創コンサルティング  
代表取締役  
**海野みづえ**

本年は、富士重工業の東京事業所での開発関係の取り組みと（販売）特約店での環境と顧客対応について伺いました。今後とも海外を含めた富士重工業の社員全員がCSRの意識を持ち続けていくよう、継続して取り組んでください。

## CSR活動の全体

2009年にCSR方針を改定しましたので、今後のCSR活動はこれに基づき具体的なCSRボランタリープランを策定し実施の方向を明確化していくことにあります。現在CSR活動全体について、レビューを行っているところと伺っていますので、これを着実に全社でCSRの重点課題を共有していくようにしてください。

また体制について、これまでのCSR・環境委員会の見直しを行うということです。CSRは環境課題を含み事業活動全体に広範にかかわるテーマですので、CSRを上位概念として主要な活動がここに組み入れられる体制が必要です。

重点課題を検討する際には、CSRの基本項目だけでなく戦略部分（攻め）についても考慮にいれ事業計画とリンクしたプランにすることで、社員の意識向上にもなります。例えば環境や安全性能はすでに自動車開発や設計の段階から組み込まれています。ボランタリープランには既に行っているこうした点も含んでいかれるといいでしょう。

## トピック別の活動

### ■CSR調達

自動車業界としての共同のガイドラインの状況を踏まえ、グリーン調達からCSR調達への展開の準備段階にあります。サプライヤーへのガイドラインを提示する以上はまずは自社からということで、CSRボランタリープランの策定とその実施が急がれます。そのうえで、業界他社との協力や進捗をわきまえながら対応を進めてください。

昨今中国の工場での労使問題がクローズアップされています。富士重工業では自動車部門では対象にならないものの、産業機器部門の中国工場やそのサプライヤーがこの課題に直面しています。海外工場での課題は現地社員とのコミュニケーションにありますので、こうした状況まで踏まえたCSRに留意してください。

### ■特約店のCSR活動

顧客ともっとも強い接点をもつ特約店において、環境の意識と顧客対応活動に力を入れており、その成果が見えてきました。環境活動については、エコアクション21の取得をマイルストーンとして事業所内の環境推進をはかるだけでなく、PDCAサイクルを回すマネジメントの定着にもなっています。この意

識が販売員や整備員に根付けば、環境活動だけでなくコンプライアンスや顧客・地域への配慮といったCSR全般の意識を特約店の隅々まで広げるベースになるでしょう。まずは先進的な特約店からはじめ、今後は全国各地の販売会社さらには各店舗にまで展開してください。

また今年は市場が拡大している中国でのCS向上について取り上げており、意識の拡大がみられます。こうした海外の活動もCSRボランタリープランの対象に加え、今後は計画と進捗を全社のマネジメントのなかに組み込んでください。

### ■CSR活動の3つの柱

共通項目である「環境、交通安全、地域貢献」の3分野のうち交通安全については、具体的な展開の必要性を昨年指摘したところですが、その後も対策が十分にとられていないので、この先の課題として展開していくよう意識してください。

## 報告の媒体と内容

毎年記載内容だけでなく、報告の媒体と様式に工夫がされており、課題を整理するとともに読者にわかりやすく伝える考慮があります。冊子のダイジェスト版については、主要な項目をどう絞るかがポイントですが、まだその方針がはっきりはしていないようです。これもボランタリープランの策定による部分が多いので、次年度ではこれも踏まえて報告作成に努めてください。またwebでの情報開示については、報告書形式でなくHTMLでアクセスがしやすいスタイルとすることも必要でしょう。これはweb上の企業情報全体のなかで位置づけることとなりますので、トップページからのアクセスなど広報と連携したCSR情報開示についても検討してください。

### プロフィール

海野 みづえ  
株式会社創コンサルティング 代表取締役  
<http://www.sotech.co.jp>

経営コンサルティング会社に勤務の後、1996年に創コンサルティングを設立。日本企業のグローバル経営に視点を置き、独自の分析眼で環境・CSR分野での経営のあり方を提言、企業活動の実務をサポートしている。東京大学大学院非常勤講師。著書に、「グローバルCSR調達」、2006年（共著）、「SRIと新しい企業・金融」、2007年（共著）、「企業の社会的責任 [CSR] の基本がよくわかる本」、2008年などがある。

## 第三者評価をいただいて

昨年に引き続き、株式会社創コンサルティングの海野みづえさまに、当社CSR・環境委員会委員長の奥原代表取締役副社長、同副委員長の高橋専務執行役員に対するトップインタビューや東京事業所・スバル販売特約店でのヒアリングを通じ、スバルの社会性および環境活動を客観的に評価していただきました。

いただいたご意見は真摯に受け止めて、CSR活動のレベルアップを図っていきます。

### (1) CSR活動全般

CSRの重点課題を明確にし、CSRボランティアプランを検討・策定します。また、その重点課題を確実にマネジメントできる体制を検討し、CSR・環境委員会の見直しを行います。

### (2) CSR個別テーマ

#### ① CSR調達

産業界およびISO26000／SR(組織の社会的責任ガイドライン規格)などの状況を踏まえ、2011年度CSR調達ガイドライン策定に向け準備を進めます。

#### ② 特約店のCSR活動

スバル販売特約店のエコアクション21は2009年度末、全

45社中20社が認証取得しました。引き続きスバル販売特約店のエコアクション21認証取得を支援します。

### ③ CSR活動の3つの柱

CSR活動の3つの柱「環境、交通安全、地域貢献」の3分野のうち交通安全は、「輸送機器メーカーとしての責任を強く認識して世の中の交通事故削減のために努力し、交通違反と交通事故(加害)のゼロ化に努める」という考え方のもと、安全運転教室などさまざまな活動を進めています。今後は、富士重工業として交通安全活動の報告のあり方を検討し、活動効果の拡大を図ります。

### (3) CSRレポートの媒体と内容

CSRレポートはwebと冊子があります。webはフルレポートとして各事業所・製作所の取り組みも含め、当社グループのCSR活動を網羅的に掲載し、冊子はダイジェストとして当社グループのCSR活動をポイントを絞って掲載しています。冊子における掲載項目の絞り込みについてより明確化します。

webでの掲載については、アクセスしやすい方式を検討します。

### 環境シンボルマークについて



2005年6月に、当社はスバルグループの環境シンボルマークを設定しました。マークの中心に「葉」をデザインし、「緑の大地」と「青い空」の地球をコンセプトとし、積極的に環境保全に取り組む想いをこのマークに込めています。



### 表紙のデザインについて

環境にやさしいクルマづくり、クリーンエネルギーの創出など、スバルが事業活動を通じて地球環境保全に貢献している姿を、クルマ・風車・自然の写真の融合で表現しています。

～編集・発行～

富士重工業株式会社 総務部 環境推進室

お問い合わせ先 ● TEL 03-3347-2036 FAX 03-3347-2015

制作支援 ● 日本ビジネスアート株式会社

# 富士重工業株式会社

Fuji Heavy Industries Ltd.

〒160-8316

東京都新宿区西新宿一丁目7番2号

2010年8月発行